

国立国語研究所学術情報リポジトリ

II.6.

場面6：確認行動と断わり行動における談話展開様式

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水谷, 修 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002338

II. 6. 場面6：確認行動と断わり行動における談話展開様式

尾崎 喜光

- II. 6. 0. はじめに
- II. 6. 1. 被調査者
- II. 6. 2. 非言語行動により伝達される発話内容・発話意図・印象
 - II. 6. 2. 1. 確認行動に随伴する非言語行動
 - II. 6. 2. 1. 1. 被調査者の想像する発話内容
 - II. 6. 2. 1. 2. 被調査者の印象
 - II. 6. 2. 2. 応答行動に随伴する<笑い>
 - II. 6. 2. 2. 1. 被調査者の印象
 - II. 6. 2. 2. 2. 被調査者が受ける発話意図
- II. 6. 3. 談話展開様式により伝達される発話意図・印象
 - II. 6. 3. 1. すぐに用件を切り出す（確認行動をする）談話展開様式
 - II. 6. 3. 1. 1. 被調査者による評価
 - II. 6. 3. 1. 2. 対照国の人々の談話展開様式
 - II. 6. 3. 1. 3. 対照国の人々による評価
 - II. 6. 3. 1. 4. 日本人による評価
 - II. 6. 3. 2. 関連性の低い事柄への話題転換および随伴する<笑い>
 - II. 6. 3. 2. 1. 被調査者が受ける発話意図
 - II. 6. 3. 2. 2. 被調査者の印象
 - II. 6. 3. 2. 3. 対照国の人々の理解
 - II. 6. 3. 2. 4. 対照国の人々の印象
 - II. 6. 3. 3. 諾否が不明瞭な応答
 - II. 6. 3. 3. 1. 被調査者が受ける発話意図
 - II. 6. 3. 3. 2. 被調査者の印象
 - II. 6. 3. 3. 3. 対照国の人々の理解
 - II. 6. 3. 3. 4. 対照国の人々の印象
 - II. 6. 3. 4. 断わり行動の回避を目的とする関連性の低い事柄への話題転換
 - II. 6. 3. 4. 1. 被調査者の印象
 - II. 6. 3. 4. 2. 談話展開様式の日外比較
 - II. 6. 3. 4. 3. 対照国の人々の談話展開様式
 - II. 6. 3. 5. 断わり行動に随伴する<笑い>
 - II. 6. 3. 5. 1. 日本人による評価
 - II. 6. 3. 5. 2. 対照国の人々による評価
- II. 6. 4. 談話展開様式の違い等に起因する現住国での言語摩擦の経験
 - II. 6. 4. 1. 断わり行動の明瞭さに起因するとまどい
 - II. 6. 4. 2. 諾否の不明瞭さに起因するとまどい
 - II. 6. 4. 3. 関連性の低い事柄への話題転換や<笑い>に起因するとまどい
 - II. 6. 4. 4. 自他の了解のくい違いの経験
- II. 6. 5. まとめ

II.6.0. はじめに

本章では、映像刺激調査の「場面6」で問題にした<確認行動>と<断わり行動>における談話展開様式の日外の比較を行なう。

例えば知人にある頼み事をして後日その返事を相手から確認するような場合、日本人は一般にいきなりその話題から入ることをせず、まずは当たり障りのない天候の話題や世間話などをひとしきりしてからやおら本題に入る、という談話展開様式をとることが多い。こうした言語行動は日本人に特徴的なものとしてしばしば指摘される。

また、やはり日本人に特徴的だと指摘される言語行動のひとつに「あいまいな返事」がある。例えば相手から誘いを受けてそれを断わるような場合、その場ではっきりと断わずに回答を先延ばしにしたり、たとえ言う場合でもそれとはっきりと言わず婉曲に断わったり、相手の察しにまかせてあいまいな返事をしたり直接関係の無い別の話題に転じたり、という談話展開様式をとることが少なくない。こうした言語行動を日本人が外国人に対して行なったために、相手の外国人は自分の誘いを日本人が受けてくれたと勘違いした、というような事例はよく聞く。

また、そうした断わりにくい断わりを言わなければならない状況では「あいまいな笑い」もしばしば随伴し、外国人からは、相手の日本人の真意がはかりかねて不可解だとよく指摘される。

本章で報告する「場面6」では、こうした日本人の談話展開様式をめぐり、それらを外国人は一般にどう受け止めていると被調査者は意識しているか、当の日本人は一般にどう受け止めていると被調査者は意識しているか、外国人の被調査者自身はそのような場合どうするか、日本人の被調査者自身だったらどうするか等を尋ね、国際比較を行なった。なお、対面場面での話し言葉においては、情報を伝達するのは言語だけでなく、表情や姿勢等の非言語もその役割の一端を担っている。そこで、非言語行動により伝達される情報がどのようなものであるかということについても合わせて調査した。

被調査者に提示した「場面6」の映像の内容を簡単に紹介すると次のとおりである。なおスクリプトと映像のイラストについては、本報告書の『資料編』のp.6に示してあるので合わせて参照されたい。

若い男性二人が、2～3日前に中年の夫婦にある依頼をした。若い男性二人は、その返事を夫から聞くためにその家に来た。男性二人と中年の夫は和室でテーブルを挟んで向かい合って座っている。若い男性の一人（映像では奥側の男性[=M1]）が、部屋に入ってすぐに、奥さんに話してもらえたかどうか夫に尋ねる。それに対し夫は明確な返事をせず、笑いながら話題をそらして応じる。（実は依頼を断わることになっている）

本章では「場面6」の調査項目全てについて、調査票に出てくる順番に従って結果を報告する。ただし今回の報告では、被調査者から得られた直接的な回答の部分の分析にとどめ、関連して得られたさまざまなコメントについての分析は次の段階にゆずることとする。すなわち今回は、比較的表層的かつ数量的な側面から見えてくる談話展開様式の姿の分析、ということになる。

なお、本来であれば、こうした領域における先行研究の結果と比較しつつ分析を進めるべきところであるが、本章では、調査で得られた結果の報告そのものに主眼を置き、先行研究との関連等については今後のより詳しい考察にゆずることとする。

II.6.1. 被調査者

被調査者の人数は「場面」ごとに異なる。「場面6」の人数は、在外日本人が211人、在日外国人が159人、国内日本人が60人である。

談話展開様式や言語行動の違い、あるいはそれに関する価値評価の違いを生じさせる要因には、母国がどこであるか（あるいは母語が何語であるか）とか、滞在国はどこであるかといった、地球規模での「地域差」にもとづく違いが大きかろう（例えば在伯日本人と在日ブラジル人と国内日本人の違い）。しかしその一方で、言語や文化や国の違いを越えた違い、例えば「性差」や「年齢差」や「滞在年数差」にもとづく違いなどもあると考えられる。そこで本章では、「地域差」に加え「性差」「年齢差」「滞在年数差」からの分析も、全ての調査項目について試みた。なお、言語事象を言語外的事象との関係から考えて行くためには、本来であれば、言語外的事象同士の関係も考慮に入れ、例えば「<在伯日本人>の<男性>の<40代>の<長期滞在者>の場合」などと細かく分けて分析を進めて行くべきところであるが、今回はそこまで踏み込まないことにする。

本章で分析の観点の一つとした被調査者の「滞在年数」（調査実施国での滞在年数）については、フェイスシートで得られた情報をいくつかのカテゴリーに分けて分析を行なった。今回は分析の観点としないが、これと関連する調査実施国以外での「海外滞在年数」およびそれらを合算した「海外通算滞在年数」の分布も考慮に入れつつ、①どのカテゴリーにもある程度の人数が確保できること、②カテゴリーの区切りは比較的まとまりのあるものであること、という2つの基準でカテゴリー化を行ない、次の5つのカテゴリーを設定した。

「短短(0年<X<2年)」

「短中(2年≤X<5年)」

「中中(5年≤X<10年)」

「中長(10年≤X<20年)」

「長長(20年≤X)」

「場面6」の被調査者の属性から見た分布は図表II-6-2・-3のとおりである。なお、表中のBRはブラジル、FRはフランス、USはアメリカ、KRは韓国、VNはベトナム、JPは日本、外は外国全体、の意である。これらを結合した例えば「BRJP」は「ブラジル在住の日本人（在伯日本人）」の意である（間に「の」を入れて理解されたい）。

「年齢層」については、在外日本人（外JP）および国内日本人（JPJP）は20代から60代まで10年刻みの5つのカテゴリー、在日外国人（JP外）は20代から40代まで10年刻みの3つのカテゴリーとした。この範囲から外れる被調査者が若干名いたが、大きく外れることはなかったので分析対象から除外せず、便宜上次のように直近の年齢層に含めた。

在外日本人（外JP）：70代（3人）→60代

在日外国人（JP外）：10代（1人）→20代

図表Ⅱ-6-2 「場面6」の被調査者の属性（日本人）

		BRJP	FRJP	USJP	KRJP	VNJP	外JP	JPJP
合 計		30	41	40	54	46	211	60
性 別	男性	19	12	11	24	22	88	24
	女性	11	29	29	30	24	123	36
年 齢 層 別	20代	0	7	4	8	32	51	15
	30代	7	22	13	24	10	76	16
	40代	5	10	10	17	3	45	13
	50代	10	1	3	5	0	19	8
	60代	8	1	10	0	1	20	8
滞 在 年 数	短短(0年<X<2年)	0	16	5	26	34	81	—
	短中(2年≤X<5年)	4	6	7	23	8	48	—
	中中(5年≤X<10年)	7	12	6	3	1	29	—
	中長(10年≤X<20年)	5	5	10	2	1	23	—
	長長(20年≤X)	14	1	11	0	0	26	—
	不明	0	1	1	0	2	4	—
海 外 年 数	無し(0年)	21	28	29	41	28	147	—
	短(0年<X<3年)	4	7	5	10	10	36	—
	長(3年≤X)	5	5	5	2	7	24	—
	不明	0	1	1	1	1	4	—
通 算 海 外 年 数	短短(0年<X<2年)	0	13	3	22	25	63	—
	短中(2年≤X<5年)	3	5	6	25	12	51	—
	中中(5年≤X<10年)	5	14	8	5	5	37	—
	中長(10年≤X<20年)	5	6	11	2	2	26	—
	長長(20年≤X)	17	2	11	0	0	30	—
	不明	0	1	1	0	2	4	—

50代(4人)→40代

国内日本人(JPJP):10代(1人)→20代

70代(2人)→60代

図表Ⅱ-6-2・-3を構成比で示したのが、図表Ⅱ-6-4-1等のグラフである。

グループによる違いのうちおもな点を指摘する。なおここでの指摘は、言語項目の分析でグラフを読む際注意すべき点となる。

(1) 性別による分布(図表Ⅱ-6-4-1参照)

在外日本人(外JP)については、BRJPで男性が多いのに対し、FRJPとUSJPで女性が多い。在日外国人(JP外)については、JPUSとJPVNで男性が多いのに対し、JPBRで女性が多い。国内日本人(JPJP)は女性がやや多い。

図表Ⅱ-6-4-2は、在外日本人(外JP)について、どこに在住している被調査者がどれく

図表Ⅱ-6-3 「場面6」の被調査者の属性（外国人）

		JPBR	JPFR	JPUS	JKR	JPVN	JP外
合 計		32	30	32	31	34	159
性 別	男性	11	14	20	12	25	82
	女性	21	16	12	19	9	77
年 齢 層 別	20代	13	7	19	13	25	77
	30代	11	9	11	14	9	54
	40代	8	14	2	4	0	28
	50代	0	0	0	0	0	0
	60代	0	0	0	0	0	0
滞 在 年 数	短短(0年<X<2年)	5	6	6	10	15	42
	短中(2年≤X<5年)	6	4	21	13	12	56
	中中(5年≤X<10年)	16	10	2	6	6	40
	中長(10年≤X<20年)	2	4	2	2	0	10
	長長(20年≤X)	0	6	0	0	0	6
	不明	3	0	1	0	1	5
海 外 年 数	無し(0年)	30	13	24	26	30	123
	短(0年<X<3年)	2	8	7	5	0	22
	長(3年≤X<21年)	0	8	1	0	4	13
	不明	0	1	0	0	0	1
通 算 海 外 年 数	短短(0年<X<2年)	5	6	5	9	13	38
	短中(2年≤X<5年)	6	2	20	14	11	53
	中中(5年≤X<10年)	16	7	4	6	9	42
	中長(10年≤X<20年)	2	9	2	2	0	15
	長長(20年≤X)	0	6	0	0	0	6
	不明	3	0	1	0	1	5

らいろいろかを、男女別に構成比で示したものである。男性はブラジル・韓国・ベトナムでの在住者の比率が高い。それに対し女性は比較的全体に分散しているが、ブラジル在住者の比率が低い。

図表Ⅱ-6-4-3は、在日外国人（JP外）について、どの国を母国とする被調査者がどれくらいいるかを構成比で示したものである。男性はベトナム人の比率が高い。それに対し女性は比較的全体に分散しているが、ベトナム人の比率が低い。

（2）年齢層による分布（図表Ⅱ-6-5-1参照）

在外日本人（外JP）については、BRJPとUSJPはあまり片寄りなく幅広く分布しているのに対し、VNJPは20代への集中が著しい。

在日外国人（JP外）の分布域は20代～40代である。JPBRとJPFRがあまり片寄りなく幅広く分布しているのに対し、JPUSとJPVNは20代への集中が著しい。

国内日本人（JPJP）はほぼ全体に分散している。

図表Ⅱ-6-5-2は、在外日本人（外JP）について、どこに在住している被調査者がどれくらいいるかを、年齢層別に構成比で示したものである。20代はベトナムへの集中が著しく約6割を占めるのに対し、ブラジルやアメリカは少ない（特にブラジルはゼロ）。30代・40代は比較的全体に分布しているが、それ以上になると再び片寄りが見られ、50代ではブラジルへ、60代ではブラジルとアメリカへの集中が著しい。

図表Ⅱ-6-5-3は、在日外国人（JP外）について、どの国を母国とする被調査者がどれくらいいるかを示したものである。20代ではややベトナム人が多く逆にフランス人が少ない。30代はほぼ全体に分布している。40代はフランス人への集中が著しく半数を占めるのに対し、アメリカ人やベトナム人の比率は低い（特にベトナム人はゼロ）。

（3）現住国滞在年数による分布（図表Ⅱ-6-6-1参照）

在外日本人（外JP）については、BRJPとFRJPとUSJPはあまり片寄りなく幅広く分布しているのに対し、KRJPとVNJPは「短短」「短中」への集中が著しい。

在日外国人（JP外）については、全体的に分散の傾向にあるが、JPBRとJPFRは「中中」に、JPUSとJPKRは「短中」にやや傾く。なおJPVNは「短短」にやや傾く。

図表Ⅱ-6-6-2は、在外日本人（外JP）について、どこに在住している被調査者がどれくらいいるかを、滞在年数別に構成比で示したものである。「短短」はベトナムと韓国への集中が著しく、ブラジルやアメリカは少ない（特にブラジルはゼロ）。「短中」は韓国への集中が著しく半数近くを占める。「中中」はフランス、「中長」はアメリカの比率が高く、逆に韓国・ベトナムは非常に少ない。「長長」はブラジルとアメリカでほとんどを占め、他の国は極めて少ない。

図表Ⅱ-6-6-3は、在日外国人（JP外）について母国の比率を示したものである。「短短」はベトナム人がやや多い。「短中」はアメリカ人が多く、逆にフランス人が少ない。「中中」はブラジル人が多く、逆にアメリカ人が少ない。「中長」はフランス人が多く、逆にベトナム人はゼロである。「長長」はわずか6人であるが全員フランス人である。以下の分析でも一応グラフには示すが、他との比較の際には注意を要する。

（4）現住国以外の海外滞在年数による分布（図表Ⅱ-6-7参照）

在外日本人（外JP）・在日外国人（JP外）ともに「無し」が大きな比率を占めている。特にJPBRとJPVNで著しい。それに対しJPFRは、「短」や「長」もある程度の比率を占めている。なお、この観点からの分析は今回は特に行なわないので、年数カテゴリーごとの国別構成比を示すことは省略する（次の（5）も同様）。

（5）通算海外滞在年数別について（図表Ⅱ-6-8参照）

上記の（3）と（4）を合算した年数である。（4）で「無し」が多いため（3）と大差ない。

以上、おもな点を指摘した。

なお、在日ブラジル人には日系人が少なからず含まれているので分析の際には注意を要する。外国語との対照研究という純粋に学問的な観点から言えばこれは望ましいことでは

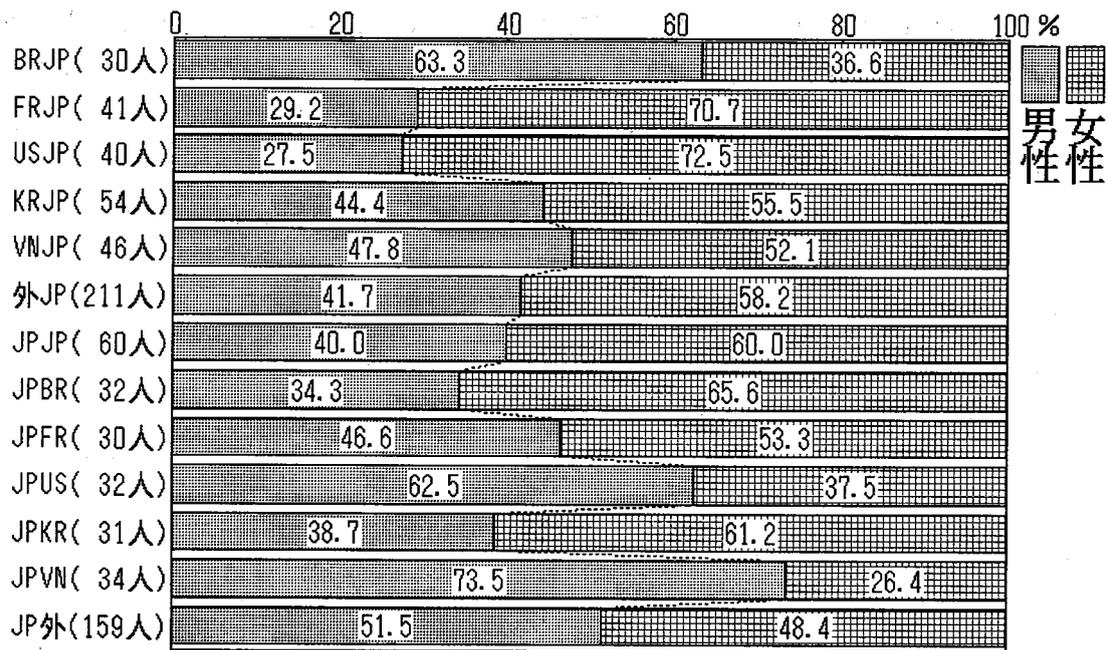
ない。しかしながら、現在の日本において在日ブラジル人の中には日系人が多くの割合を占めているという現実の社会状況を考えるならば、非日系人にこだわりそれだけを調査対象にしていたのでは現実の言語問題の解決に結びつかないという面もある。そこで、本調査では日系人を排除せず被調査者に含めることとした。

フェイスシート項目にある「父親／母親の第一言語」により、「場面6」の在日ブラジル人（JPBR：32人）に占める日系人の人数を示すと次のとおりである。

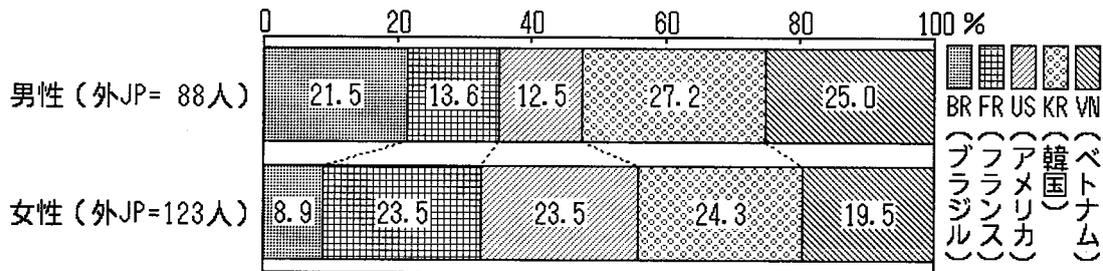
- ・両親ともに日本語……………12人
- ・父親のみ日本語…………… 6人
- ・母親のみ日本語…………… 1人

親の言語的背景が日本語である被調査者は合計で19人である。これは全体の約6割にあたる。以下に示す調査結果の中で、在日ブラジル人の回答が日本人に近い傾向を示すものがあるが、その一因はここにある可能性がある。

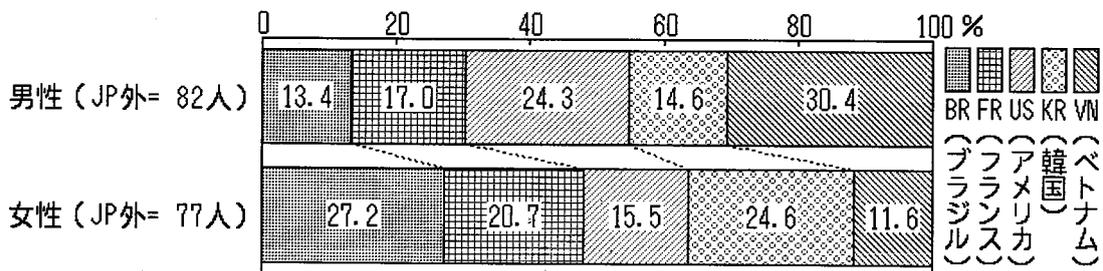
在日ブラジル人以外の在日外国人（JP外）については日系人は極めて少なく、わずかに在日アメリカ人（JPUS：32人）に2人存在するのみであった（いずれも母親のみ母語が日本語）。



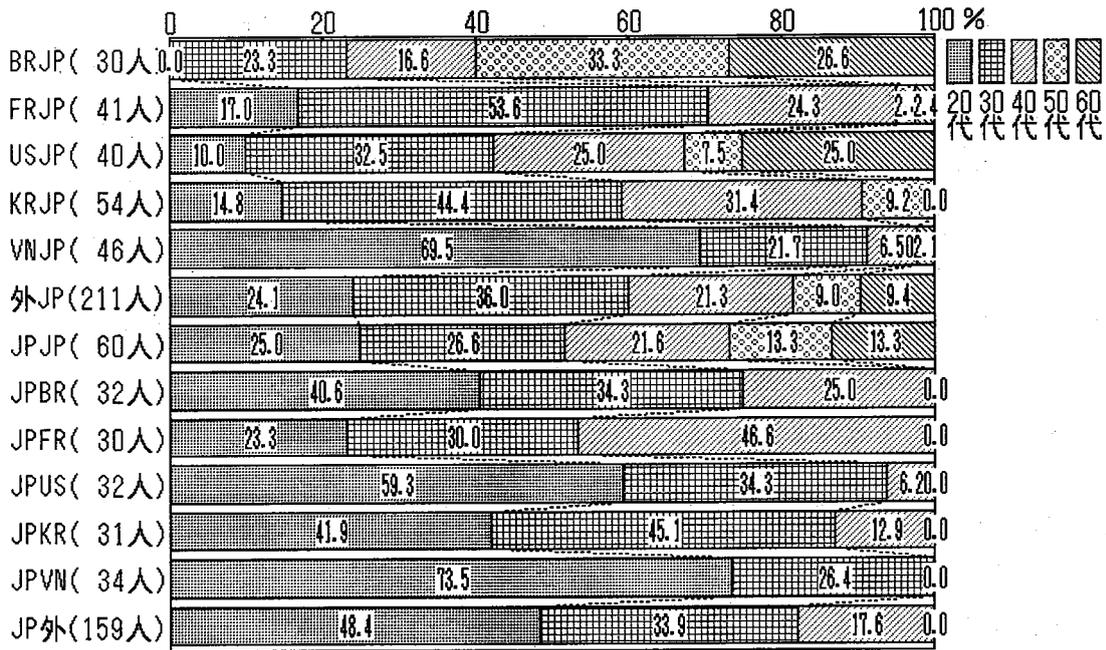
図表Ⅱ-6-4-1 「場面6」の被調査者の性別構成比



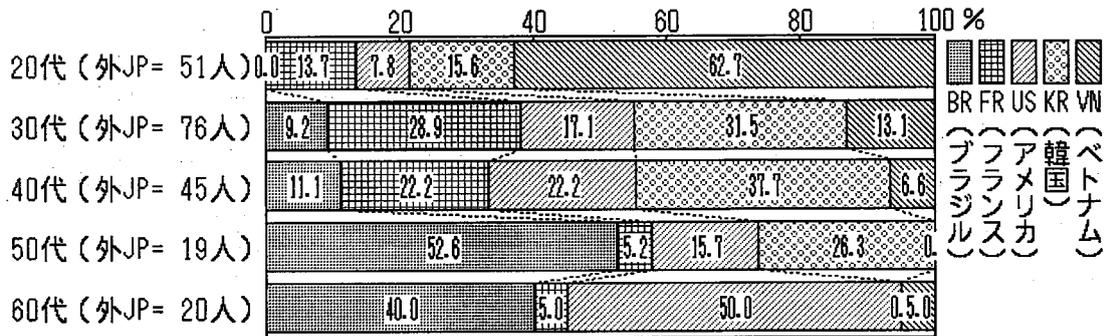
図表Ⅱ-6-4-2 「場面6」の被調査者の性別×滞在国別構成比 (在外日本人)



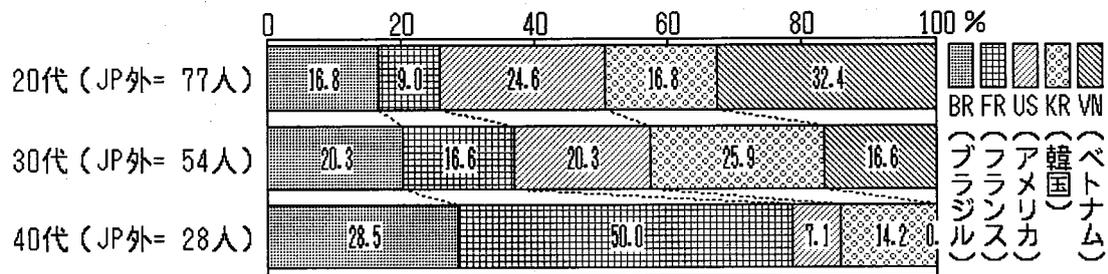
図表Ⅱ-6-4-3 「場面6」の被調査者の性別×母国別構成比 (在日外国人)



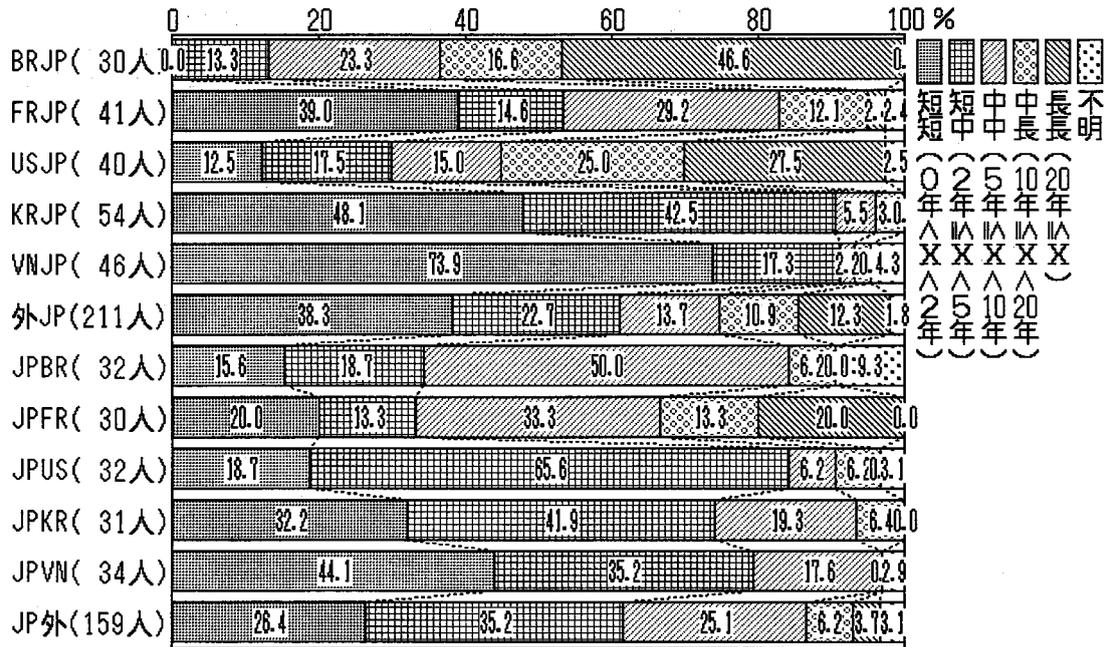
図表 II-6-5-1 「場面6」の被調査者の年齢層別構成比



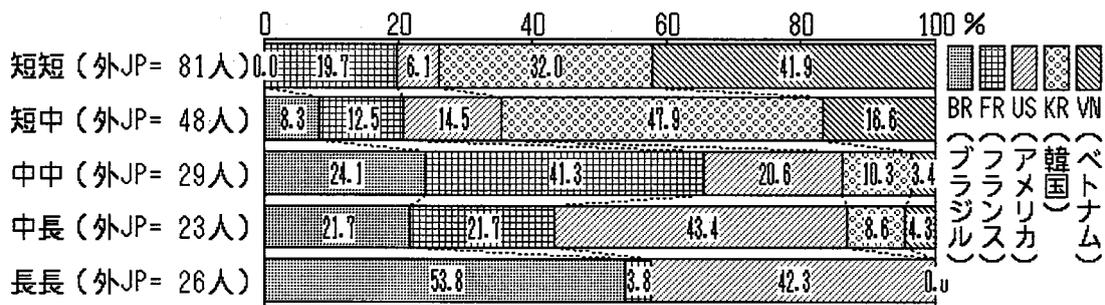
図表 II-6-5-2 「場面6」の被調査者の年齢層別×滞在国別構成比(在外日本人)



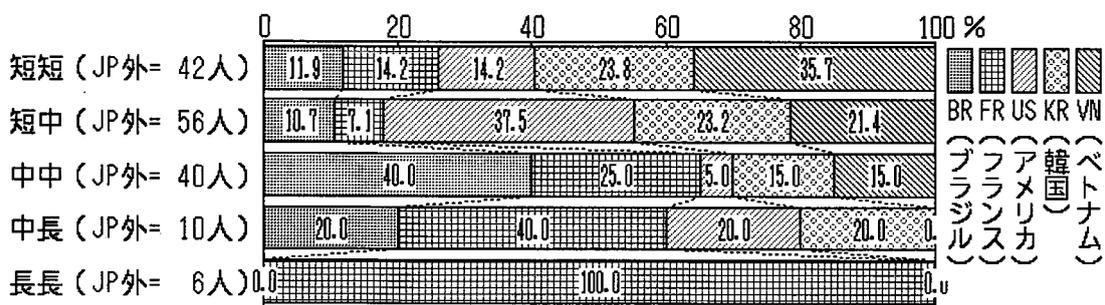
図表 II-6-5-3 「場面6」の被調査者の年齢層別×母国別構成比(在日外国人)



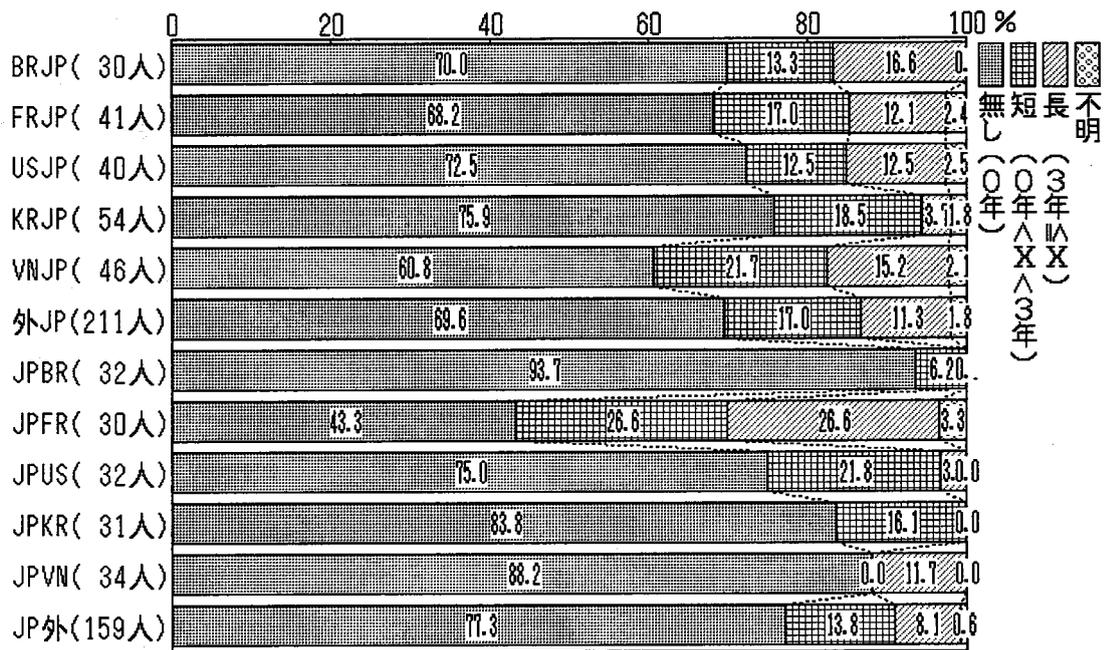
図表Ⅱ-6-6-1 「場面6」の被調査者の現住国滞在年数別構成比



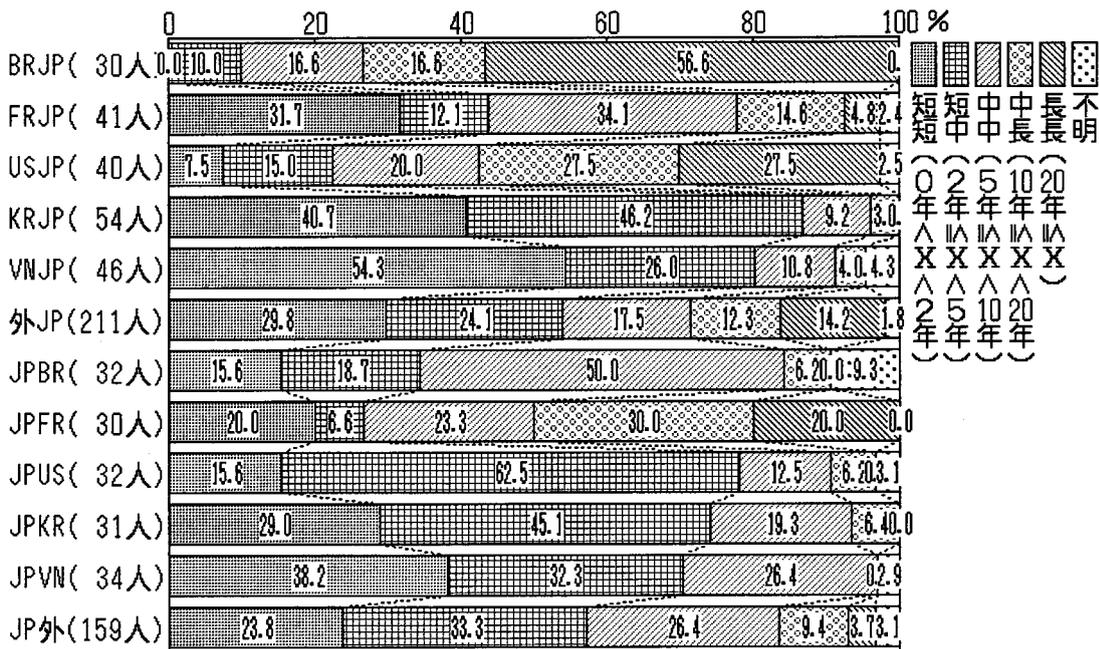
図表Ⅱ-6-6-2 「場面6」の被調査者の現住国滞在年数別×滞在国内別構成比 (在外日本人)



図表Ⅱ-6-6-3 「場面6」の被調査者の現住国滞在年数別×母国別構成比 (在外日本人)



図表Ⅱ-6-7 「場面6」の被調査者の現住国以外の海外滞在年数別構成比



図表Ⅱ-6-8 「場面6」の被調査者の通算海外滞在年数別構成比

Ⅱ.6.2. 非言語行動により伝達される発話内容・発話意図・印象

言語は我々の意思伝達において重要な役割を果たしている。しかし情報を伝える媒体は言語だけではない。対面コミュニケーションにおいては、顔の表情や姿勢・身振りもまた、話し手の意思や感情を伝達する重要な手段として機能している。外国人とのコミュニケーション場面においても、たとえ相手の言語が分からなくても、そうした非言語的なものから情報が伝達される面があると考えられる。

そこで、まず音声を消して映像のみを被調査者に提示し、非言語だけでどのような情報や印象が伝達されるか、もう少し正確に言うと、どのような情報として（どのような発話形式や発話内容として）相手に理解されまた対人的印象が形成されるか、そしてそれは日本人と外国人とで違いが在るのか無いのか、という点について調べた。

Ⅱ.6.2.1. 確認行動に随伴する非言語行動

「場面6」で提示した映像では、若い男性（『資料編』p.6のイラストのM1）が相手の家に来て部屋に上がってすぐに話し始める場面がまず出てくる。その若い男性は、以前相手に頼んだ事が実現してもらえそうかどうかを確認しているのであるが、その時の非言語行動から伝達される発話内容や印象をまず尋ねた。質問は、〈発話内容〉と〈印象〉に分けて行なった。

Ⅱ.6.2.1.1. 被調査者の想像する発話内容

非言語行動から伝達される発話内容についてまず質問した。回答は自由形式である。

被調査者には音声無しの映像（若い男性がまず話し中年男性が笑って応じるところまでの映像）を2度くりかえして見てもらった。

なお、この質問をする前に、イントロダクションとして次のような背景的な説明を加えている。

若い男性二人が、2～3日まえに中年の夫婦に頼みごとをしました。この返事を夫から聞くためにその家に来ている場面です。結論として断られるかどうかはまだわからないという気持ちで見てください。

[質問文]

6.1.1. こちらの若い男性は、相手の家に来て部屋に上がってすぐに話し始めているのですが、どんなことを言っているように見えましたか？

地域別集計【図表Ⅱ-6-9-1】

地域別に集計した結果は図表Ⅱ-6-9-1のとおりであった（なおタイトル末尾の [6.1.1] は調査票の設問番号に対応する；以下同様）。

さまざまな回答が得られたが、それらを内容の点から分類すると、おもな回答は「関係形成」「回答要求」「再度の依頼」の3種類であった（凡例の「ND」は no data の意で、無回答や時間の制約でそもそも質問しなかったケース）。このうち「関係形成」というのは挨拶・感謝・詫び・雑談等である。

導入の説明もあるため「回答要求」の発話と理解する割合がどの地域でも高い。しかし、順序としてはもう一つ前の段階の「関係形成」の発話と理解する人もおり、全体としてそれは日本人（在外日本人・国内日本人）よりも在日外国人に多い。ここに日外の違いが観察される。

日本人が話す映像を見て回答を求めているので、在日外国人の被調査者も、自国人ならあるいは自分なら何を言うかではなく、当然その映像の日本人が何を言っていると思うかということで回答してくれたはずである。在日外国人の回答に「関係形成」が少なくないのは、「日本人なら何はともあれまず挨拶から始めるはずだ」と外国人に受け止められやすいことに起因する結果であろうか。

なお、イントロダクションの内容を理解していれば「再度の依頼」という回答は考えにくいのだが、実際には日外とも多少存在する。

性別集計【図表Ⅱ-6-9-2】

次に性別の点から結果を見てみよう。ただし、在外日本人・国内日本人・在日外国人全てを合算して男女別に集計するのは乱暴に過ぎるので、在外日本人・国内日本人・在日外国人に分けて男女別に集計した（以下の設問でも同様）。

日外に共通する明瞭な性差は認めにくいだが、在外日本人（外JP）と在日外国人（JP外）では「関係形成」がいくぶん男性に傾くのが注目される。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-9-3】

次に年齢層別の点から結果を見てみよう。ただしここでも、在外日本人・国内日本人・在日外国人に分けて年齢層別に集計した。なお在日外国人のカテゴリーは「20代」「30代」「40代」の3つである。

日外に共通する年齢差は認めにくい。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-9-4】

次に現住国での滞在年数別の点から結果を見てみよう。ここでも、在外日本人・在日外国人に分けて滞在年数別に集計した。なお、国内日本人は外国での滞在経験の無い者を調査対象としたので、この集計には該当しない。

在外日本人では年齢差は認められないが、在日外国人では滞在年数が長くなるほど「関係形成」が多くなる（ただし「中長」「長長」は母数が少ないため不安定な数値である）。日本での滞在が長い者ほど日本人とのつきあいが長いわけであり、その経験の中で、日本人はどんな状況の時でもまずは挨拶をする、という観察にもとづく反応であろうか。

Ⅱ.6.2.1.2. 被調査者の印象

先の設問では、発話や発話内容といういわば「知的側面」に関して伝達される情報を尋ねたが、次に主として「情的側面」に関して伝達される情報を尋ねた。国際間の言語摩擦では、「相手の言いたいことは十分分かるけれども、声の出し方や身振りや表情などについてこちらの感情がついて行けない」という類のものもあると考えたからである。回答は自由形式である。

〔質問文〕

6.1.2. この若い男性の表情や姿勢・身振りからどんな感じを受けましたか？

(A) 方向性

得られた回答を、まず評価の「方向性」という点から分類・集計した。すなわち、肯定的に受け止めたか、それとも否定的に受け止めたか、ということである。

地域別集計【図表Ⅱ-6-10A-1】

方向性に関して「評価のコメントなし」と判断される回答が、地域に関わりなく多い。コメントがあった部分については、全体的に肯定的印象に傾く。ただし地域差も若干見られ、在外日本人（外JP）は否定的印象も少なくないのに対し、在日外国人（JP外）は、在日アメリカ人（JPUS）を除けば、肯定的印象に大きく傾く。日本人の方がいくぶん“からい”評価である。

性別集計【図表Ⅱ-6-10A-2】

日外に共通する性差は特に認められない。男女いずれも「評価のコメントなし」が多い。肯定的印象について言えば、在外日本人（外JP）の男性は女性よりも数値が低いのに対し、在日外国人（JP外）は男女でほとんど差がない。国内日本人（JPJP）で差が無いので判断が難しいところだが、日本人の場合は男女による違いが多少あり、男性はあまり肯定的には受け止めない、ということかもしれない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-10A-3】

どの年齢層も「評価のコメントなし」が多い。コメントがあった部分について見てみると、在外日本人（外JP）は若年層ほど肯定的印象が高く、逆に国内日本人（JPJP）は高年層ほど肯定的印象が高い。ただし国内日本人（JPJP）は年齢層別にすると各層の人数が少なくなるので安定した数値ではない可能性もある。なお、在日外国人（JP外）には年齢差は特に認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-10A-4】

どの滞在年数層も「評価のコメントなし」が多い。在日外国人（JP外）の「長長」はコメントが多いように見えるが、母数が小さいので安定した傾向とは言えない。

コメントがあった部分について見てみると、在外日本人（外JP）は、滞在年数が長くなるほど肯定的印象の比率が低くなる。年齢層別に見た時、国内日本人（JPJP）は高年層ほど肯定的印象が高かったが、ここから肯定的印象が日本人の伝統的な反応だと考えられるとすれば、日本を離れた年数が長くなるほどその伝統性を失うものと解釈できそうである。

(B) 注目点

次に、得られた回答を「注目点」から分類・集計した。すなわち、映像の若い男性のどの部分に注目した反応であったかを見た。

注目点を、発話者（若い男性）の内的な事項から順に、「性格」「心理状態」「表情・様子」「行為・行動」「言語行動」「相手との関係」「身振りや表情を見ての印象」に分

類した。「相手との関係」というのは、映像の中年男性との親しさ等への言及である。

「身振りや表情を見ての印象」というのは、発話者である若い男性に対する言及というよりも、その映像を見て受けた被調査者自身の印象に関する言及である。

地域別集計【図表Ⅱ-6-10B-1】

「心理状態」への言及が地域に関わりなく最も多い。日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））で約6割、外国人（JP外）で4～5割を占める。非言語情報により伝達される情的情報としては、被調査者の母語に関わりなく、すなわち普遍的な現象として、発話者の「心理状態」に関する情報が多くのケースを占めることが分かる。これに次いで多いのは「表情・様子」に関する言及である。

この設問ではく被調査者自身が受けた印象を問うたわけだが、実際の回答はむしろ登場人物の「心理状態」をはじめとするく対象の描写に関する回答がきわめて多かった。提示する映像の種類により異なる可能性があるが、非言語行動を見た時の第一の反応は、被調査者自身の心理状態がどうかというよりも、観察している対象者がどのような状態であるかという認知的反応の方が優先的に現われ、それは母語の違いを越えて普遍的な現象なのかもしれない。

地域差が比較的大きい点を少し指摘する。「性格」は在仏日本人（FRJP）・在日フランス人（JPFR）・在日アメリカ人（JPUS）に比較的多い。個人の最深部への注目というのは欧米的な観点なのかもしれない。一方、「表情・様子」は、日本人の中では在韓日本人（KRJP）・在越日本人（VNJP）・国内日本人（JPJP）に多い。欧米の環境下にはない者の観点なのかもしれない。全体としては大きな地域差は無いものの、欧米の世界では対象者の内部に、アジアの世界では対象者の外部に注目点が多少シフトしている可能性がある。

性別集計【図表Ⅱ-6-10B-2】

日外に共通する性差は特に認められない。国内日本人（JPJP）の男性にのみ「言語行動」という回答が認められない点がやや注目される。ただし明確な理由は不明である。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-10B-3】

日外に共通する年齢差は特に認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-10B-4】

全体としてはやはり、日外に共通する滞在年数による違いは特に認められない。在外日本人（外JP）においては、「心理状態」は長期滞在者になるほど多くなり、逆に「表情・様子」は短期滞在者になるほど多くなる点が多少注目される。

（C）方向性×注目点

次に、得られた回答を先の「方向性」と「注目点」とのクロスから分類・集計した。すなわち、どういう事柄についてどういう方向性で評価したか、ということである。これについては、カテゴリの数が多くなるため、グラフではなく表で示した。なお、表を見やすくするために、カテゴリの数の少ない「方向性」を第一の軸として示した。表中の「・」は回答者数がゼロであることを示している。

地域別集計【図表Ⅱ-6-10C-1】

方向性について「評価のコメントなし」で「心理状態」に注目した回答がきわめて多いことが分かる。つまり、「あの登場人物の心理状態は〇〇のようだ」と第三者的に描写する回答が、映像のみを提示した場合の反応としてきわめて多い、ということである。

「肯定的」に受け止められた回答は主として「性格」と「表情・様子」に関してである。特に「表情・様子」の回答は日外ともに多い。地域別に見ると、在韓日本人（KRJP）・在越日本人（VNJP）・国内日本人（JPJP）・在日韓国人（JPKR）・在日ベトナム人（JPVN）といったアジア圏に多いようである。

なおこの「表情・様子」は、先にもふれたように、「否定的」と「評価のコメントなし」にも回答が見られるが、前者では非常に少なく、また後者は「肯定的」を少し下回るほどである。本報告書では、提示した映像の一部をイラストで示すことしかできないが、問題の男性（イラストのM1）は、軽く身を乗り出すようにして真剣に、しかしかと言って深刻すぎるほどの暗さにはならない表情で発話している。その「表情・様子」は、全体的に肯定的ないしは“無色”のものとして評価されている。

「否定的」に受け止められた回答は主として「心理状態」と「印象」（＝身振りや表情を見ての被調査者の印象）である。このうち「心理状態」を「否定的」に受け止める回答は在外日本人に多い。ただし「心理状態」はじつは「評価のコメントなし」の回答が非常に多いことに注意すべきで、方向性についても積極的に判断するならば「否定的」、ということである。

回答の多かった「評価のコメントなし」で地域差が多少認められそうな点について指摘する。「言語行動」で比較的コメントの多いのは在仏日本人（FRJP）・在韓日本人（KRJP）・在日韓国人（JPKR）である。「表情・様子」で比較的コメントの多いのは在韓日本人（KRJP）・在日アメリカ人（JPUS）である。いずれもその理由は現在のところよくわからない。

性別集計【図表Ⅱ-6-10C-2】

方向性について「評価のコメントなし」で「心理状態」に注目した回答が男女ともきわめて多い。日外に共通する性差は特に認められない。

日外で傾向性は異なるが多少男女差が認められそうな点を指摘すると、「表情・様子」を「肯定的」に受け止めるのは日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））の場合女性に傾くのに対し、外国人（JP外）はむしろ男性に傾く。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-10C-3】

ここでも、方向性について「評価のコメントなし」で「心理状態」に注目した回答がどの年齢層でもきわめて多い。日外に共通する年齢差は特に認められない。

「表情・様子」を「肯定的」に受け止めるのは、在外日本人（外JP）の30代・在日外国人（JP外）の20代等比較的若年層に多いのが注目される。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-10C-4】

ここでもやはり、方向性について「評価のコメントなし」で「心理状態」に注目した回

答がいずれの滞在年数層でもきわめて多い。日外に共通する滞在年数差は特に認められない。

「表情・様子」を「肯定的」に受け止めるのは、在外日本人（外JP）の「短短」、在日外国人（JP外）の「短短」等、比較的短期の滞在層に多いのが注目される。

（D）注目点×具体

最後に、得られた回答を「注目点」と「具体的反応（の分類）」から分類・集計した。すなわち、回答された注目点ごとに具体的な反応を分類した。

地域別集計【図表Ⅱ-6-100-1】

分析に入る前に表の補足説明をしておく。

表中の「心理状態」の「緊迫」というのは、もう少し具体的に言えば「あせり」「一所懸命」「興奮」「真剣」「切迫」「切実」「必死」等の表現で置き換えられる回答である。同じく「喜楽」というのは、もう少し具体的に言えば「嬉しそう」「楽しそう」等で置き換えられる回答である。

「積極」というのが「性格」と「表情・様子」に出てくるが、もう少し具体的に言えば、「性格」の「積極」は「強い意志」等個人の性格面への言及と判断される回答であるのに対し、「表情・様子」の「積極」は「身を乗り出している」等その場面に限定された話者の様子・表情など比較的表層的な側面への言及と判断される回答である。このように、複数箇所に同じ表現での回答が出てくるケースは他にもあるが、注目点に違いがあると判断された回答と理解されたい。

「行為・行動」の「不安」は、「落ち着きの無さ」等で置き換えられる回答である。また、「和風」は「日本的」等で置き換えられる回答である。

「言語行動」の「依頼」は、相手への回答依頼というよりも、実質的な事柄についての相手への（再度の）依頼と判断される回答である。被調査者が調査員による背景説明を十分理解していれば考えにくい回答であるが、実際にはいくつかあった。

さて、回答の分布を見てみると、「心理状態」の「緊迫」という回答がどの地域においても多いことが分かる。同じ映像を「心理状態」の「リラックス」と受け止める回答もないわけではないが、かなり少ない。提示した若い男性の映像は、母語の違いを越えたかなり普遍的な現象として、主として＜緊迫した心理状態＞として受け止められていることが分かる。

多少地域差が認められそうな点をいくつか指摘する。

「心理状態」では「不安」と「期待」の回答も少なくない。このうち日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））はどちらかと言えば「期待」に、逆に外国人（JP外）はどちらかと言えば「不安」に傾く。提示した映像は「期待しつつも不安も交じる」と言うような複合的な表情・様子が映し出された映像でありいずれの回答も十分ありうるのだが、日本人はどちらかと言えば「期待」として楽観的側面に注目するのに対し、外国人はどちらかと言えば「不安」として悲観的側面に注目する、という傾向的な違いがありそうである。ただし外国人とひとくくりにして言うのは多少乱暴な面もあり、こうした傾向は在日ブラジル人（JPBR）や在日ベトナム人（JPVN）に強く、在日韓国人（JPKR）などは

むしろ逆の傾向さえ示している。

「表情・様子」について言えば、「積極」「快活」「明朗」といったいわば<動>の側面についての回答は日本人（外JP）に多く、「整い」「丁寧」といったいわば<静>の側面についての回答は外国人（JP外）に多い。

最後に「言語行動」について言えば、被調査者には背景的説明をしたわけだから「確認」が多く出ることが期待されるのだが、その回答は実際には極めて少なかった。日外ともに多い回答は「依頼」であった。

性別集計【図表Ⅱ-6-10D-2】

男女いずれも「心理状態」の「緊迫」が多い。

回答数がある程度ありかつ日外に共通する性差として、「期待」が男性よりも女性に多少多い（構成比の点で）傾向が指摘できる。ただし国内日本人（JPJP）はむしろ逆の傾向にある。それ以外は、日外に共通する性差は特に認められない。

回答数がある程度ありかつ日外のそれぞれの内部において男女差が認められそうな点をいくつか指摘する。

国内日本人（JPJP）においては、「心理状態」の「緊迫」は男性よりも女性に傾く。在外日本人（外JP）においては、「表情・様子」の中でも対他性の強い「積極」は男性に、自己完結性の強い「快活」「明朗」は女性に傾く。在日外国人（JP外）においては、「表情・様子」の「整い」は男性に、「丁寧」は女性に傾く。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-10D-3】

年齢層別に見た場合でも、「心理状態」の「緊迫」の回答が多い。日外に共通する年齢差は特に認められない。在外日本人（外JP）で「心理状態」の「期待」が30代に特に多いのが注目される。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-10D-4】

滞在年数別に見た場合でもやはり「心理状態」の「緊迫」の回答が多い。「心理状態」の「不安」は、滞在年数が短い者ほど多くなる傾向が日外ともに多少認められる。「心理状態」の「期待」にも同じ傾向がやや認められる。

Ⅱ.6.2.2. 応答行動に随伴する<笑い>

提示した映像では、若い男性の発話を受けて中年の男性は少し笑いながら応じている。この段階では、中年男性の発話そのものはまだ提示されていない。この時の中年男性の非言語行動である<笑い>から伝達される印象や発話意図を次に問題として取り上げた。

Ⅱ.6.2.2.1. 被調査者の印象

まず<笑い>から伝達される印象について、自由形式により回答を求めた。なお、《誘導肢》というのは、回答が得られにくい場合に回答を促す目的で調査員が任意に例示する“キーワード”である。

[質問文]

6.1.3. この中年男性は、すこし笑って対応していました。あの笑い方についてどんな感じを受けましたか？
《誘導肢》 あいまい やわらか 好き／嫌い

(A) 方向性

得られた回答をまず評価の「方向性」の点から分類・集計した。

地域別集計【図表Ⅱ-6-11A-1】

最も多い回答は、方向性について「評価のコメントなし」である。日外ともに多いが、特に日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））に多い。こうした場面で日本人がごく普通に返す〈笑い〉であれば、日本人の回答に方向性に言及した回答が少ないのも頷けるところである。

コメントがあった部分に注目して分布を見ると、全体的に「肯定的印象」の方が「否定的印象」よりも多く、母語の違いを越えてどちらかと言えば肯定的に受け止められていることが分かる。

「肯定的印象」について日外を比較すると、在外日本人（外JP）に少なく在日外国人（JP外）に多い傾向にある（なお国内日本人（JPJP）の数値はむしろ在日外国人（JP外）に近い）。被調査者には「結論として断わられるかどうかはまだわからないという気持ちで見て下さい」と指示してあるので、この質問の段階では否定的な応答を述べるのに伴う“不可解な”〈笑い〉では必ずしも無いということもあってか、外国人からは（在外）日本人以上に肯定的に受け止められている。相手からの確認に応じる際に伴う〈笑い〉自体は、日本人よりもむしろ外国人から支持されている。

ただし外国人の内部にも違いが見られ、肯定的印象は在日韓国人（JPKR）に多いのに対し在日アメリカ人（JPUS）では少ない。関連して、否定的印象は在日フランス人（JPFR）・在日アメリカ人（JPUS）に多いのに対し在日ブラジル人（JPBR）・在日ベトナム人（JPVN）では少ない。在日ブラジル人（JPBR）には日系人が少なからずいたことを考慮すれば、大きく〈アジア系の肯定的印象〉対〈欧米系の否定的印象〉という対立に帰着すると言えるかもしれない。

性別集計【図表Ⅱ-6-11A-2】

男女いずれも「評価のコメントなし」が多い。日外に共通する男女差は特に認められない。

方向性についてコメントがあった回答については、これも男女ともに「肯定的印象」の方が「否定的印象」よりも多い。このうち「肯定的印象」の回答は、日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））の場合は女性よりも男性に多いが、外国人（JP外）の場合は男性よりもむしろ女性に多い。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-11A-3】

全体的に「評価のコメントなし」がどの年齢層にも多い。コメントがあった場合は、これも多くの場合どの年齢層別でも「否定的印象」よりも「肯定的印象」が多い。

なお「肯定的印象」は、在外日本人（外JP）・在日外国人（JP外）ともに若年層ほど少

なくなる傾向にある（ただし在外日本人（外JP）の20代はこの傾向から外れる）。普遍的現象として、＜笑い＞が肯定的に受け止められない方向に変化している可能性がある。欧米の主流が「否定的印象」であるとすれば、日外ともに欧米的な評価に収斂しつつあるのかもしれない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-11A-4】

やはり全体的に「評価のコメントなし」が多い。コメントがあった場合は、滞在年数の多寡に関わらず「肯定的印象」の方が多く「否定的印象」は少ない。在日外国人（JP外）の「中長」「長長」の人数が少ないため確定的なことは言えないが、在日外国人（JP外）においては、滞在年数が長くなるほど「否定的印象」の比率が上昇する傾向がややうかがえる。在日年数が長くなるにつれ寛容さが減少するということであろうか。

（B）注目点

次に、得られた回答を、＜笑い＞の「意図」に言及した回答であったか、それとも被調査者の受けた「印象」に言及した回答であったかという「注目点」から分類・集計した。

地域別集計【図表Ⅱ-6-11B-1】

日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））と外国人（JP外）との間に比較的明確な違いが認められる。日本人は＜笑い＞の「意図」への言及に傾くのに対し、外国人はむしろ＜笑い＞を見ての「印象」への言及に傾く。「どんな感じを受けましたか？」と尋ねたわけだから、主として「印象」を回答した外国人の方がいわば素直な反応と言える。

外国人と比べ日本人は、＜笑い＞からまず相手の「意図」を読み取ろうとする構えが形成されているのかもしれない。なお外国人にこの回答が相対的に少ないのは、外国人の中にはまだ日本人の＜笑い＞からその「意図」を読み取れるほどには日本文化に習熟していない人もいて、ということも考えられる。

性別集計【図表Ⅱ-6-11B-2】

日外に共通する明確な性差は特に認められない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-11B-3】

在外日本人（外JP）と在日外国人（JP外）においては、高年齢層ほど「印象」に、逆に若年層ほど「意図」に傾く。国内日本人（JPJP）は、年齢層別になると各層の人数が少なくなり数値が不安定になることもあってか一貫した傾向は認めにくい。40代と30代（以下）の間の開きが比較的大きく、在外日本人（外JP）や在日外国人（JP外）と同様の傾向にある可能性がある。普遍的現象として、若年層ほど＜笑い＞というものを、「印象」としていわば受動的に捉える姿勢から、「意図」の理解としていわば能動的に捉える姿勢に移行してきているのかもしれない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-11B-4】

年齢層別の集計とよく似た傾向が観察される。すなわち、在外日本人（外JP）・在日外国人（JP外）いずれも、滞在年数が長い者ほど「印象」に、逆に短い者ほど「意図」に傾

く。滞在年数と年齢は比較的相関が高いと推測されるので、真の要因は年齢であるかもしれない。

(C) 方向性×注目点

次に、得られた回答を「方向性」と「注目点」とのクロスから分類・集計した。

[分析結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-11C-1】

方向性については「評価のコメントなし」で「意図」に注目した回答がいずれの地域でも多い。

コメントのあった部分についていくつか指摘する。「印象」の回答は、「肯定的」「否定的」いずれの方向性にも比較的多く現われるが、日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））・外国人（JP外）いずれも「肯定的」に大きく傾く。相手の確認行動を受けての〈笑い〉の映像を見て回答者が受ける「印象」という側面について言えば、母語の違いを越えて普遍的な現象として、これを肯定的に受け止める傾向が強い。在日外国人を出身国別で見ると、在日ブラジル人（JPBR）・在日韓国人（JPKR）・在日ベトナム人（JPVN）で「肯定的」への傾きが著しい。在日ブラジル人（JPBR）には日系人が多く含まれていること、また国内日本人（JPJP）も「肯定的」にかなり傾くことを考慮すると、「印象」の点で〈笑い〉を「肯定的」に受け止めるのはとりわけアジア的な特徴と言えるかもしれない。

性別集計【図表Ⅱ-6-11C-2】

方向性について「評価のコメントなし」で注目点が「意図」である回答が、どの地域でも男女に関わりなく多い。日外に共通する明確な性差は特に認められない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-11C-3】

全体的に「評価のコメントなし」の「意図」の回答が、日外ともに年齢に関わりなく多い。ただし、在日外国人（JP外）の30代以上ではむしろ「肯定的」の「印象」の方が多く、〈笑い〉は積極的に良い印象として受け止められる傾向にある。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-11C-4】

ここでも「評価のコメントなし」の「意図」の回答が滞在年数に関わりなく日外ともに多い。ただし、在日外国人（JP外）の「中中」（以上）ではむしろ「肯定的」の「印象」の方が多く、〈笑い〉は積極的に良い印象として受け止められる傾向にある。ただし年齢との相関も考慮する必要がある。

(D) 注目点×具体

最後に、得られた回答を「注目点」と「具体的反応（の分類）」から分類・集計した。すなわち、回答された注目点ごとに具体的な反応を分類したものである。

[分析結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-11D-1】

分析に入る前に表の補足説明をしておく。

表中の「意図」の「緊張緩和」というのは、「＜笑い＞は相手の緊張を和らげる目的である」等の回答である。同じく「回避」というのは、「言いにくい事をごまかしている・はぐらかしている」等の回答である。「その他」の「迷惑」は、「言いにくい断わりをしなければならず迷惑している」等の心理描写の回答である。

日外を比較すると、「意図」の面で日本人（特に在外日本人（外JP））に大きく傾く回答は「緊張緩和」と「回避」であることがまず分かる。逆に言えば外国人は、相手の真剣な表情での確認行動を受けての＜笑い＞の映像を見ても、それを「緊張緩和」や「回避」を意図するものと受け止めることは日本人よりもかなり少ないということである。

「緊張緩和」は他者への思いやり行動であり、「回避」は曖昧行動である。一般にこれらは日本的な行動としてしばしば言及されるものであるが、＜笑い＞の解釈という面においても、日本人の回答者（ただし在外日本人（外JP））は、そうした意図を有するものと解釈する傾向が外国人よりも強い。

逆に「意図」の面で外国人に大きく傾く回答は特に無いようである。「困惑」と「受諾」が比較的多いが、これらの回答は日本人（在日外国人（JP外）・国内日本人（JPJP））にも多い。

「断り」と「受諾」は全く逆の解釈になるわけだが、＜笑い＞のみを見ての判断としては、日外いずれも「受諾」に傾く。＜笑い＞そのものは、母語の違いを越えて肯定的な応答内容と結び付きやすいものと言えそうである。

「印象」の面については、「その他」以外では、日本人（外JP）は「曖昧」と「柔和」が多く、外国人は「柔和」と「好感」が多い。「曖昧」という印象はむしろ日本人（外JP）に傾くわけだが、他言語・他文化の環境下で日常生活を送る海外在住の日本人にとっては、日本人の曖昧な笑いが滞在国との対比で意識されやすいためかもしれない。

「好感」という印象は外国人に傾く。中でも在日韓国人（JPKR）・在日ベトナム人（JPVN）や日系人を含む在日ブラジル人（JPBR）に多く、アジア的な特徴と言えるかもしれない。

性別集計【図表Ⅱ-6-11D-2】

日外に共通する明確な性差は特に認められない。

「意図」の「困惑」は回答者数も比較的多く、在外日本人（外JP）・在日外国人（JP外）いずれも回答者は女性にやや傾く。ただし国内日本人（JPJP）では必ずしもそうではない。「意図」の「断り」と「受諾」も回答者数が比較的多い。回答は日外いずれも「受諾」に傾くが、在外日本人（外JP）では「断り」「受諾」いずれも各性の構成比で見るとほとんど性差が無いのに対し、在日外国人（JP外）では「受諾」は男性に大きく傾く。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-11D-3】

日外に共通する明確な年齢差は特に認められない。

在外日本人（外JP）では「意図」の「回避」の回答が比較的多く、しかも若年層になるにつれ構成比が上昇する傾向にあり注目される。＜笑い＞を「回避」の「意図」と受け止める傾向が日本人の中で増えてきているのかもしれない。ただし国内日本人（JPJP）は、

人数が少ないこともあり明確な変化傾向は認められない。

「意図」の「承諾」が、在外日本人（外JP）・在日外国人（JP外）の若年層（特に20代）で構成比が高くなるのも注目される。母語の違いを越え〈笑い〉を「承諾」の「意図」と受け止める傾向が増えてきているのかもしれない。ただし国内日本人（JPJP）は人数が少ないこともあってか明確な変化傾向は認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-11D-4】

日外に共通する明確な滞在年数差も特に認められない。

在外日本人（外JP）では「意図」の「回避」は回答者数が比較的多く、しかも滞在年数が短いほど構成比が上昇する傾向にあり注目される。ただし年齢との相関も考慮する必要がある。

Ⅱ.6.2.2.2. 被調査者が受ける発話意図

次に、〈笑い〉から感じられる発話意図について、依頼を引き受けるか断るかという点に絞って回答を求めた。すなわち、非言語行動により伝達される（より正確には「解釈される」）意味・意図に関する情報の一側面を探ろうとしたわけである。なお、回答者によっては、「印象」を尋ねた前問で既に受諾の「意図」を回答している者もいるが、ここでは改めて選択肢を提示して回答を求めた。

〔質問文〕

- 6.1.4. 中年男性のあの笑い方から、依頼を引き受けるか断わるか、どちらの返事をしようかについて感じとりましたか？
- ①どちらかと言えば、引き受けそうな感じがした。
 - ②どちらかと言えば、断わりそうな感じがした。
 - ③これだけでは、まだ、どちらとも言えないと感じた。

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-12-1】

地域による大きな片寄りもなく意見（解釈）が分れるが、全体的に日本人（外JP）は「引き受けそう」よりも「断わりそう」に傾くのに対し、外国人は「断わりそう」よりも「引き受けそう」に傾く（国内日本人（JPJP）は両者半々）。外国人の方が日本人よりも多少楽観的だと解釈することも可能だが、外国人の「どちらとも言えない」の回答の多さ（平均46%）を考えるならば、むしろ「積極的に否とは解釈できない」という〈笑い〉の意図の読み取りの未習熟さが反映されている可能性もある。つまり、地域差の他に習熟差の可能性も考えられる。

前問で「印象」ではなく諾否の「意図」について回答した人は、図表Ⅱ-6-11D-1によると、母語の違いを越えて「断り」よりも「受諾」に傾いたのであるが、この設問で改めて諾否に限定して尋ねると、日本人はむしろ「断り」に傾く。積極的に意図に言及する回答者（＝意図に注目しやすい回答者）と、それも含む全回答者の違いなのかもしれない。

なお、在日外国人（JP外）の中にも地域差が認められ、在日ベトナム人（JPVN）で「引き受けそう」が多く逆に「断わりそう」が少なく、その格差が大きいのが注目される。習熟差ではなく地域差と考えられるとすれば、「引き受けそう」とする回答は、外国の中で

も東南アジア系の言語に現われやすいということかもしれない。

性別集計【図表Ⅱ-6-12-2】

日外に共通する一貫した性差が認められる。すなわち、「引き受けそう」とする回答は日外ともに男性よりも女性に多い。〈笑い〉の意図に関する解釈について言えば、母語の違いを越えて、女性の方が男性よりもいくぶん楽観的と言えそうである。ただし、では男性に「断わりそう」が多いかと言うと必ずしもそうではない。男性に多いのはむしろ判断を保留する「どちらとも言えない」である。つまり、「男性の判断保留」対「女性の楽観的判断」という図式での対立である。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-12-3】

日外に共通する明確な年齢差は特に認められない。

なお日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））においては、50代～60代の比較的高い年齢層では「断わりそう」に傾くのに対し、20代～40代の比較的若い年齢層では「引き受けそう」に傾く。前問で、在外日本人（外JP）（および在日外国人（JP外）も）の若年層（特に20代）において「意図」の「承諾」の構成比が高かったのと軌を一にする傾向である。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-12-4】

日外に共通する明確な滞在年数差は特に認められない。

Ⅱ.6.3. 談話展開様式により伝達される発話意図・印象

ここまでは非言語行動、その中でも相手の確認行動に応じる際に伴う〈笑い〉という非言語行動に焦点を当て、それにより伝達・受容される情的情報や知的情報を見た。

次に、言語行動により伝達・受容される情的情報や知的情報について、その調査結果を報告する。なお、言語行動により伝達・受容される情報の中には、言語行動や発話内容そのものが伝える意味というのが当然あるが、本調査で問題としたのはむしろ〈談話展開様式〉が伝える意味である。すなわち、言語行動をどのような展開として実現するかということもまた相手に知的情報や情的情報を伝達するに違いないと考え、ここに焦点を当てての質問を試みた。例えば、前置きの世間話をせずいきなり用件に入る談話展開様式はどう受け止められるかとか、関連性の低い事柄に話題を転換するような談話展開様式はどう受け止められるかとか、相手の依頼に対する諾否が不明瞭な形で応じる談話展開様式はどう受け止められるかとか、といったことを問題とした。なお、その際付随する〈笑い〉についても引き続き問題にした部分がある。

Ⅱ.6.3.1. すぐに用件を切り出す（確認行動をする）談話展開様式

今度は音声をつけ、映像の若い男性（イラストの左奥の人物：M1）が中年男性に向けて「奥さんに話していただけましたか」と尋ね中年男性がそれに対し「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」と応じる部分までを、続けて2度被調査者に提示した。まず、

この時の若い男性の談話展開様式に関する質問を行なった。

談話展開様式に関する質問では、①被調査者自身による評価、②対照国の人（＝日本人以外；以下日本と比較対照する国のことを「対照国」と呼ぶ）による談話展開様式、③対照国の人による評価、④日本人による評価、を尋ねた。

Ⅱ.6.3.1.1. 被調査者による評価

用件をすぐに切り出す映像の談話展開様式について、まず被調査者自身による評価を尋ねた。質問文は次のとおりである。なお、質問文中の「この尋ね方」というのは言語形式や言語行動ではなく、「いきなり尋ねる」という談話展開様式を指している。

[質問文]

6.2.1. 日本でのこととしてうかがいます。こちらの若い男性は最初に「奥さんに話していただきましたか」と尋ねていましたね。この人は、相手の家に来てすぐこの言葉を言っているのですが、この尋ね方についてどんな感じがしましたか？
①好感がもてた。
②あまりいい感じがしなかった。
③良い悪いの印象は特になかった。

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-13-1】

全体的に「好感がもてた」とする回答は少なく、「良い悪いの印象は特になし」と「あまり良い感じがしなかった」に二分される。（なお凡例の「②～③」は「選択肢の②ないしは③」という意；以下も同様）

二分され方に日外で比較的明瞭な対立が見られる。すなわち、日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））は「良い悪いの印象は特になし」に大きく傾くのに対し、外国人（JP外）はむしろ「あまり良い感じがしなかった」に傾く。母語とする言語や文化により談話展開様式に対する評価が異なることが分かる。なお、外国人の中でも在日ベトナム人（JPVN）には「あまり良い感じがしなかった」が比較的少ない点が注目される。

映像で提示したような「いきなり用件に入る」という談話展開様式は日本語社会においてはむしろ例外的であり、外国人よりもむしろ日本人から否定的な回答が多く得られるのではないかと予測していたが、結果はむしろ逆であった。認識を改め素直に受け止めるべき結果かもしれないが、別の可能性として、「日本人はいろいろ前置きをしてから用件に入ることが多い」という事を外国人の被調査者がすでに知識として持っており、それと照らし合せた時に、映像で示されたいきなり用件に入る談話展開様式が「あまり良い感じがしなかった」、と意識されたことも考えられる。

性別集計【図表Ⅱ-6-13-2】

日外に共通する明確な性差は特に認められない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-13-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-13-4】

滞在年数による違いについても、日外に共通する明確な特徴は特に認められない。

II.6.3.1.2. 対照国の人の談話展開様式

次に、用件の切り出し方について、対照国の人（＝日本人以外）による行動を尋ねた。在外日本人に対しては滞在先の人同士だったらどうか、在日外国人に対しては母国の人同士だったらどうかということで尋ねた。つまり、日本以外の対照国の人について、滞在者としての在外日本人による観察と、母語話者としての在日外国人による観察の2種をデータとしたのである。なお、国内日本人（JPJP）に対しては、海外での居住歴の無い者を対象としたのでこの質問は行なわなかった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、「この国の人同士だったら」の部分を「母国の人同士だったら」に置き換えてある（調査の現場では「ブラジル人同士だったら」等さらに具体的な表現に置き換えて質問している；以下の質問でも同様）。なお、在日外国人に対しては、被調査者自身の行動ではなく、母国において一般的にどうか、ということで回答を求めた。

【質問文】

6.2.2. もし、この人たちがこの国の人同士だったら、若い男性は家に入ってすぐに相手の返事を聞こうとしますか？
①自分からは話を切り出さない。相手の方から返事の出るのを待たせよう。
②自分の方から質問をするだろうが、部屋に入ってすぐにはではなく、少しはほかの話で間をおいてから切り出すだろう。
③この男性と同じように、すぐに、自分から、話を切り出すだろう。

【調査結果】

地域別集計【図表 II-6-14-1】

いずれも「少し間を置いて自分から切り出す」が多く、こうした談話展開様式が母語の違いを越えて一般的であると意識されていることが分かる（なお凡例の「①～③」は「①か②か③」の意ではなく「①ないしは③」の意）。

ただし違いも多少見られる。在外日本人（外JP）は、滞在先がどの国であるかに関わらず、滞在先の人々は「すぐに自分から切り出す」とする回答が2～3割いるのに対し、在日外国人（JP外）は、在日ブラジル人（JPBR）・在日フランス人（JPFR）を除き、母国でそうするだろうとする回答は少ない。アメリカ・韓国・ベトナムの談話展開様式に対する見方が、日本人と母国の人で食い違っていることになる。

対照となる言語による違いも見られる。「相手の返事を待つ」とする回答は、日本人・対照国の回答者ともに、韓国・ベトナムについての観察で1～2割ほどいるのに対し、他の言語についての観察では少ない。逆に、「すぐに自分から切り出す」とする回答は、日本人・対照国の回答者ともに、ブラジル・フランスについての観察で2～3割ほどいるのに対し、他の言語についての観察では少ない（アメリカに多い「②～③」という回答はこの回答と解釈することも可能）。日本人一般について尋ねなかったため日本が含まれるかどうかは微妙であるが、「相手の返事を待つ」のは多少アジア的な談話展開様式、それに対し「すぐに自分から切り出す」のは多少ヨーロッパ的な談話展開様式と言えるかもしれない。ただし、全体としてはどの言語でも「少し間を置いて自分から切り出す」が多いの

で、この違いを拡大しステレオタイプ化してはならない。あくまでも傾向的な違いである。

性別集計【図表Ⅱ-6-14-2】

この質問で対象とする言語が滞在国ないしは母国によりそれぞれ違うため日本人あるいは外国人をひとまとめにしての性別集計はあまり意味がないかもしれないが、一応行なった。日外に共通する明確な性差は特に認められないようである。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-14-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-14-4】

対照国について尋ねたこの質問での「滞在年数」というのは、在日外国人（JP外）にとってはむしろ「母国を離れて生活した年数」というのが事の本質になろう。これによる違いについても、日外に共通する明確な特徴は特に認められない。

Ⅱ.6.3.1.3. 対照国の人による評価

関連して、すぐに用件を切り出す談話展開様式についての対照国の人（＝日本人以外）による評価を尋ねた。この談話展開様式の行為者は対照国の人同士（＝在外日本人に対しては滞在先の人同士、在日外国人に対しては母国の人同士）という想定で回答を求めた。なお、国内日本人（JPJP）に対しては、先と同じ理由でこの質問は行なわなかった。在外日本人用の質問文を下に掲げる（在日外国人用では「この国の人同士」を「母国の人同士」に、「この国では」を「母国では」にそれぞれ置き換えてある）。

〔質問文〕

6.2.3. この国の人同士の場面だとして考えて下さい。返事を聞きに来て、部屋に上がってすぐに返事を尋ねるような聞き方は、この国ではどんなふうに受け取られると感じますか？

- ① 好感をもたれるだろう。
- ② よくは思われないだろう。
- ③ 良い悪いの印象は特にないだろう。

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-15-1】

全体的に「好感を持たれる」の回答は非常に少なく、「良い悪いの印象は無いだろう」と「良く思われないだろう」で大半を占める。この二者の間では、「良く思われないだろう」の方が全体的に優勢である。「好感を持たれる」が非常に少ないこと、また、中立的評価よりも「良く思われないだろう」という否定的評価が多いことからすると、こうした談話展開様式は、母語の違いを越え普遍的な現象として否定的な評価を受けるだろうと意識されていることが分かる。

若干ではあるが、「良く思われないだろう」とする否定的評価は在外日本人（外JP）よりも在日外国人（JP外）に多く、日外による評価の食い違いが観察される。母国人の方が多少評価が厳しい。

性別集計【図表Ⅱ-6-15-2】

日外に共通する明確な性差は特に認められない。なお在日外国人（JP外）においては、「良く思われたいだろう」とする否定的評価が男性により多い点が注目される。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-15-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。なお在日外国人（JP外）においては、「良く思われたいだろう」とする否定的評価は特に40代に多く、またこの年齢層では肯定的評価もかなり少ない点が注目される。すなわち在日外国人（JP外）においては、「男性」「40代」で否定的評価が多い。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-15-4】

この質問でも、「滞在年数」というのは在日外国人（JP外）にとってはむしろ「母国を離れて生活した年数」というのが事の本質になろう。日外に共通する明確な特徴は特に認められない。なお在日外国人（JP外）では、滞在年数が長くなるほど「良い悪いの印象は無いだろう」とする回答が減少し「良く思われたいだろう」とする否定的評価が相対的に増加する点が注目される。

Ⅱ.6.3.1.4. 日本人による評価

関連して、すぐに用件を切り出す談話展開様式についての日本人による評価を尋ねた。なお、この質問は対照国の人（JP外）に対してのみ行なった。

〔質問文〕

6.2.4.では、日本人同士の場面だとして考えて下さい。返事を聞きに来て、部屋に入ってすぐに返事を尋ねるような聞き方は、日本ではどんなふうと思われると思いますか？

- ①好感をもたれるだろう。
- ②よくは思われたいだろう。
- ③良い悪いの印象は特にならう。

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-16-1】

母語の違いに関わらず、日本では「良く思われたいだろう」とする回答が大半を占める（平均7割）。

直前の質問で見た、在日外国人（JP外）による対照国の人々の評価、すなわち母国である外国でどう評価されるかについての質問（図表Ⅱ-6-15-1）とこの質問を比較すると、実態とは異なるかもしれないが、外国人の意識の面でもとらえられている<日外の評価の差>の有無が見られることになる。これによると、日外いずれの評価でも「良く思われたいだろう」とする回答が多いが、日本人による評価（本質問）での方がその回答はより多い。すなわち、日本以外では（＝対照国の人〔母国人〕からは）「良い悪いの印象は特にならう」とする回答もある程度（約3割）得られたのに対し、日本では（＝日本人からは）「良く思われたいだろう」とする回答に一層集中するのである。

簡略化した言い方をすれば、すぐに用件を切り出すような聞き方は、在日外国人の目から見ると、日本では外国（＝母国）以上に否定的に受け止められているだろう、と考えられているということである。つまり、そうした切り出し方は、外国（母国）ではある

程度は許容されるが日本では制約が厳しい、と意識されている、ということである。

なお、ここで得られた数値は日本人の反応そのものについての数値ではなく、日本人像についての外国人の反応の数値である点は注意すべきである。先に見た図表Ⅱ-6-13-1の国内日本人（JPJP）の数値は日本人の反応傾向をある程度反映しているもの、すなわち実態にある程度近いものと考えられるが、これと数値が異なるのは当然である。

性別集計【図表Ⅱ-6-16-2】

在日外国人（JP外）について言えば、男女ともに、日本では「良く思われたいだろう」とする回答が多い。その回答は女性で一層顕著であり、女性の方が日本人による評価をより厳しいものと見ている。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-16-3】

40代と30代以下とで少し隔たりがある。40代では日本では「良く思われたいだろう」とする回答に一層集中し、日本人による評価をより厳しいものと見ている。被調査者自身のことではなく日本人の意識に関する質問であるので、年齢そのものよりも、それと相関が高いと考えられる滞在年数に起因する現象かもしれない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-16-4】

どの層でも「良く思われたいだろう」とする回答が多いが、「中長」以上では、NDを除けばこの回答のみになるのが注目される。滞在年数がある程度長くなると、日本人の評価をより厳しいものと見るようである。

Ⅱ.6.3.2. 関連性の低い事柄への話題転換および随伴する<笑い>

会話を展開する上での基本ルールの一つは、関連性のある話題で受け継ぐということである。Griceの言う「関連性の格率」である（ポール・グライス著・清塚邦彦訳『論理と会話』勁草書房、1998年）。しかし、Grice自身も言うように、我々の日常会話は必ずしもそのとおりに実現されない。それは、関連性の低い事柄に話題を転換することを通して、例えば先行する発話で取り上げられた話題自体をいわば話題として取り上げ「それは話題として適切でない」という意図を伝えたり、あるいは「〇〇ちゃん、あした大学に行く？」という質問に対する「なんで？」という応答のように相手の発話意図・真意を問い質したりという、メタレベルの情報を非明示的に伝達することが可能であり、実際行なっているからである。

上にあげた「話題として適切でない」と判断するケースには、会話の<場>への配慮にもとづくケースがまず考えられるが、その他に、会話の<相手>への配慮にもとづくケースも考えられる。例えば先行する発話が「情報要求」であった場合、それに対してまともに答えると相手を傷つけたり相手との関係を損ないかねないようなケースで回答を先延ばしにするための話題転換である。本調査では、関連性の低い事柄への話題転換という会話現象の中でも、後者のようなく相手>への配慮にもとづくケースを問題とした。对人的配慮にもとづく話題転換の方が、実際の行動や評価において日外の違いがより大きく摩擦の原因となりやすいことが推測されるからである。なお、そうした話題転換の際にしばしば随伴する<笑い>という非言語行動も、合せて調査項目とした。

II.6.3.2.1. 被調査者が受ける発話意図

調査で提示した刺激映像では、「奥さんに話していただけましたか」と尋ねた若い男性に対し、中年男性はそれには直接答えず、笑いながら「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」と、ビールの誘いに話題を転換している。調査では、そうした談話展開様式と、それに随伴する〈笑い〉をめぐり、発話意図や印象などを質問した。まず最初に、被調査者自身が受ける中年男性の発話意図（受諾か拒否か）を尋ねた。

[質問文]

6.3.1. こちらの中年男性は、相手から尋ねられたあと、最初に笑って、それから「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」と言っていましたね。
A この笑いと言葉から、依頼を引き受けるか断わるか、どちらの気持なのか感じられましたか？
①どちらかと言えば、引き受けそうな感じがした。
②どちらかと言えば、断わりそうな感じがした。
③これだけでは、どちらとも言えないと感じる。

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-17-1】

どの地域でも「断わりそう」の回答が多くを占め、提示した映像のような話題転換は、母語の違いを越えて主として「断わり」の意図として理解される傾向にあることが分かる。

なお、日外の違いも観察され、外国人（JP外）は「どちらとも言えない」という回答も少なくないため、「断わりそう」とする回答は相対的に日本人よりも少なくなる。「引き受けそう」とする回答はかなり少数派であるが、日本人よりも外国人に多い点が注目される。全体的な状況として単純化して言えば、外国人はある程度は期待が持てると理解するのに対し、日本人は悲観的に理解する、という違いである。日外の言語摩擦の原因となりうる部分である。ただし、外国人の中でも韓国人（JPKR）は例外であり、回答パターンは日本人に近い。

性別集計【図表Ⅱ-6-17-2】

在外日本人（外JP）には性差は特に認められないが、国内日本人（JPJP）と在日外国人（JP外）では「断わりそう」とする回答は女性に多い。女性の方が男性よりも多少悲観的に理解する傾向にあるのかもしれない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-17-3】

日外に共通する年齢差は特に認められない。なお在日外国人（JP外）においては、若年層ほど「断わりそう」が増え逆に「引き受けそう」が減少する傾向にあり、注目される。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-17-4】

滞在年数が長くなるほど「断わりそう」が減少し「どちらとも言えない」が増加する傾向が観察される（人数が少なく数値が不安定な在日外国人（JP外）の「長長」は例外）。在外日本人（外JP）について言えば、日本から離れる期間が長くなるほど日本的な否定的理解が薄らいでいく、ということであろうか。また、在日外国人（JP外）について言えば、日本での生活が長くなるほど、必ずしも「断わり」ではない場面に遭遇するチャンス

が多くなることから、「日本では母国以上に<断わり>と理解する」という先入観（仮にそれがあるとして）から解放される、ということであろうか。

II.6.3.2.2. 被調査者の印象

次に、この応答の仕方に対する「印象」を尋ねた。「結論として断わられるかどうかはまだわからないという気持ちで見て下さい」との指示はこの質問の段階でもまだ継続されており、意図の面でいわば中立的な談話展開様式について、話題を転換すること自体から受ける「印象」を純粋に尋ねようとしたのである。ただし実際には、直前の質問の回答結果で明らかになったように、中年男性の発話意図に対する解釈には異なりがあり、中年男性の発話をどう解釈するかによって回答者の印象も変わってくるものと推測される。しかし、今回の分析ではそこまでは追求せず、「印象」のみを独立して分析した。

〔質問文〕

6.3.1. こちらの中年男性は、相手から尋ねられたあと、最初に笑って、それから「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」と言っていましたね。
B どんな感じで受け取りましたか？
①好感が持てる。（「やわらかだ・おだやかだ」など）
②よい感じはしない。（「はっきりしない・あいまいだ」など）

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-18-1】

結果は「好感が持てる」と「良い感じがしない」で回答が二分される。日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））はどちらかと言えば「良い感じがしない」に傾くのに対し、外国人（JP外）はどちらかと言えばいくぶん「好感が持てる」に傾く。際立った違いではないが、日本人からはやや否定的に、外国人からはやや肯定的に受け止められる、という違いが指摘できそうである。

これには、直前の質問の回答結果で明らかにされたように、日本人は「断わりそう」とする解釈に大きく傾くのに対し、外国人は「どちらとも言えない」も少なくなかったことも影響している可能性がある。さらに関連して言えば、この質問では、直接的な断わりではなく話題をそらすような「断わり方」の印象を尋ねたわけだが、回答者によっては「断わる」ということ自体に注目して回答した人もいるかもしれない。こうしたことを考えると、<笑い>の「意図」との関係からの分析は重要と思われるが、しかし先にも述べたように今回はそこまでは踏み込まず可能性の指摘だけにとどめ、詳しい分析は今後の課題とする。

性別集計【図表Ⅱ-6-18-2】

在外日本人（外JP）については明確な性差はないが、全体的に、男性に比べ女性に「好感が持てる」が少なく「良い感じがしない」が多い傾向が見られる。「印象」の点では、女性からは、男性以上に否定的に見られる傾向にある。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-18-3】

日外に共通する年齢差は特に認められない。国内日本人（JPJP）については、40代以下

の世代で、若年層ほど「好感が持てる」が減少し逆に「良い感じがしない」が増加するのが注目される（ただし50代(以上)でもその傾向あり）。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-18-4】

在外日本人（外JP）には明確な滞在年数差はないが、在日外国人（JP外）については、人数が少なく数値が不安定な「長長」を除けば、滞在年数が長くなるほど「好感が持てる」が増加する。こうした<笑い>と話題そらしが日本人に多い談話展開様式であるとすれば、日本での滞在年数が長い人ほどそのやり方に馴染み、心理的にも受容できるようになるということであろうか。

Ⅱ.6.3.2.3. 対照国の人の理解

次に対照国の人（＝日本人以外）による理解（すなわち受諾か拒否か）を尋ねた。在外日本人（外JP）に対しては滞在先の人だったらどう理解すると思うか、在日外国人（JP外）に対しては母国の人だったら一般にどう理解すると思うか、ということ尋ねた。ここで想定してもらう発話者は、対照国の人ではなく日本人とした。なお<笑い>については積極的には問題としなかった。国内日本人（JPJP）に対してはこの質問は行なわなかった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、「この国の人だったとしたら」の部分「母国の人だったとしたら」に置き換えてある。なお、在日外国人に対しては、被調査者自身の行動ではなく、母国において一般にどうか、ということて回答を求めた。

〔質問文〕

6.3.2. 同じような場面で、相手の人がこの国の人だったとしたら、この中年男性の「ビールでもどう」という言葉は、
A どんな風に受け取られると思いますか？
①断わりを言いそうだと理解するだろう。
②引き受けそうだと理解するだろう。
③断わるか引き受けるかわからないだろう。

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-19-1】

回答（＝解釈）は三分される。全体的に多い回答は「断わるか引き受けるかわからない（だろう）」とする回答であり、日外ともに約半数を占める。残りの部分が「断わりを言う」と理解する（だろう）」と「引き受けそうだと理解する（だろう）」という対立する意見で分れるのであるが、在外日本人（外JP）が「引き受けそうだと理解する（だろう）」に傾くのに対し、在日外国人（JP外）は「断わりを言う」と理解する（だろう）」に傾く。同一の対照国の人の解釈に対する見方が、日本人の被調査者はどちらかと言えば「受諾」と理解するだろうと解釈するのに対し、母国人（対照国）の被調査者はどちらかと言えば「断わり」と理解するだろうと解釈する、という違いが観察される。母国人の被調査者の解釈の方がより現実に近いものと考えられるとすれば、日本人は滞在国において、相手国の人の解釈を実際よりも「受諾」寄りに解釈していることになる。国別で見ると韓国人の解釈について、日本人と韓国人の認識の間に大きなギャップが認められる。

もう少し具体的に言えば、例えば日本人が滞在国において「断わり」のつもりでこのような話題転換をした場合、当の日本人は、相手の対照国の人に「受諾」と理解されてしまったのではないかと心配するかもしれないが、相手の対照国の人には実際には「断わり」と“正しく”理解している、ということである。もし「断わり」のつもりで発話であれば、日本人が推測する以上に正しく伝達されている、ということである。

性別集計【図表Ⅱ-6-19-2】

日外の解釈の差は男女いずれにも見られるが、その開きは男性よりも女性において著しい。すなわち、「分らない(だろう)」を別にすれば、在外日本人(外JP)の女性の解釈は「受諾」に比較的大きく傾くのにに対し、在日外国人(JP外)の女性の解釈は比較的大きく「断わり」に傾く。母国人の解釈がより現実に近いものとするれば、日本人の中でも女性に、現実とのギャップが大きいということになる。在外日本人(外JP)の女性の回答者の中には海外駐在員の妻として同行している人が少なからずいるが、そうした立場にある人たちは、滞在国の人々との接触を最小限にとどめても生活が成り立つケースがある。そうしたことがギャップの大きさの一因となっている可能性がある。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-19-3】

在外日本人(外JP)については、50代以下では明確な年齢差はない。60代ではむしろ「断わり」に多少傾くが、年齢よりも滞在年数に起因する現象かもしれない。

これに対し在日外国人(JP外)では、20代以下で「断わり」が約半数を占めているのが注目される。外国での理解自体が現在変化しつつあるということであろうか。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-19-4】

グラフでは、日外で対称的な傾向が観察される。すなわち、在外日本人(外JP)においては滞在年数が長くなるにつれ滞在国の人々の解釈として「断わり」が増加するのに対し、在日外国人(JP外)においては滞在年数が長くなるにつれ母国の人々の解釈として「断わり」はむしろ減少する。対照国との接触が長かったり(在外日本人の場合)比較的最近まで接触があった(在日外国人の場合)被調査者は、対照国の人々の解釈を「断わり」と判断するだろうとする回答に傾くのにに対し、接触が短かったり過去のことになりつつある回答者は、対照国の人々の解釈を「断わり」とは判断しないだろう(主として「わからない」と判断するだろう)とする回答に傾く。調査時点での対照国との馴染みの度合いが回答を左右するようである。

Ⅱ.6.3.2.4. 対照国の人々の印象

さらに続けて、この応答の仕方に対する対照国の人による「印象」を尋ねた。在日外国人(JP外)に対しては、自分自身の印象ではなく、母国人一般の印象を尋ねた。なおここでも、対照国の人々がどのような意図と解釈するかということにより、推測する「印象」も変わってくると考えられるが、今回の分析では「印象」のみを独立して分析した。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものであり、在日外国人用では「この国の人だったとしたら」の部分は「母国の人だったとしたら」に置き換えてある。なお、国内日本人(JPJP)に対してはこの質問は行なわなかった。

[質問文]

6.3.2. 同じような場面で、相手の人がこの国の人だったとしたら、この中年男性の「ビールでもどう」という言葉は、
B. どんな感じで受け取られそうでしょうか？
①好感を持たれるだろう。（「やわらかだ・おだやかだ」など）
②よい感じはしないだろう。（「はっきりしない・あいまいだ」など）

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-20-1】

結果は「好感を持たれるだろう」と「良い感じがしないだろう」で回答が二分される。日本人（外JP）による解釈はどちらかと言えば「良い感じがしないだろう」に傾くのに対し、外国人（JP外）の解釈はどちらかと言えば「好感を持たれるだろう」にいくぶん傾く。「好感を持たれるだろう」については、在仏日本人（FRJP）・在米日本人（USJP）の低さと、在日ベトナム人（JPVN）の高さが注目される。全体としてはそれほど際立った違いではないが、対照国の人の印象に対する日本人の解釈はやや否定的に、逆に外国人の解釈はやや肯定的に傾く。外国人の回答がより現実に近いところであるとすれば、日本人は滞在国の人々の持つ印象を実際以上に否定的に解釈している傾向にある、ということになる。

性別集計【図表Ⅱ-6-20-2】

日外ともに、男性に比べ女性は「好感を持たれるだろう」が少なく「良い感じがしないだろう」が多い。女性の方が対照国の人の印象を否定的に解釈する傾向にある。なお、この結果は、女性自身が持つ印象の傾向ではなく印象についての解釈の傾向であるので、念の為付言しておく。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-20-3】

在外日本人（外JP）については明確な年齢差は特に認められない。60代が50代以下と異なるように見えるのはNDが多いためでもあり、年齢差と言えるかどうかは微妙である。

これに対し在日外国人（JP外）では、若年層になるにつれ「好感を持たれるだろう」が減少し逆に「良い感じがしないだろう」が増加するのが注目される。外国では、先の図表Ⅱ-6-19-3で見たように、理解が現在「断わり」に変化しつつある可能性があるのだが、そうした解釈の変化に伴う印象の変化であろうか（つまり「断わる」ということ自体に対する印象である可能性があるということ）。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-20-4】

在外日本人（外JP）には明確な滞在年数差はない。在日外国人（JP外）については、人数が少なく数値が不安定な「長長」を除けば、滞在年数が長くなるほど「好感が持たれるだろう」が増加する。母国を離れての期間が短い人ほどより現実に近い姿を回答できると考えられるならば、滞在年数が長い人の回答は現実からややかけ離れた回答である可能性がある。直前のグラフで見たように、外国での印象も変化している可能性があるが、滞在年数が長い人の回答は、かつて母国に住んでいたその頃の状況を想起しての回答であり、それが反映されている可能性がある。

II.6.3.3. 諾否が不明瞭な応答

相手の依頼に対し否定的な内容の応答をしなければならない状況では、先のようにその場での即答を回避すべく全く関連性の無い話題に転換することがあるが、それ以外のやり方として、ある程度話題に関連性を保ちつつも応答の内容が不明瞭であいまいな形で応じるやり方もある。すなわち、受諾したのか拒否したのか明瞭に分からないような応答の仕方である。受諾の気持ちがある場合は、ある種の表現効果を狙うような特別な意図が無い限りそうしたあいまいな返事をする事は通常ありえないので、このような応答は拒否を含意する場合が多い。直接的に拒否することで相手との関係を損なうことを回避すべく、その意図を相手に感じ取ってもらおうという戦略である。しかし、発話内容が不明瞭であるからには、発話者の意図とは逆に受諾と受け取られる可能性も残るわけで、正しく拒否と受け取ってくれるかどうか、多少リスクの伴う戦略である。特に異文化間コミュニケーションの場合は、共有する文化的背景が異なるためそのリスクが大きい場合がありうる。

調査では、日本語によるそうしたあいまいな応答がどのような意図と受け止められるか、また印象はどうかということをめぐる質問した。

II.6.3.3.1. 被調査者が受ける発話意図

まず、被調査者自身が受け取る相手の発話意図（受諾か拒否か）を尋ねた。

被調査者には、音声付きの先の映像をもう少し先のところまで、2度繰り返して提示している。すなわち、中年男性が「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」と応じた後、尋ねた若い男性（イラストでは左奥のM1）がそれを「拒否」と受け止めて「だめだったんですね？」と確認の発話をし、それに対し中年男性が少し笑いながら「いやいや、まあね」とあいまいに答えて立ち上がろうとする部分までを提示した。質問では、中年男性の最後の「いやいや、まあね」の発話意図や印象を尋ねた。

[質問文]

- 6.4.1. 若い男性から「だめだったんですね？」と聞かれたあと、中年男性はやはり少し笑いながら「いやいや、まあね」と答えて立ち上がろうとしていました。この言葉について、どんな感じがしましたか？ 日本のことだとして考えて下さい。引き受けるか断わるかはこの言葉からわかりますか？
- ①まだ引き受けるか断わるかがあいまいである。
 - ②この言葉で「断わるのだな」と感じた。
 - ③すでに「断わるな」と感じたが、この「いやいや」という言葉で、そのことがさらにはっきりしてきたと感じた。
 - ④一旦は断わると感じたが、この「いやいや」という言葉で、逆にわからなくなった。

[調査結果]

地域別集計【図表II-6-21-1】

選択肢が多いため多少傾向が読み取りにくくなっているが、日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））は「断わることがさらにはっきりした」とする回答が約半数を占めるのに対し、外国人（JP外）は意見が分れて相対的にその回答は減少し、「まだ曖昧だ」や「逆にわからなくなった」とする回答が相対的に日本人よりも増える。簡略化して言えば、日本人はこうしたあいまいな応答を受けたとき「断わり」の確信をさらに強める傾向

にあるのに対し、外国人はまだ可能性ありと考え続ける傾向にある、という違いである。

ただしこれは、あくまでも日外を比較しての相対的な違いであり、ここまでの映像を見る前の段階の回答（図表Ⅱ-6-17-1）と比べるならば、じつは日本人も外国人も「断わり」とする解釈は減少し「どちらとも言えない」（図表Ⅱ-6-21-1では「まだ曖昧だ」および「逆に分らなくなった」がそれに相当）が増えてくる。つまり、この発話により「断わり」の確信をさらに強める人がいる一方で、逆に「受諾」の可能性を感じる人もおり、トータルとしてはむしろ「受諾」の方向に振れるのである。しかしそれは日外ともに見られる現象であるために、日外の違いはこの段階でも保たれているのである。

性別集計【図表Ⅱ-6-21-2】

日外に共通する明確な性差は特に認められないが、「逆にわからなくなった」とする回答が、日外ともに女性に多いのが注目される。女性の方が男性よりもいくぶん、あいまいな応答から「受諾」の可能性を受け取りやすいということであろうか。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-21-3】

日外に共通する明確な年齢差は特に認められない。

在外日本人（外JP）では、若年層になるにつれ「断わることがさらにはっきりした」とする回答が増加する傾向が比較的明瞭に認められ注目される。在日外国人（JP外）にも多少その傾向が認められる。ただし国内日本人（JPJP）は必ずしもそうではない。国内日本人を年齢層別にすると各カテゴリーに入る人数が少なくなり、そのため一貫した傾向が認められなかった可能性もある。今後の精査が望まれる。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-21-4】

日外に共通する明確な滞在年数差は特に認められないが、ここでも在外日本人（外JP）において、滞在年数が短いほど「断わることがさらにはっきりした」とする回答が増加する傾向が比較的明瞭に認められ注目される。年齢との相関も考えられる。

Ⅱ.6.3.3.2. 被調査者の印象

次に、この時の言葉づかいから被調査者自身が受ける印象を尋ねた。なお、質問文で用いた「言葉づかい」という表現の意味には幅がある。言語行動・談話展開様式を中心的なテーマとした本調査では、被調査者に提示した選択肢の末尾の括弧内にも明記されているように、主として<応答の仕方のあいまいさ・間接性>という点への注目を期待した（つまり間接的な表現を「柔らかくて良い」と評価するか、それとも「あいまいで良くない」と評価するか）。しかし、回答者によっては、言語形式や韻律・声の質に（まで）注目して回答した者もいる可能性がある。回答の根拠まで追求しなかったため、残念ながらそれらを峻別することはできない。後者のような回答も含まれている可能性のあるデータとして見てほしい。（質問文は次ページ）

【調査結果】

地域別集計【図表Ⅱ-6-22-1】

回答は全体として「良い感じがしない」に大きく傾く。ひとつ前の段階である中年男性

[質問文]

- 6.4.2. 若い男性から「だめだったんですね？」と聞かれたあと、中年男性はやはり少し笑いながら「いやいや、まあね」と答えて立ち上がろうとしていました。この言葉について、どんな感じがしましたか？日本のことだとして考えて下さい。この言葉づかいそのものはどんな感じがしますか？
- ①好感を持つ。（「やわらかだ・おだやかだ」など）
 - ②よい感じはしない。（「はっきりしない・あいまいだ」など）

による話題そらしの部分までを見ての被調査者自身の印象（図表Ⅱ-6-18-1）と比較すると、「良い感じがしない」はさらに増加する。この段階でも中年男性の最終的な回答（じつは断わる）は被調査者に明さずに、被調査者が感じ取った意図での印象を尋ねているわけであるが、まともに答えないことが重なるにつれて「良い感じがしない」という回答が増加するようである。

中年男性による話題そらしの部分までを見ての回答結果と同様、日外による違いが見られる。日外いずれも「良い感じがしない」が多いものの、外国人（JP外）よりも日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））にその割合が高い。外国人の方が日本人よりもいくぶん寛容ということになる。ただしこの回答は、中年男性の意図をどう解釈するかということとも関連する。今後の課題としたい。

性別集計【図表Ⅱ-6-22-2】

全体的に男性に比べ女性に「好感が持てる」が少なく逆に「良い感じがしない」が多い傾向が見られる。＜印象＞の点では、女性からは男性よりも否定的に見られる傾向にある。中年男性による話題そらしの部分までを見ての印象（図表Ⅱ-6-18-2）と並行する結果であるが、男女の違いは一層際立ってくる。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-22-3】

日外に共通する年齢差は特に認められないが、在外日本人（外JP）は若年層ほど「好感が持てる」が増加し逆に「良い感じがしない」が減少する。それに対し、在日外国人（JP外）はむしろ高年層ほど「好感が持てる」が増加し「良い感じがしない」が減少するのが注目される。年齢は、次に見る滞在年数との相関が考えられるので、事の本質は滞在年数である可能性もある。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-22-4】

在外日本人（外JP）は滞在年数が短い者ほど「好感が持てる」が増加し逆に「良い感じがしない」が減少する。それに対し、在日外国人（JP外）はむしろ滞在年数が長い者ほど「好感が持てる」が増加し「良い感じがしない」が減少する。滞在年数というのは要するに、在外日本人であれば日本文化と分離された期間の長さであり、在日外国人であれば日本文化との接触期間の長さである。調査時点での日本文化との馴染みの度合いが、回答を左右しているのかもしれない。

Ⅱ.6.3.3.3. 対照国の人の理解

次に、被調査者自身の理解ではなく、対照国の人（＝日本人以外）一般による理解（受諾か拒否か）を尋ねた。在外日本人に対しては滞在先の人だったらどう理解すると思うか、

在日外国人に対しては母国の人だったら一般にどう理解すると思うか、ということで尋ねた。想定してもらう発話者は日本人とした。〈笑い〉については意識的には問題としなかったが、刺激映像との関係からすれば、主として〈笑い〉を伴うケースを想定して回答したものと推測する。なお、国内日本人（JPJP）に対してはこの質問は行なわなかった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、「この国の人に向って」の部分は「母国の人に向って」に置き換えてある。

[質問文]

6.4.3. もし、日本人がこの国の人に向って、このように「いやいや、まあ」という受け答えをしたら相手はどんなふう to 受け取ると思いますか？
A. ①断わりを言いそうだと理解するだろう。
②引き受けそうだと理解するだろう。
③断わるか引き受けるかわからないだろう。

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-23-1】

回答（＝解釈）は二分される。全体的に多い回答は「断わるか引き受けるかわからない（だろう）」とする回答であり、日外ともに平均で半数を越える。次いで多いのが「断わりを言う to 理解する（だろう）」とする回答である。先の話題そらしの部分までを提示しての回答（図表Ⅱ-6-19-1）と比較すると、「引き受けそうだと理解する（だろう）」との回答が少なくなっている。主としてこれは、「断わるか引き受けるかわからない（だろう）」とする回答が増加したことに伴う変化である。つまり、まともに答えないことが重なるにつれて、主として「受諾」の可能性が減少するという方向で不明確さが増加する、ということである。これは母語や滞在国の違いを越えての普遍的な現象のようである。

なお、日外の違いも観察される。日本人の回答は、滞在国の人達は「分らないだろう」（や「受諾」）という解釈に大きく傾くのに対し、対照国の人々の回答は、母国の人達は「断わり」と理解するだろうという解釈もそれほど少くない。外国人の解釈の方がより現実に近いものと考えられるならば、実際には「断わり」と解釈している人が少なからずいるにもかかわらず、日本人は滞在国において、滞在国の人々の解釈を実際以上に「分らないだろう」寄りに解釈していることになる。国別で見ると韓国人の解釈について、日本人と韓国人の被調査者の間に大きなギャップが認められる。

性別集計【図表Ⅱ-6-23-2】

日外ともに、女性は男性よりも一層「分らないだろう」の比率が高いのに対し、男性は女性よりも「断わり」の比率が高い。男女いずれも全体としては「分らないだろう」が多数を占めるのであるが、男性の方がいくぶん悲観的な理解の推測に傾く（なお男性自身が悲観的な理解に傾くということではないので注意）。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-23-3】

日外に共通する年齢差は特に認められない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-23-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。ただし、在日外国人

(JP外)については、滞在年数が長い者ほど、母国の人々の解釈を「断わり」とする者が減少し逆に「分らないだろう」が増加する傾向が多少見られるようである。母国との馴染みの度合いが回答を左右している可能性がある。

Ⅱ.6.3.3.4. 対照国の人の印象

さらに続けて、この応答の仕方に対する対照国の人による「印象」を尋ねた。在日外国人(JP外)に対しては、自分自身の印象ではなく、母国人一般の印象を尋ねた。ここでも、対照国の人による意図の解釈をどのようなものと推測するかにより、推測する「印象」も変わってくると考えられるが、今回の分析では「印象」のみを独立して分析した。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものであり、在日外国人用では、「この国の人に向けて」の部分は「母国の人に向けて」に置き換えてある。

[質問文]

6.4.3. もし、日本人がこの国の人に向けて、このように「いやいや、まあ」という受け答えをしたら相手はどんなふう to 受け取ると思いますか？
B. ①好感を持たれるだろう。(「やわらかだ・おだやかだ」など)
②よい感じはしないだろう。(「はっきりしない・あいまいだ」など)

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-24-1】

母語や滞在国の違いに関わらず、対照国の人には「良い感じがしないだろう」とする回答が非常に多い。この前の段階の質問(図表Ⅱ-6-20-1)では、「好感を持たれるだろう」と「良い感じがしないだろう」に回答が二分されたのと比べると、大きな違いである。ともに答えないことが重なるにつれ否定的な印象は増加する。

なお、対照国の人への印象に対する日本人(外JP)による解釈は「良い感じがしないだろう」に非常に傾くのにに対し、外国人(JP外)によるこの解釈への傾き方はやや緩やかであり、「好感を持たれるだろう」とする解釈もそれほど少なくはない。対照国の人への印象に対する推測は、日本人の被調査者においてより否定的に傾く。外国人の被調査者の回答がより現実に近いところとすれば、日本人は滞在国の人々の持つ印象を実際以上に否定的に解釈する傾向にある、ということになる。

性別集計【図表Ⅱ-6-24-2】

全体として「良い感じがしないだろう」が多い。

際立った違いではないが、日外ともに、女性は男性よりも「好感を持たれるだろう」がさらに少なく、逆に「良い感じがしないだろう」がさらに多い。女性の方が対照国の人への印象をより否定的に解釈する傾向にある。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-24-3】

在外日本人(外JP)については明確な年齢差は特に認められない。

それに対し在日外国人(JP外)は、若年層になるにつれ「好感を持たれるだろう」が減少し逆に「良い感じがしないだろう」が増加するのが注目される。被調査者の回答が、主として同世代の母国人を想起してのものであるとすれば、言語行動についての評価の変化

の反映であろうか。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-24-4】

日外に共通する滞在年数による違いは特に認められない。

Ⅱ.6.3.4. 断わり行動の回避を目的とする関連性の低い事柄への話題転換

以上は、刺激映像の中年男性の応答が「受諾」なのか「断わり」なのか不明な状況（被調査者に映像の結論を示さない）での回答であった。すなわち、結論がどうであるかということと関係なく、談話展開様式や非言語行動が、被調査者自身や対照国一般あるいは日本人一般に与える〈知的理解〉や〈印象〉を、いわば純粋な形で求めようとしたのである（もっとも印象などは、中年男性の意図をどう理解するかにより違ってくる部分があるであろう）。

調査では、その次の段階として、中年男性はじつは「断わり」を言うことになっているのだという結論を被調査者に提示し、そうした前提で刺激映像を見た時どのような反応が得られるかを調べた。つまり、「断わる」ということを前提にして関連性の低い事柄へ話題転換すること、すなわち断わりの一時的回避を目的とする話題転換という行動をめぐって、その印象や日外の行動の違いを尋ねた。

Ⅱ.6.3.4.1. 被調査者の印象

まず、被調査者自身の感じる印象を次の質問文により尋ねた。なお、改めて刺激映像を提示することはしていない。

【質問文】

6.4.4. このビデオの範囲では結論が出てきませんが、実は、この中年男性はあとで引き受けにくいという断わりを言うことになります。それを前提にして考えると、この「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」という言葉は、どんな感じがしますか？
①好感が持てる。（「やわらかだ・おだやかだ」など）
②よい感じはしない。（「はっきりしない・あいまいだ」など）

【調査結果】

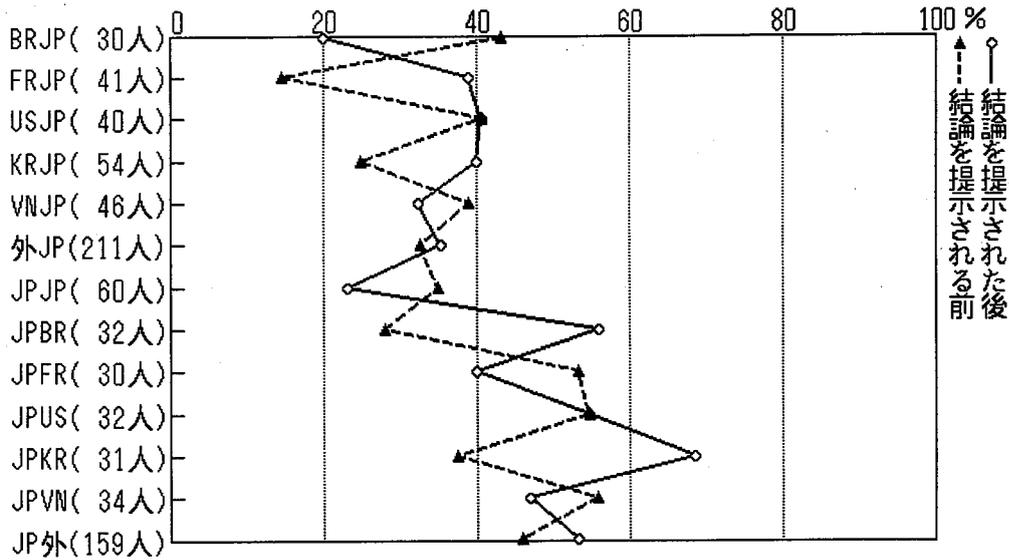
地域別集計【図表Ⅱ-6-25-1】

この段階でも、結果は「好感が持てる」と「良い感じがしない」で回答が二分される。日本人（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））はどちらかと言えば「良い感じがしない」に傾くのに対し、外国人（JP外）はどちらかと言えば「好感が持てる」に傾く。

結論を提示する前の結果（図表Ⅱ-6-18-1）と比較すると大幅な変化は認められないが、在外日本人（外JP）は全体としてはわずかな変化にとどまるのに対し、国内日本人（JPJP）は「好感が持てる」が減少し、逆に在日外国人（JP外）は「好感が持てる」が全体として増加する。

結論を提示する前と後の回答について、「好感が持てる」の回答者率を比較したのが次のページの図表Ⅱ-6-25-5である。

結論を提示した後に「好感が持てる」が大幅に上昇したのは、在外日本人（外JP）では



図表 II-6-25-5 結論を提示される前後の「好感が持てる」の回答者率 [6.3.1.B/6.4.4]

在仏日本人 (FRJP) と在韓日本人 (KRJP), 在日外国人 (JP外) では在日ブラジル人 (JPBR) と在日韓国人 (JPKR) である (特に結論提示後の在日韓国人 (JPKR) の数値の高さ自体も注目される)。結論を提示する前の段階で被調査者が感じた意図 (受諾か断わりか) とも関連させて考える必要はあるが, 「断わるつもり」が明確な場合は, そうでない場合と比べ評価が肯定的方向に大きくシフトするケースである。もっとも, 提示前の方がむしろ特別に数値が低かったと解釈すべき可能性もある。結果的に, 在外日本人 (外JP) については, 在伯日本人 (BRJP) 以外の数値は横並びに近い状態になった。

逆に, 結論を提示した後に「好感が持てる」が大幅に下降したのは, 在外日本人 (外JP) の在伯日本人 (BRJP) である。そうした意図が明確でない場合と比べ否定的方向に大きくシフトするケースであるが, こうしたケースは全体としては少ない。

性別集計【図表 II-6-25-2】

在外日本人 (外JP) は微妙であるが, それ以外では, 女性は男性に比べ「好感が持てる」が少なく逆に「良い感じがしない」が多い傾向が見られる。結論を提示する前の図表 II-6-18-2と同様, ここでも「印象」の点では, 女性からは男性からよりも否定的に見られる傾向にある。なお, 被調査者の性別による提示前後の変化の方向性の違いなどは特に無い。

年齢層別集計【図表 II-6-25-3】

日外に共通する明確な年齢差は特に認められない。在外日本人 (外JP) については, 若年層ほど「好感が持てる」が増加し逆に「良い感じがしない」が減少する傾向が多少見られるか。

滞在年数別集計【図表 II-6-25-4】

在日外国人 (JP外) には明確な滞在年数差はないが, 在外日本人 (外JP) については,

滞在年数が長い人ほど「好感が持てる」が減少する。仮に、こうした回避的なやり方を日本人に多い談話展開様式とすれば、日本を離れる期間が長くなるほど、そうした日本的なやり方に抵抗を感じる、ということであろうか。

II.6.3.4.2. 談話展開様式の日外比較

これまでは、被調査者がイメージする言語場面の拡散を防ぎそれを一定にコントロールするために刺激映像に密着した質問を続けたが、次に、「断わり」におけるこうした回避的な談話展開様式の使用頻度の日外の違いについて、さらに一般的な情報を得るべく、刺激映像から離れたこととして関連する質問をいくつか続けた。なお、海外での滞在経験の無いことを条件とした国内日本人（JPJP）に対しては、この質問は行なわなかった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、質問文と選択肢に出てくる「この国」の部分は「母国」に置き換えてある。

【質問文】

- 6.5.1. このような場合の断わり方について、日本とこの国とを比べるとどんなふうに感じますか？
- ①この国の方が、はっきり（あっさり）していることが多い。
日本の方が、遠回しなことが多い。
 - ②この国の方が、遠回しなことが多い。
日本の方が、はっきり（あっさり）していることが多い。
 - ③日本とこの国とは、あまり違わないと思う。

【調査結果】

地域別集計【図表 II-6-26-1】

いずれの地域でも「日本の方が遠回しな事が多い」とする回答が極めて多い。平均すると、在外日本人の約9割、在日外国人の約8割がこの回答である。それに対し「日本の方がはっきりしている事が多い」とする回答は極めて少ない。つまり、どの国と比較した場合でも、日本人の被調査者・外国人の被調査者を問わず、圧倒的多数の被調査者が「日本の方が婉曲的な断わり方をすることが多い」と意識しているのである。これが確かに事実だとすれば、こうした談話展開様式は日本人に特徴的なものということになる。ただし、こうした特徴は、外国との文化比較論の中でしばしば言及されるところであり、ステレオタイプに基づく回答も中には含まれている可能性がある。そのまま鵜呑みにできない部分もあろう。

なお、ベトナム人については、在越日本人（VNJP）・在日ベトナム人（JPVN）いずれも2割ほどの被調査者から「日本とあまり違わない」という回答を得ていること、また在越日本人（VNJP）の1割ほどの回答者からはむしろ「日本の方がはっきりしている事が多い」という回答を得ていることが注目される。ベトナム人は、日本人ほどではないものの、多少日本人に近い婉曲的な物言いをしていることがうかがわれる。在日韓国人（JPKR）の回答にも「日本とあまり違わない」が1割ほど認められる。大きく言えば、＜遠回しで言うことの少ないヨーロッパ圏＞対＜遠回しで言うことの多いアジア圏＞、という対立が指摘できようか。

在日ブラジル人（JPBR）には「日本とあまり違わない」という回答が4割近く出てくる

が、被調査者に日系人が少なくなく、母国の日系社会を想起しての回答が含まれているためであろうか。

性別集計【図表Ⅱ-6-26-2】

大きな違いは無いが、日外ともに、「日本の方が遠回しな事が多い」とする回答は男性よりも女性でさらに多い。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-26-3】

日外に共通する年齢差は特に認められないが、在外日本人（外JP）においては、ゆるやかにではあるが若年層ほど「日本の方が遠回しな事が多い」が減少し、「日本とあまり変わらない」や「日本の方がはっきりしている事が多い」が増加する傾向にある。映像刺激調査の量的補充を目的のひとつとして実施した東京都在住の日本人約1000人に対する郵送アンケート調査によると、後輩からの頼み事を断わる場合、「はっきりわかるように断わることが多い」とする回答はむしろ7～8割の多きを占める（尾崎喜光（1999）『日本語社会における言語行動の多様性』科研費報告書）。若年層に向けての変化は、そうした日本人自身の言語行動の変化を反映したものであろうか。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-26-4】

日外に共通する滞在年数による違いは特に認められない。なお、在日外国人（JP外）は、滞在年数が長くなるにつれて「日本の方が遠回しな事が多い」が減少する。これは、滞在年数が長くなるにつれ、日本人と言えども必ずしも遠回しに断らない場面に被調査者が遭遇する機会が多くなるためであろうか。

Ⅱ.6.3.4.3. 対照国の人の談話展開様式

直前の「談話展開様式の日外比較」の質問と関連するが、対照国の人の談話展開様式に焦点を当てての質問を行なった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、質問文に出てくる「この国」の部分は「母国」に置き換えてある。なお、国内日本人（JPJP）に対しては、この質問は行なわなかった。

【質問文】

6.5.2. 日本では、断わるとき、最初からはっきりと断わず、あいまいな表現をして相手が察してくれるのを待つ場合があるといいます。この国では、そのような断わり方とはっきり断わる断わり方と、どちらが多いと感じますか？
①はっきりと断わることが多いと思う。
②あいまいな表現をして、相手の察してくれるのを待つことが多いと思う。

【調査結果】

地域別集計【図表Ⅱ-6-27-1】

「はっきりと断わる事が多い（と思う）」という回答がどの国でも大半を占めている。直前の質問と対比させると、日本は婉曲的であるのに対し、日本以外は明示的、という違いが一層鮮明になる。

ただし、対照国の中でも多少違いがあり、ベトナム人は、在越日本人（VNJP）・在日ベ

トナム人（JPN）いずれの被調査者からも「はっきりと断わる事が多い（と思う）」とする回答は6～7割にとどまり、逆に在越日本人（VNJP）の2割ほどの被調査者からは「曖昧にして相手の察しを待つ事が多い（と思う）」という回答が得られているのが注目される。ベトナム人は、全体としては「はっきりと断わる」派の国だが、しかし他の国と比べると、多少婉曲的な物言いもしていることがうかがわれる。在日韓国人（JPKR）の被調査者にも「察しを待つ」派が1～2割ほど認められる。ここでも大きく言えば、＜「はっきりと断わる」派のヨーロッパ圏＞対＜「察しを待つ」派のアジア圏＞、という対立が指摘できようか。

在日ブラジル人（JPBR）では「はっきりと断わる事が多い（と思う）」とする回答がやや少ないが（逆に「曖昧にして相手の察しを待つ事が多い（と思う）」がやや多い）、被調査者に日系人が少なくなく、母国の日系社会を想起しての回答が含まれているためであろうか。

性別集計【図表Ⅱ-6-27-2】

日外に共通する明確な年齢差は特に認められない。男女ともに「はっきりと断わる事が多い（と思う）」とする回答が多い。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-27-3】

日外に共通する年齢差は特に認められないが、在外日本人（外JP）においては、ゆるやかにではあるが若年層ほど「はっきりと断わる事が多い（と思う）」が減少し、「曖昧にして相手の察しを待つ事が多い（と思う）」が増加する傾向にある（特に20代では2割に近い）。外国においても「察しを待つ」派が増える方向に変化しておりその反映ということであろうか。もしそうだとすれば、先に示した東京都内でのアンケート調査の結果とも比較すると、世界的に平準化に向っているとと言えるのかもしれない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-27-4】

滞在年数が短い者ほど「はっきりと断わる事が多い（と思う）」とする回答が減少する傾向にある（ただし在外日本人（外JP）は「短短」とそれ以上との間にのみ差が認められる）。もし外国においても「察しを待つ」派が増えているとすれば、母国の状況を比較的正確に把握できるのは母国を離れてから日の浅い人（＝日本での滞在がまだ短い人）であり、その反映であろうか。

Ⅱ.6.3.5. 断わり行動に随伴する＜笑い＞

日本人は、「断わり」など相手に対し否定的内容を伝達する時、相手に与えるショックをやわらげたり自身の躊躇を示すために、真剣な表情ではなく少し笑いながら言葉をぼかすことがよくある。状況によっては「不真面目」という印象を相手に与えかねない行動である。こうした断わり行動に随伴する＜笑い＞をめぐる、日本人・対照国の人による評価を次に尋ねた。なお、Ⅱ.6.2.2.でも＜笑い＞を問題にしたが、そこでは、中年男性の諾否が不明な段階で（つまり結末を明さない段階で）被調査者が受ける印象や発話意図を尋ねた。それに対しここでは、「断わり」の意図があることが明示された段階での評価を尋ねた。

II.6.3.5.1. 日本人による評価

まず日本人による評価を尋ねた。日本人の被調査者（在外日本人（外JP）・国内日本人（JPJP））に対しては、被調査者自身ではなく日本人一般はどうかということで質問した。

[質問文]

6.5.3. また、日本では、こういう断わりを言うとき、すこし笑いながら言葉をぼかすような話し方をすることがあります。日本人のそういう笑いを、日本人はどんなふうに受け取ることが多いと思いますか？

- ① おだやかな（やわらかな）態度だと思うだろう。
- ② あいまいな態度だと思うだろう。
- ③ 相手をバカにしているように感じるだろう。
- ④ その他

[調査結果]

地域別集計【図表 II-6-28-1】

全体的に最も多い回答は「おだやかな態度だと思う（だろう）」であり、次いで「曖昧な態度だと思う（だろう）」である。この2つの回答で全体の大半を占める。「相手をバカにしているように感じる（だろう）」という否定的な評価の回答は非常に少ない（ただし在越日本人（VNJP）の回答にやや多いのが注目される）。つまり、日本人の被調査者からも対照国の被調査者からも、《日本人はこうした＜笑い＞を「バカにされた」と否定的に評価することは少なく、主として「おだやかな態度だ」として肯定的に、否定的評価であっても「あいまいな態度だ」くらいの比較的穏やかな否定的評価で考えている》、とされているのである。

なお、日外の間傾向的な違いも観察される。多少の例外を除き、日外ともに、「おだやかな態度だと思う（だろう）」の方が「曖昧な態度だと思う（だろう）」よりも回答が多いのであるが、在日外国人（JP外）は大きく前者に傾くのに対し、在外日本人は後者の回答もそれほど少なくない（国内日本人（JPJP）はむしろ後者の方が多い）。すなわち、日本人の被調査者はどちらかと言えば「曖昧な態度だと思う（だろう）」寄りに、外国人の被調査者はどちらかと言えば「おだやかな態度だと思う（だろう）」寄りに回答しているのである。外国人の中でも、在日韓国人（JPKR）と在日ベトナム人（JPVN）というアジア圏を母国とする被調査者にこの回答の多いのが注目される。

日本人の意識についての質問であるので日本人の回答の方がより現実に近いものとするれば、外国人は日本人の評価を現実よりもより肯定的に（つまり「おだやかな」寄りに）理解している、ということになる。非常に単純化して言えば、断わりに伴う日本人の＜笑い＞を、当の日本人の被調査者は常に肯定的に評価しているわけではない（＝曖昧な態度だと評価することもある）にも関わらず、在日外国人の被調査者の目には（とりわけ韓国人やベトナム人の目には）、日本人はいつも肯定的に評価しているように映る、ということである。同一の現象に対する解釈のズレが観察される。

「その他」という回答もある程度出てきている。この回答には、回答者自身推測できないという意味での「わからない」という回答の他に、「時と場合による」というようないずれの評価もありうることを示す内容、さらには「普通の行動（と感じるだろう）」とい

うような評価以前の単なる習慣としての受け止めにとどまることを示す内容、の回答も含まれている。こうした回答は日本人の回答者に多い傾向にあるが、母語であるがゆえにそこまで考え得たのであろう。

性別集計【図表Ⅱ-6-28-2】

日外に共通する性差は特に認められない。

国内日本人（JPJP）と在日外国人（JP外）は、男性はより肯定的回答に（「おだやかな態度だ」寄りに）、逆に女性はより否定的回答に（「曖昧な態度だ」寄りに）傾くが、在外日本人（外JP）はむしろ逆の傾向にある。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-28-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

国内日本人（JPJP）は、40代以下で肯定的評価（「おだやかな態度だ」）から否定的評価（「曖昧な態度だ」）へと解釈が変化しつつあるように見える。それに対し在日外国人（JP外）はむしろ逆の動きを示す。日外で解釈がますます分れてきているのであろうか。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-28-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在外日本人（外JP）では、「短中」以下と「中中」以上の間に比較的大きな断絶が認められる。先に見た図表Ⅱ-6-28-3の国内日本人（JPJP）の年齢差が日本国内での変化を反映したものと考えられるならば、滞在年数が比較的長い「中中」以上の回答は、一昔前の日本の状況を反映したものであろうか。

Ⅱ.6.3.5.2. 対照国の人による評価

次に対照国の人による評価を尋ねた。在外日本人の被調査者（外JP）に対しては滞在国内での評価を、在日外国人（JP外）に対しては母国での評価を尋ねた。在日外国人（JP外）の場合は、被調査者自身ではなく母国の人一般はどうかということで回答を求めた。被調査者に想定してもらおう＜笑い＞の行為者は日本人とした。なお国内日本人（JPJP）に対してはこの質問は行なわなかった。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では「この国」の部分は「母国」に置き換えてある。

〔質問文〕

6.5.4. では、もし日本人がそういう笑いをこの国の人に見せたとしたら、この国の人はどんなふうに受け取ることが多そうだと思いますか？
①おだやかな（やわらかな）態度だと思うだろう。
②あいまいな態度だと思うだろう。
③相手をバカにしているように感じるだろう。
④その他

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-29-1】

回答は「おだやかな態度だと思う（だろう）」と「曖昧な態度だと思う（だろう）」と

「相手をバカにしているように感じる（だろう）」に三分される。このうち最も多い回答は「曖昧な態度だと思う（だろう）」であり、日外ともに4割を占める。次いで多い回答は、先の日本人の評価に関する質問では非常に割合が少なかった「相手をバカにしているように感じる（だろう）」であり日外ともに2～3割を占める。逆に日本人の評価に関する質問で回答が多かった「おだやかな態度だと思う（だろう）」はここでは非常に少なくなり、在日外国人（JP外）の回答で平均約2割、在外日本人（外JP）の回答では平均1割にも満たない。

直前の質問と関連させつつ単純化して言えば、断わりに伴う〈笑い〉を日本人は肯定的（＝「おだやかな態度だ」）に評価するだろうと解釈される傾向にあるのに対し、対照国の人是否定的に（＝「曖昧だ」「バカにしている」）に評価するだろうと解釈される傾向にある、という違いと言える。質問では、対照国における一般的評価について、被調査者のいざこざイメージを尋ねたわけであるが、回答の傾向はある程度実態を反映したものと推測されるので（特に自国に関する情報は）、この違いをく {日本人/対照国の人} 一般による評価の違いと読み換えることはある程度可能であろう。すなわち、断わりに随伴する日本人の〈笑い〉については、〈肯定的評価の日本人〉対〈否定的評価の対照国の人〉という対立が、このデータから推測されるのである。

なお、日外の間には傾向的な違いも多少観察される。日本人の〈笑い〉を「おだやかな態度だと思う（だろう）」とする回答は在外日本人（外JP）よりも在日外国人（JP外）に多い。対照国についての質問であるので在日外国人（JP外）の回答の方がより現実に近いものとするれば、日本人は滞在国において対照国の人々の評価を実際よりも否定的に評価している可能性がある。

対照国による違いも見られる。日本人の〈笑い〉についてフランス人は、日本人（FRJP）からもフランス人（JPFR）自身からも、肯定的に評価するだろうとは全く思われておらず、逆に「バカにしているように感じる（だろう）」という強い否定的な評価の回答が4～5割を占める。アメリカ人に対する日本人（UAJP）の回答もややこれに近い。それに対しベトナム人は、日本人（VNJP）からは他の国に比べ肯定的な評価の回答もある程度得られているし、またベトナム人自身（JPVN）からは強い否定的な回答は他の国に比べ少ない。

すなわち、対照国といっても決して単一ではなく、フランス人（やアメリカ人）は断わりに随伴する〈笑い〉を非常に否定的に評価するのに対し、ベトナム人は必ずしもそうではなく肯定的な評価の余地も残している、という違いが指摘できる。先に見たように、日本人一般による評価はかなり肯定的評価に傾いていたことと考えると、これはさらに大きく、〈ヨーロッパ圏の否定的評価〉対〈アジア圏の肯定的評価〉という対立と見る可能性がある（ただし韓国についてはデータの上からは中間的である）。

性別集計【図表Ⅱ-6-29-2】

日外に共通する性差は特に認められない。

在日外国人（JP外）については、男性の被調査者は女性の被調査者よりも母国での評価を肯定的に（「おだやかな態度だと思う（だろう）」）、逆に女性の被調査者は男性の被調査者よりも否定的に（「バカにしているように感じる（だろう）」）解釈する傾向にある。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-29-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在外日本人（外JP）で、「おだやかな態度だと思う（だろう）」とする回答が若年層になるにつれ一貫して増加する傾向が見られるのがやや注目される。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-29-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

先の年齢差と同様、在外日本人（外JP）で、「おだやかな態度だと思う（だろう）」とする回答が滞在年数が短いほど増加する傾向が見られるのがやや注目される。年齢との相関が推測される。

Ⅱ.6.4. 談話展開様式の違い等に起因する現住国での言語摩擦の経験

「場面6」の質問の締めくくりとして、刺激映像をめぐる具体的場面に引き寄せての質問から離れ、もっと一般的なこととして、談話展開様式の違い等に起因する滞在国での言語摩擦の経験の有無やその内容を尋ねた。

なお、今回の分析では、「有る」と回答した人の内容分析にまでは踏み込まず、経験が有るか無いかの分析にとどめた。内容に関する分析は今後の課題とする。

調査場面で被調査者に提示したリストは一見選択肢のように見えるが、じつはそれぞれが下位質問であり、それぞれについて経験の有無およびその内容を尋ねている。

Ⅱ.6.4.1. 断わり行動の明瞭さに起因するとまどい

まず、断わり行動の明瞭さに起因するとまどいの経験についてであるが、ここでは、自分の依頼に対し相手から予想よりもはっきりと断わられてとまどった経験を尋ねた。つまり、明瞭すぎることによるとまどいである。

下に掲げた質問文は在外日本人用のものである。在日外国人用では、質問文の「この国の人」の部分は「日本人」に、また「日本」は「母国」に、それぞれ置き換えてある（以下の質問でも同様）。すなわち、被調査者の母国と比べ現住国ではどうかということの日外それぞれに対し尋ねたのである。なお、選択肢の文中に記した「予想より」という表現は多少曖昧であった。我々の意図としては「母国と比べて」という意味での回答を求めたつもりであったのだが、「現住国に対する被調査者の予想と比べて」と理解することも可能であり、そうした基準で回答したケースも含まれている可能性がある。また、「予想よりはっきりと断わられる」ことは必ずしも「とまどい」に直結するとは限らない（例えば「そういうものなのかと思った」という客観的な反応もありうる）。こうした回答の性質の違いは、被調査者による特別なコメントが無い限り峻別することは不可能である。ここでは、そうした回答の多様性を含み得るデータを分析することになる。

〔質問文〕

6.5.5. 人に依頼したり依頼されたりしたようなとき、その断わり方や引き受け方で、この国の人のやり方が日本と違うと感じたり、何かとまどったりしたような経験はありませんか？
① 予想よりはっきりと断わられてとまどった。

〔調査結果〕

地域別集計【図表Ⅱ-6-30-1】

全体として見ると、回答は「有る」「無い」いずれかに極端に片寄ることなく両者に分散する。つまり、日外いずれの被調査者についても、現住国においてある程度の割合の人は、明瞭すぎる断わり方にとまどいを経験していることが分かる。

ただし日外の傾向的な違いも見られる。在外日本人（外JP）は平均で約半数の人が「有る」と回答しているのに対し、在日外国人（JP外）の「有る」の回答は4人に1人程度にとどまる。すなわち、こうしたとまどいは、在日外国人（JP外）よりもむしろ在外日本人（外JP）が受けることとまどいであることが分かる。この結果からも、全般的に外国人の断わり方は日本人のそれと比べ直接的・明示的であることの多いことが推測される。ただし、直接的・明示的であるということは、対人的配慮が希薄であることには直結しない。例えば英語の場合、「断わる」というメッセージ内容は明瞭であったとしても、表現には相手の気持ちをおもんばかる一定のルールがあると言う（鳥飼玖美子著『ことばが招く国際摩擦』ジャパンタイムズ、1998年）。

対照国の中でも国による違いが観察される。

在外日本人（外JP）について言えば、「有る」が少ないのは在越日本人（VNJP）である。「有る」の数値は在日外国人の平均とほぼ同じレベルであり、ベトナム人は日本人と同じくはっきり断わることが少ない国民であることがうかがわれる。

逆に在外日本人（外JP）で「有る」が多いのは在韓日本人（KRJP）であり、約7割を占める。韓国は日本の隣国ではあるが談話展開様式はじつは日本と随分異なるのだ、と素直に受け止めるべき結果かもしれない。しかし別の要因による可能性も考えられる。すなわち、韓国は日本の隣国であり顔も日本人とほとんど同じであるがために談話展開様式も日本と同じだろうと予想していたところ、必ずしもそうではなかった。＜日本と違うかもしれない＞という構えが形成されていないだけにその落差が大きく、そのため「有る」の回答が非常に高くなった可能性も考えられる。つまり、先に言及した、現住国に対する被調査者の予想（「日本と同じだ」という予想）と比べて回答したことが効いている可能性が考えられる。

在日外国人（JP外）について言えば、在日アメリカ人（JPUS）の数値の高さが注目される。無回答（ND）を除いた部分で見るとそれは一層顕著である。「日本人ははっきりNOと断わることを嫌う」というステレオタイプが在日アメリカ人（JPUS）に強く形成されていて、しかし実際は必ずしもそうではなく現実との落差が大きいことに基づく結果であろうか。

在日ベトナム人（JPVN）には「有る」が少ないが、在越日本人（VNJP）で「有る」が少なかったことの裏返しと見ることができよう。

性別集計【図表Ⅱ-6-30-2】

日外に共通する性差は特に認められない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-30-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在外日本人（外JP）においては、20代と30代以上の間に大きな開きがあり、20代では「有る」は3人に1人程度にとどまっている。東京都在住者を対象とした調査によると、はっきり分かるような断わり方をする人はじつは日本でも少なくなくむしろ多数を占める（既出の『日本語社会における言語行動の多様性』による）。その動向を反映しているのかもしれない。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-30-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在外日本人（外JP）においては、「短短」と「短中」以上の間に大きな開きがあり、20代では「有る」は3人に1人程度にとどまっている。「短短」というのは滞在年数が2年未満の者であるが、そうした経験は2年以上の滞在で一段と多くなるということであろうか。ただし「短短」には若年層が多く含まれているので、先の年齢との相関も考えられる。

Ⅱ.6.4.2. 諾否の不明瞭さに起因するとまどい

次に、やはり断わり行動の明瞭さに起因するとまどいの経験であるが、自分の依頼に対する相手からの返事の内容（諾否）が不明瞭であったためにとまどった経験を探ねた。質問文では明示的ではないが、これについても、単に不明瞭でとまどった経験というよりも、予想よりも不明瞭であったためにとまどった経験の有無を探ねている。刺激映像との関連で言えば、中年男性による「いやいや、まあね」という諾否が不明瞭な応答に起因するようなとまどいである。

【質問文】

6.5.5. (同上)

② 返事がはっきりせず、あいまいで、とまどった。

【調査結果】

地域別集計【図表Ⅱ-6-31-1】

在外日本人（外JP）は「無い」に、在日外国人（JP外）は「有る」に大きく傾く。直前の質問のちょうど裏返しの関係である。主として在日外国人が経験するとまどいと言える。ここからも、日本人の言語行動は外国人と比べ曖昧であることが推測される。

対照国の中でも国による違いが観察される。

在外日本人（外JP）について言えば在越日本人（VNJP）で「有る」の多いのが注目される。なお在伯日本人（BRJP）にも「有る」は多いように見えるが、在仏日本人（FRJP）と在米日本人（USJP）で「ND」が多かったことを考慮すれば、跳び抜けた多さというほどではない。

在日外国人（JP外）について言えば、ベトナム人（JPVN）や韓国人（JPKR）は「無い」も4割前後いるのに対し、フランス人（JPFR）やアメリカ人（JPUS）は「無い」が非常に少なく「有る」が大半を占めているのが注目される。ヨーロッパ圏対アジア圏の対立と言えそうである。なお、同じくヨーロッパ圏であるブラジル人（JPBR）に「無い」が4割ほ

どいるのは、被調査者の中に日系人が少なからず含まれていたことによる可能性が考えられる。

性別集計【図表Ⅱ-6-31-2】

日外に共通する性差は特に認められない。在日外国人（JP外）では、「有る」は特に女性に多いのが注目される。回答の内容分析にまで踏み込まないと明確な理由は不明である。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-31-3】

年齢差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在日外国人（JP外）では若年層の20代で「有る」が大幅に減少するが、異文化への順応性が高いことによるものであろうか。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-31-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在日外国人（JP外）においては、「短短」と「短中」以上の間に大きな開きがあり注目される。「短短」は滞在年数が2年未満であるが、そうした経験は2年以上の日本滞中で一段と多くなるということであろうか。

Ⅱ.6.4.3. 関連性の低い事柄への話題転換や〈笑い〉に起因するとまどい

さらに、自分の依頼に対しともに答えず関連性の低い別の事柄へと話題を転換したり、その際〈笑い〉を見せたりすることに起因するとまどいの経験を尋ねた。やはり質問文では明示的ではないが、予想よりもそれが著しかったためにとまどった経験の有無を尋ねている。刺激映像との関連で言えば、中年男性による「まあ、ちょっとビールなんか付き合わない？」という応答に起因するようなとまどいである。

[質問文]

6.5.5. (同上)

③ 笑ったり、話題をそらしたりされて、とまどった。

[調査結果]

地域別集計【図表Ⅱ-6-32-1】

「ND」が多くなるためグラフが多少読み取りにくくなるが、在外日本人（外JP）は「無い」に大きく傾くのにに対し、在日外国人（JP外）は「有る」と「無い」が拮抗する。主として在日外国人が経験するとまどいと言える。

対照国の中でも国による違いが観察される。

在外日本人（外JP）について言えば、在越日本人（VNJP）で「有る」が3人に1人ほどと比較的多いのが注目される。ベトナム人にも多い言語行動と言えそうである。

在日外国人（JP外）について言えば、フランス人（JPFR）やアメリカ人（JPUS）は「有る」に傾くのにに対し（特にアメリカ人の「ND」を除いた部分での傾きは大きい）、韓国人（JPKR）やブラジル人（JPBR）は「無い」に大きく傾く。ブラジル人の被調査者の中には日系人が少なからず含まれていたことを考えると、これも大きく、ヨーロッパ圏対アジア圏の対立と言えようか。ただしこの質問については、ベトナム人（JPVN）にも「有る」

の回答が半数おり、意外な結果であった。回答の内容分析をしないと詳しい理由は分からないが、同じく<笑い>や話題そらしであっても、やり方や内容が日本とベトナムで異なるためであろうか。

性別集計【図表Ⅱ-6-32-2】

日外に共通する性差は特に認められない。

先の「あいまいでとまどった経験」の回答と異なり、在日外国人（JP外）では「有る」は女性よりもむしろ男性にいくぶん多いのが注目される。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-32-3】

日外に共通する年齢差は特に認められないが、在外日本人（外JP）においては若年層で（特に20代で）「有る」が多いのが注目される。言語状況が変化していることによる可能性もあるが、若年層の多いベトナムの結果が大きく反映している可能性もある。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-32-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在日外国人（JP外）の「長長」は「有る」がずいぶん多いが、全体の人数が少ないので安定した数値ではないかもしれない。

在外日本人（外JP）においては滞在年数が短い者ほど「有る」が多くなるのが注目される。年齢差や、滞在期間の短い被調査者の多いベトナム人の結果が反映されている可能性がある。

Ⅱ.6.4.4. 自他の了解のくい違いの経験

最後に、以上を包含する面もあるが、<とまどい>という心理レベルではなく、コミュニケーション上の<誤解の有無>という客観的事実を広く尋ね、質問を締めくくった。ここでも、談話展開様式や言語行動の習慣の違いに起因する誤解の経験を尋ねることを主としたが、誤解の内容に言及してある回答の中には、言語運用能力以前の言語能力の不足に起因すると判断されるケースも含まれていた。本来であれば区別すべき回答であるが、これについても今回は踏み込まず今後の課題のひとつとする。

なお、質問文の末尾を「あとから解った」としたことも示されているように、ここではそれと判明した誤解のケースを尋ねている。誤解と判明されず埋もれたままになっている誤解というものも現実には多数存在していると推測されるが、被調査者の意識を言語データのよりどころとする今回の調査方法ではそうした部分は明らかにしえず、調査者による観察等別の調査方法が必要となる。すなわちこのデータは、あくまでそれと分かったケースについての情報である。

【質問文】

6.5.5. (同上)

④ こちらの了解と相手の気持がくいちがっていたことがあとから解った。

【調査結果】

地域別集計【図表Ⅱ-6-33-1】

日外ともに「有る」の方が「無い」よりも優勢である。「無い」に対する「有る」の度合いは、在日外国人（JP外）よりも在外日本人（外JP）でより強い。すなわち誤解は、どちらかと言えば日本人の側でより多く経験する事象と言えそうである。

対照国の中でも国による違いが観察される。

在外日本人（外JP）について言えば、在韓日本人（KRJP）・在越日本人（VNJP）で「有る」が7～8割と多いのに対し、在仏日本人（FRJP）は「ND」を除いた部分で見ても「有る」の回答は半数に満たない。ここにもヨーロッパ圏対アジア圏の対立がうっすらと浮かべそうである。ヨーロッパ圏での言語行動は比較的明示的であるため誤解が少ないのに対し、アジア圏は、特にベトナムがそうであるように（図表Ⅱ-6-31-1参照）非明示的であったり、また韓国の場合は「言語行動が日本人と違うかもしれない」という構えが日本人に形成されにくい可能性があるために、誤解が多いのかもしれない。

在日外国人（JP外）について言えば、フランス人（JPFR）やアメリカ人（JPUS）は「ND」を除いた部分で見ると「有る」は8割と多いのに対し、韓国人（JPKR）やベトナム人（JPVN）の「有る」は半数程度にとどまる。ブラジル人（JPBR）で「ND」を除いた部分で見ても「有る」の数値が低いのは、被調査者に日系人が少なからず含まれていることによるところがあろう。

性別集計【図表Ⅱ-6-33-2】

日外に共通する性差は特に認められない。

年齢層別集計【図表Ⅱ-6-33-3】

日外に共通する年齢差は特に認められないが、在外日本人（外JP）においては40代以下で「有る」の割合が多くなるのが注目される。40代以下では、被調査者の現住国が特定の外国に集中するということはないので、国による言語行動の違いとは別の要因が考えられる。例えば、40代以下の在外日本人はコミュニケーション上の誤解の存在に敏感である、というようなことが可能性として考えられる。

滞在年数別集計【図表Ⅱ-6-33-4】

滞在年数差についても、日外に共通する特徴は特に認められない。

在日外国人（JP外）では、「短中」以下で「有る」の割合がやや多くなるのが注目される。年齢層との相関も考えられる。

Ⅱ.6.5. まとめ

以上、映像刺激調査の「場面6」で主たる課題とした＜確認行動＞＜断わり行動＞における談話展開様式の日外比較を中心に、全項目について調査結果を報告した。

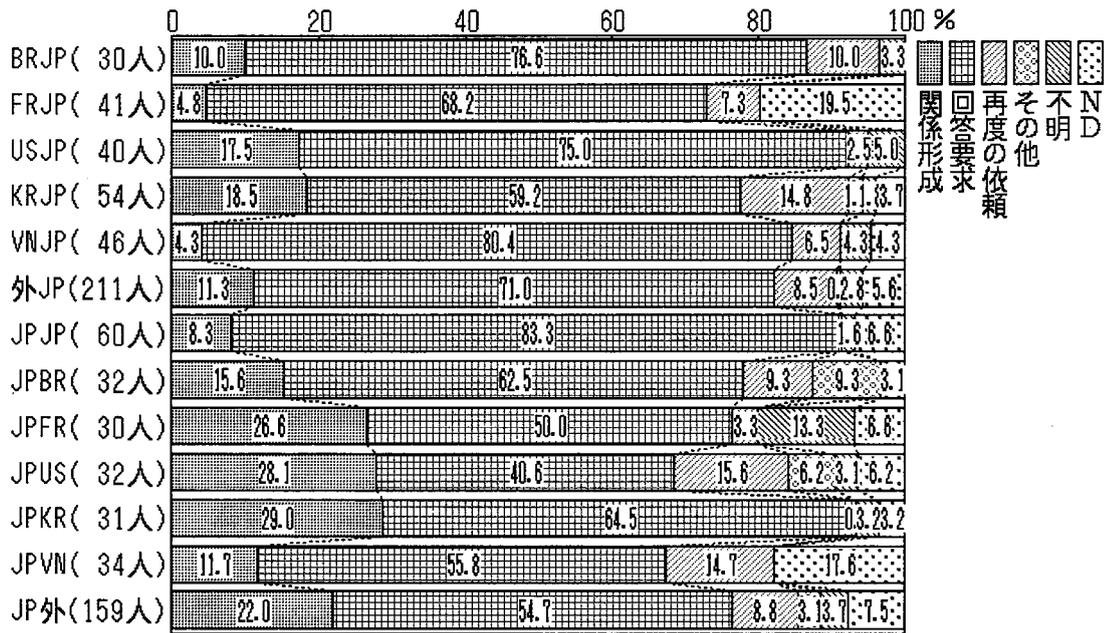
本章では、「地域差」に加え「性差」「年齢差」「滞在年数差」からの分析も全項目について試みた。調査項目によってはそれらが比較的明瞭な形で観察されるものもあったが、多くの項目においては「地域差」の方がはるかに鮮明な形で浮び上がってきた。そのこと自体、得られた知見のひとつであった。

そこで最後に、「地域差」に焦点をしばって、得られた結果のおもな点を簡単にまとめておくことにする。

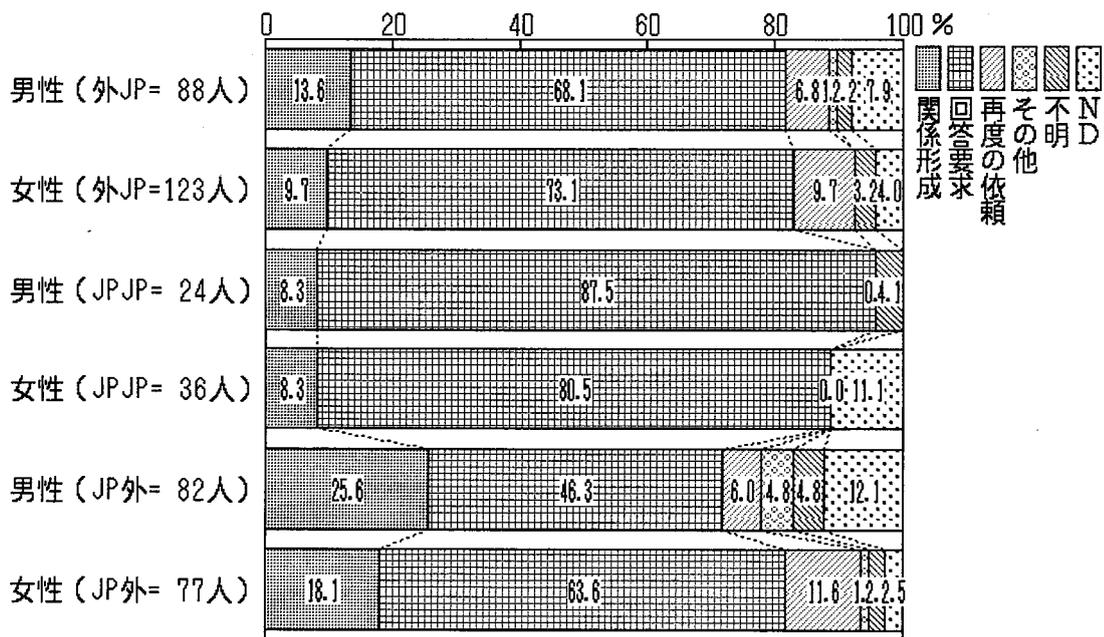
- ①日本人同士が会話を開始している場面を無音映像で提示し、登場人物がいったい何をしているところだと思いかを尋ねたところ、在日外国人の回答では挨拶・感謝等の「関係形成」に該当する回答が少なくなかった。日本人の談話展開様式が在日外国人にどう認識されているかを示す結果と言えそうである（「日本人なら何はともあれまず挨拶から始めるはずだ」という認識）。【図表Ⅱ-6-9-1】
- ②やはり日本人同士が会話している無音映像で、相手の発話に応じる際に伴うく笑い>に対する印象を尋ねたところ、アジア圏の被調査者は肯定的印象、それに対し欧米圏の被調査者は否定的印象、という傾向的な対立がうかがわれた。【図表Ⅱ-6-11A-1】
- ③また、そのく笑い>から感じられる応答内容の諾否についての意図を尋ねたところ、在外日本人は「断りそう」に、逆に在日外国人（とりわけ在日ベトナム人）は「引き受けそう」に傾いた。依頼に対する応答場面のく笑い>を、日本人はどちらかと言えば否定的内容の徴候として、逆に外国人はどちらかと言えば肯定的内容の徴候として受け止めているようである。なお男女別に見ると、日外いずれも、女性の方が肯定的内容の徴候として受け止める傾向にある。【図表Ⅱ-6-12-1,-2】
- ④談話展開様式のひとつとして、いきなり用件に入るかどうかについて、対照国での状況を尋ねたところ、全体としてはどの国でも「少し間を置いて自分から切り出す」が多いものの、それを除いた部分で言えば、アジア圏では「相手の返事を待つ」に、逆にヨーロッパ圏では「すぐに自分から切り出す」に多少傾く。【図表Ⅱ-6-14-1】
- ⑤相手の確認発話に対し別の事柄（ビールの誘い）に話題を転ずる映像を提示し、依頼に対する応答内容の諾否を尋ねたところ、外国人の被調査者は「引き受けそう」とする回答がある程度見られるのに対し、日本人の被調査者は「断わりそう」に大きく傾く。【図表Ⅱ-6-17-1,-20-1】
- ⑥そうした話題転換を日本人が対照国の人に示した場合、相手の対照国の人はどう受け止めるかを尋ねた。日本人は滞在国において、対照国の人を理解を実際よりも「受諾」寄りに解釈している可能性がある。もし「断わり」のつもりの話題転換であれば、日本人が推測する以上に「断わり」として正しく伝達されているらしい。「外国人からは『受諾』と受け止められてしまうだろう」とする日本側のステレオタイプが強過ぎる可能性がある。対照国の人を受ける「印象」についても同様のことが指摘できる。【図表Ⅱ-6-19-1】
- ⑦「だめだったんですね？」という確認発話に対し、少し笑いながら「いやいや、まあね」とあいまいに応じる映像を提示し、被調査者が感じる発話意図を尋ねた。日本人の被調査者は「断わり」の確信をさらに強める傾向にあるのに対し、外国人の被調査者はまだ可能性ありと考え続ける傾向にある。また、それを見て被調査者自身が受ける印象は日外いずれも「良い感じがしない」に大きく傾く。まともに答えないことが重なるにつれ否定的印象が増加するようである。【図表Ⅱ-6-21-1,-22-1】
- ⑧対照国の人一般はそうしたあいまいな発話をどう理解するかを尋ねたところ、日外の被調査者で違いが見られた。「断わり」と理解する人が対照国にも少なからずいるらしいにもかかわらず、日本人の被調査者は滞在国において、対照国の人を理解を実際以上に「分らないだろう」寄りに解釈している可能性がある。特に韓国人一般の解釈についてギャップが大きい。また、それを見て対照国の人一般が受ける印象は「良い感じがしな

い」に大きく傾く。まともに答えないことが重なるにつれ否定的印象が増加するようであるが、ここでも日本人は対照国の人の持つ印象を実際以上に否定的に解釈する傾向にある。ステレオタイプが強過ぎる可能性がある。【図表Ⅱ-6-23-1,-24-1】

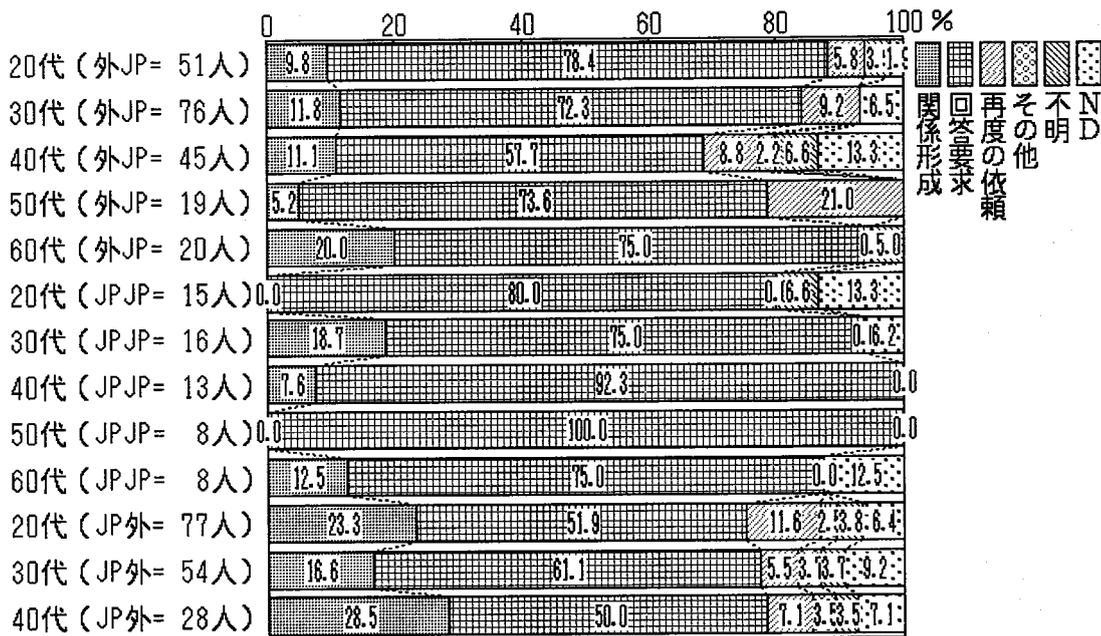
- ⑨依頼の「断わり」の言い方について、日本と対照国でどちらがより婉曲的かと尋ねたところ、どの国との比較においても、日本人の被調査者・外国人の被調査者を問わず、圧倒的多数の被調査者が「日本の方が婉曲的な断わり方をすることが多い」と意識している。こうした談話展開様式は日本人に特徴的なものと言えそうである（ただしステレオタイプに基づく回答も含まれている可能性がある）。これはさらに、＜遠回しで言うことの少ないヨーロッパ圏＞対＜遠回しで言うことの多いアジア圏＞という対立につながる可能性もある。【図表Ⅱ-6-26-1】
- ⑩さらに、依頼に対する「断わり」について対照国でのやり方を尋ねたところ、日本は婉曲的であるのに対し外国は明示的、という違いが一層鮮明になった。これもさらに大きく言えば、＜「はっきりと断わる」派のヨーロッパ圏＞対＜「察しを待つ」派のアジア圏＞、という対立につながる可能性がある。【図表Ⅱ-6-27-1】
- ⑪「断わり」に随伴する＜笑い＞については、日本人の被調査者からも外国人の被調査者からも、《日本人はこうした＜笑い＞を「バカにされた」と否定的に評価することは少なく、主として「おだやかな態度だ」として肯定的に、否定的評価であっても「あいまいな態度だ」くらいの比較的穏やかな否定的評価で考えている》、という回答が最も多く得られた。外国人の中でも、在日韓国人（JPKR）と在日ベトナム人（JPNV）というアジア圏を母国とする被調査者に「（日本人は）おだやかな態度だと思う（だろう）」とする回答が多いのが注目される。なお、日外による解釈のズレも少し観察される。すなわち、断わりに伴う日本人の＜笑い＞を、当の日本人の被調査者は常に肯定的に評価しているわけではない（＝曖昧な態度だと評価することもある）にも関わらず、在日外国人の被調査者の目には（とりわけ韓国人やベトナム人の目には）、日本人はいつも肯定的に評価しているように映る、という違いである。在日外国人においてもステレオタイプが強過ぎる可能性がある。【図表Ⅱ-6-28-1】
- ⑫「断わり」に随伴する＜笑い＞についての対照国の人による印象も尋ねた。日本人の印象と関連させて単純化して言えば、＜肯定的評価の日本人＞対＜否定的評価の外国人＞という対立が推測される。外国の中にも異なりがあり、＜ヨーロッパ圏の否定的評価＞対＜アジア圏の肯定的評価＞という対立が見られる可能性がある。【図表Ⅱ-6-29-1】
- ⑬刺激映像から離れ一般的なこととして、断わり行動が明瞭であることに起因するとまどいの経験を尋ねた。「有る」とする回答は、在日外国人よりも在外日本人に多かった。全般的に外国での断わり方は日本のそれと比べ直接的・明示的であることの多いことが推測される。【図表Ⅱ-6-30-1】
- ⑭逆に、諾否の不明瞭さに起因するとまどいの経験、あるいは関連性の低い事柄への話題転換や＜笑い＞に起因するとまどいの経験は、むしろ在日外国人に多かった。日本人の言語行動は外国人と比べ曖昧であったり、＜笑い＞を随伴させながら関連性の低い事柄へ話題を転換することが多いことが推測される。これらの対立は、さらに大きくヨーロッパ圏対アジア圏の対立につながる可能性がある。【図表Ⅱ-6-31-1,-32-1】
- ⑮自他の了解のくい違いの経験については、どちらかと言えば日本人側でより多く経験することと言えそうである。また、「有る」の回答はアジア圏に多く、ヨーロッパ圏対アジア圏の対立につながる可能性がある。【図表Ⅱ-6-33-1】



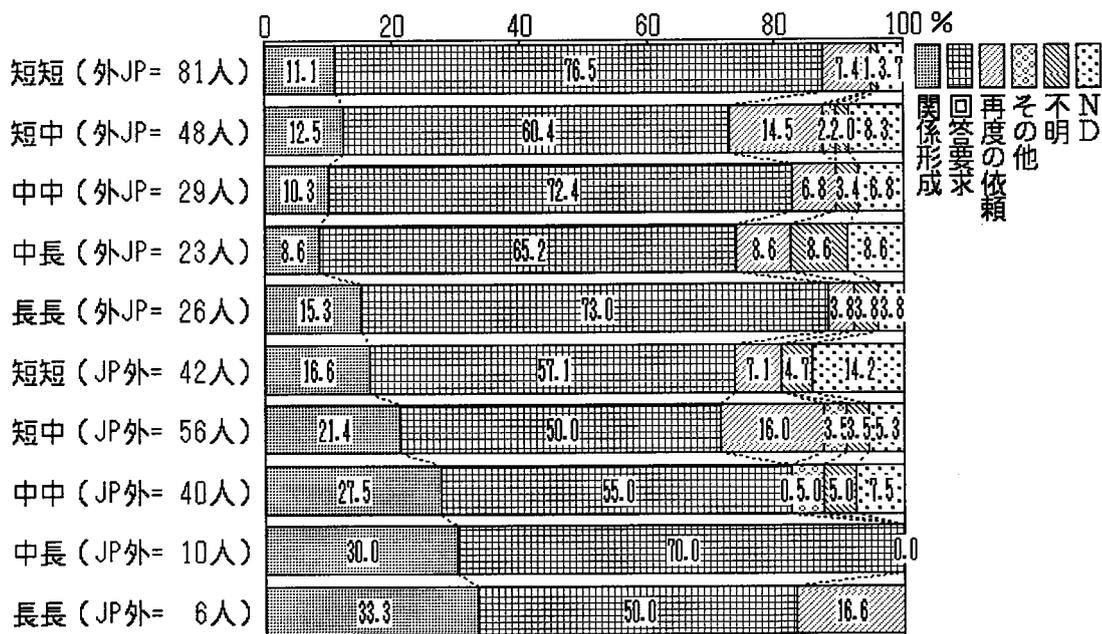
図表Ⅱ-6-9-1 映像から感じられる発話・発話内容（地域別集計） [6.1.1]



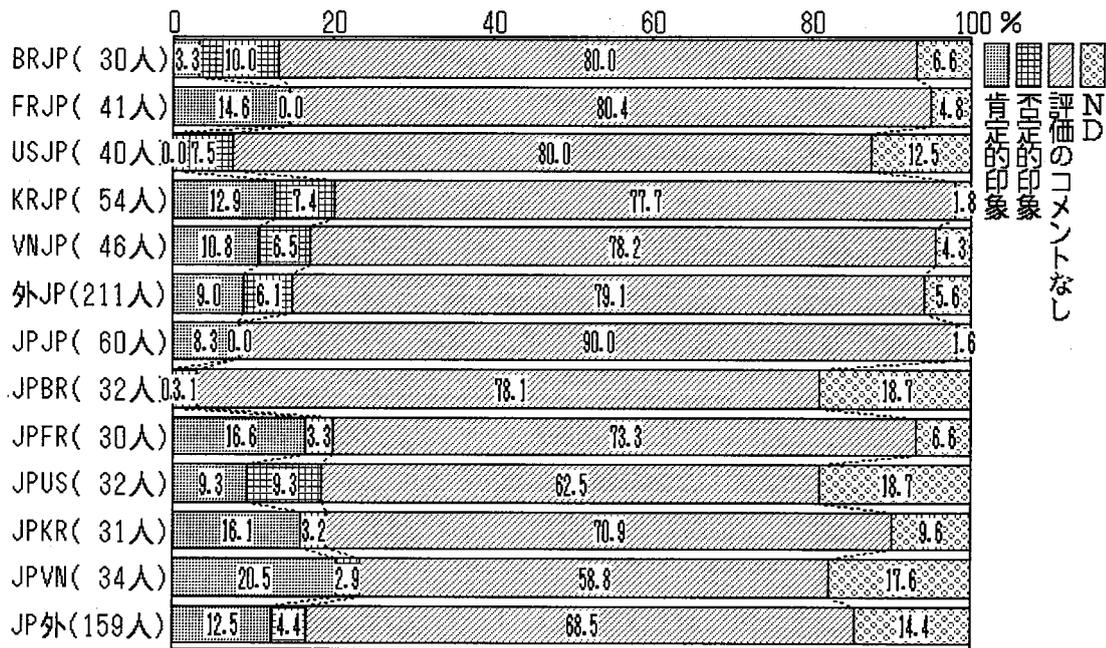
図表Ⅱ-6-9-2 映像から感じられる発話・発話内容（性別集計） [6.1.1]



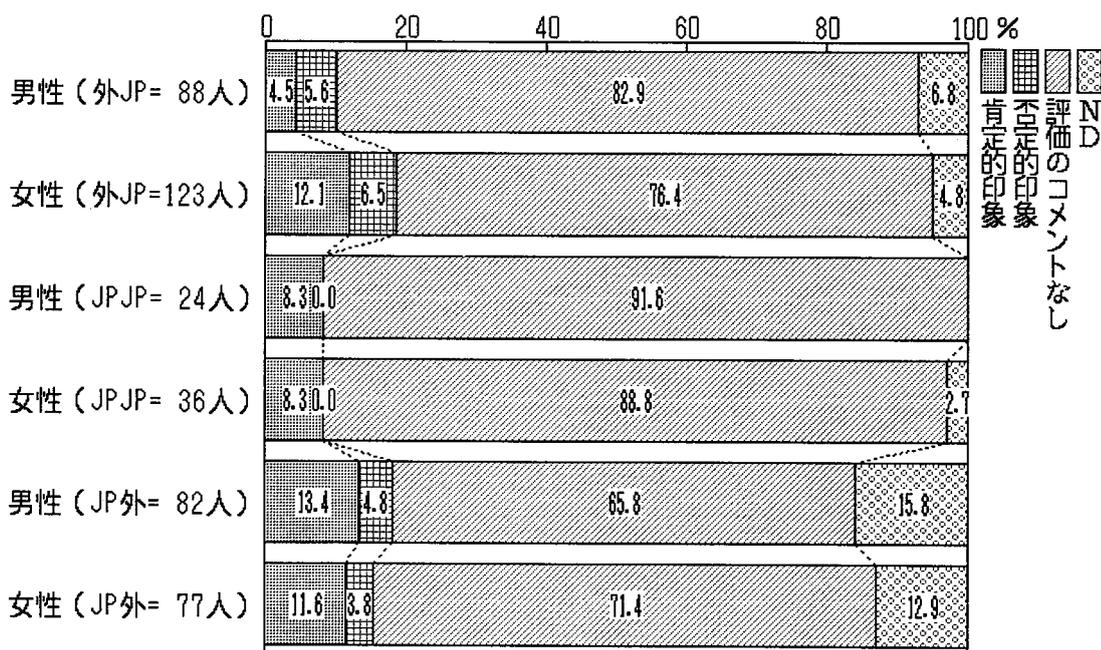
図表Ⅱ-6-9-3 映像から感じられる発話・発話内容（年齢層別集計） [6.1.1]



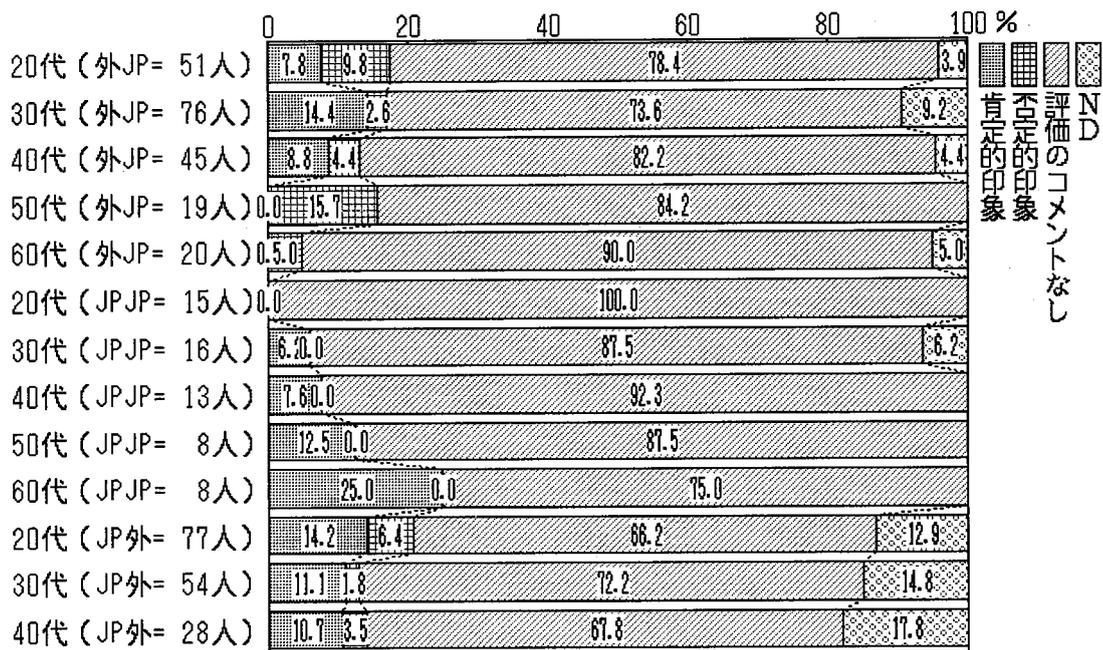
図表Ⅱ-6-9-4 映像から感じられる発話・発話内容（滞在年数別集計） [6.1.1]



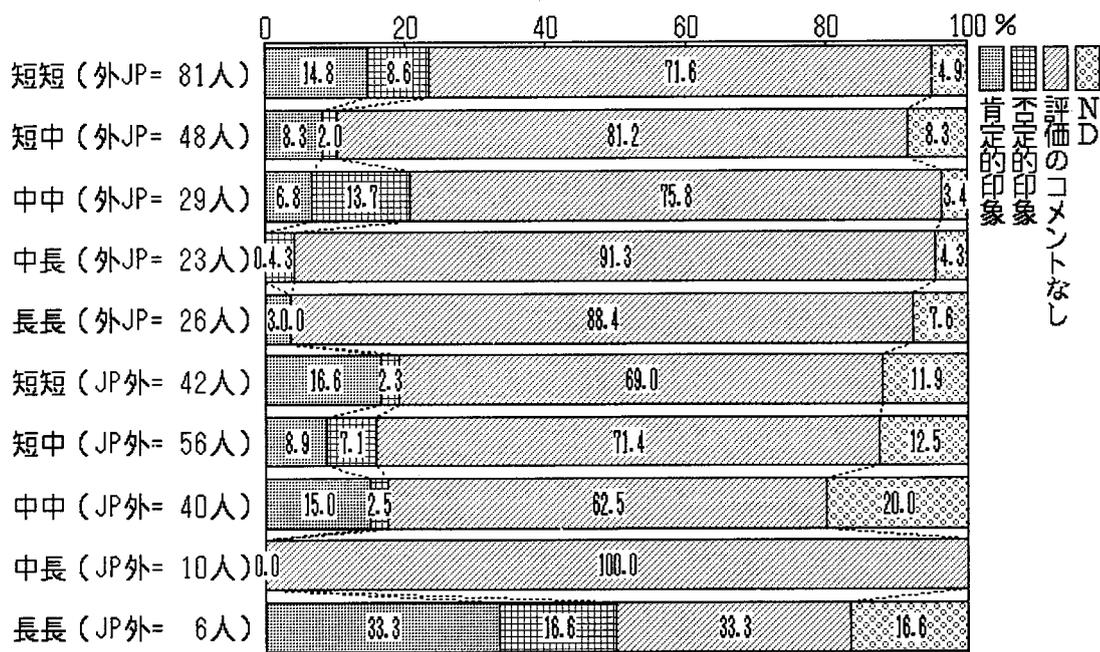
図表Ⅱ-6-10A-1 非言語行動から受ける印象〔方向性〕（地域別集計）〔6.1.2〕



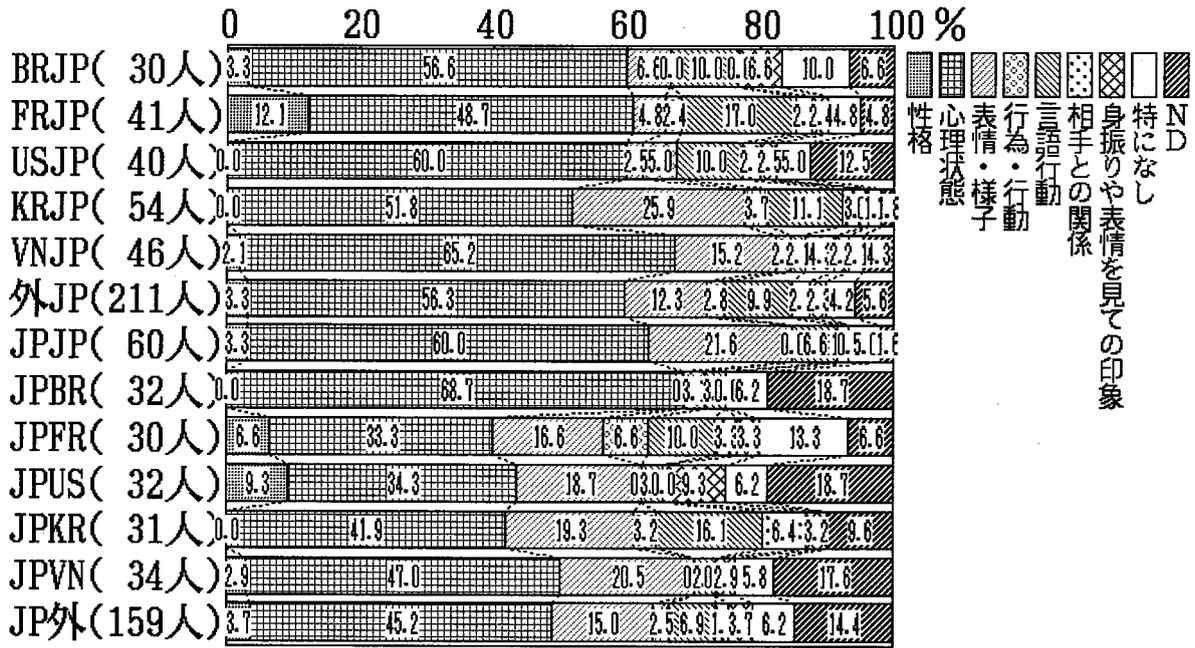
図表Ⅱ-6-10A-2 非言語行動から受ける印象〔方向性〕（性別集計）〔6.1.2〕



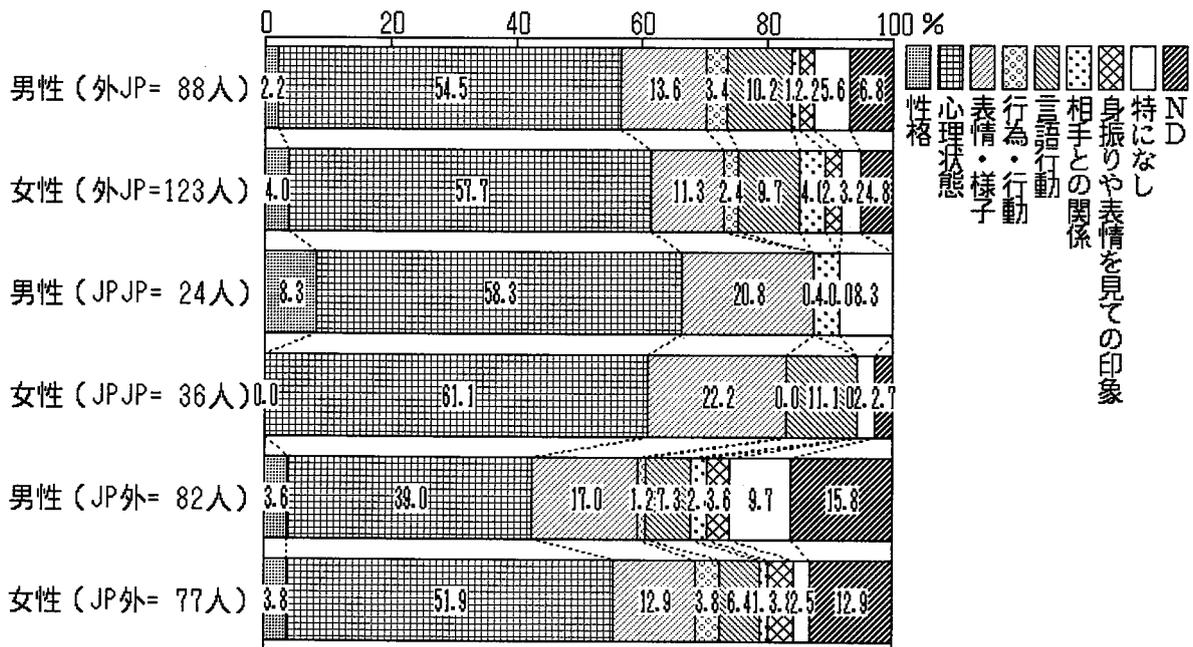
図表Ⅱ-6-10A-3 非言語行動から受ける印象〔方向性〕（年齢層別集計）〔6.1.2〕



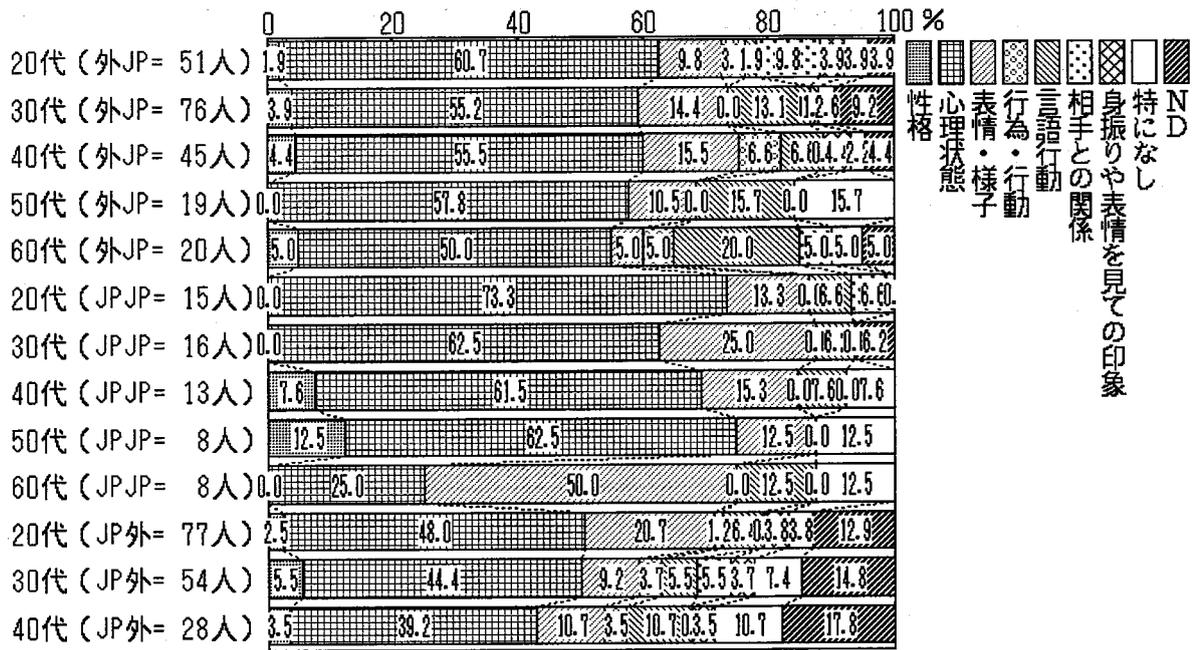
図表Ⅱ-6-10A-4 非言語行動から受ける印象〔方向性〕（滞在年数別集計）〔6.1.2〕



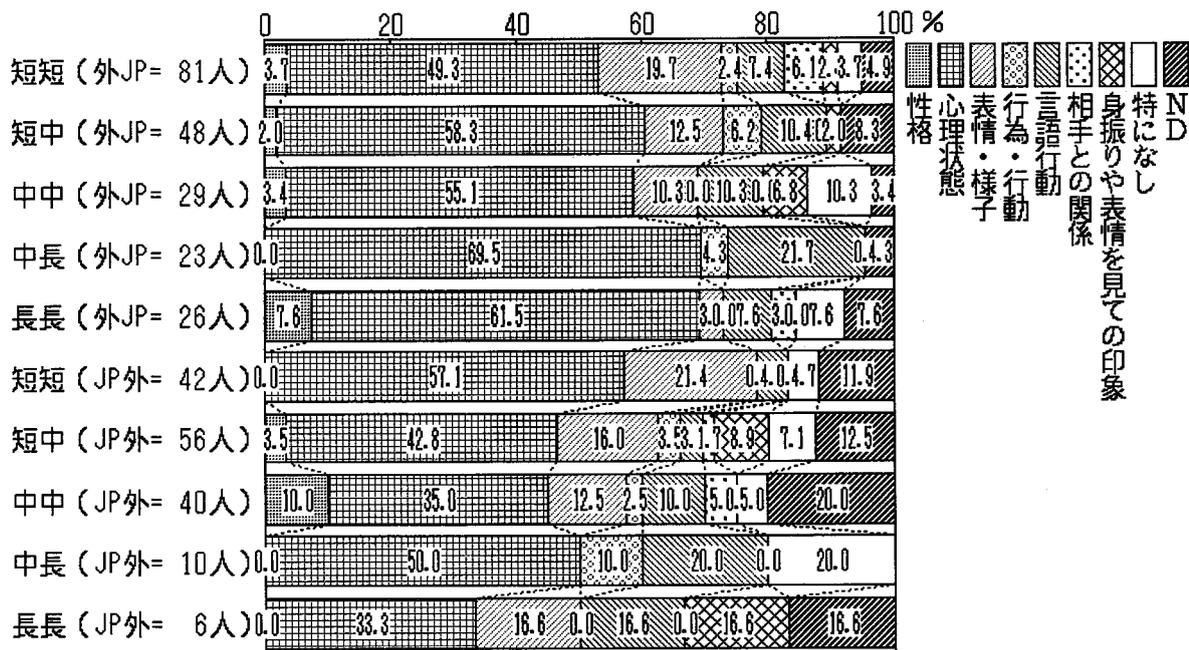
図表Ⅱ-6-10B-1 非言語行動から受ける印象 [注目点] (地域別集計) [6.1.2]



図表Ⅱ-6-10B-2 非言語行動から受ける印象 [注目点] (性別集計) [6.1.2]



図表Ⅱ-6-10B-3 非言語行動から受ける印象 [注目点] (年齢層別集計) [6.1.2]



図表Ⅱ-6-10B-4 非言語行動から受ける印象 [注目点] (滞在年数別集計) [6.1.2]

図表Ⅱ-6-10C-1 非言語行動から受ける印象〔方向性×注目点〕（地域別集計）〔6.1.2〕

		BRJP	FRJP	USJP	KRJP	VNJP	外JP	JPJP	JPBR	JPFR	JPUS	JKR	JPVN	JP外
肯定的	性格 表情・様子	・	4	・	・	1	5	1	・	1	3	・	・	4
	印象	・	1	・	7	4	13	4	・	3	・	5	6	14
否定的	性格 心理状態	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1
	表情・様子	1	・	1	2	2	6	・	1	・	・	・	・	1
	言語行動 印象	・	・	1	・	・	1	・	・	1	・	・	・	1
コメントなし	関係 言語行動	・	1	1	2	2	6	1	・	1	・	2	・	3
	行為・行動	3	7	3	6	1	20	4	1	2	1	5	1	10
	心理状態	・	1	2	2	1	6	・	1	2	・	1	・	4
	性格	16	20	23	26	28	113	36	21	10	11	13	16	71
	特に無し 表情・様子	1	1	・	・	・	2	1	・	1	・	・	・	1
ND	3	2	2	1	1	9	3	2	4	2	・	2	10	
合計	1	1	1	5	3	11	9	・	2	6	1	1	10	
ND	2	2	5	1	2	12	1	6	2	6	3	6	23	
合計	30	41	40	54	46	211	60	32	30	32	31	34	159	

図表Ⅱ-6-10C-2 非言語行動から受ける印象〔方向性×注目点〕（性別集計）〔6.1.2〕

		外JP		JPJP		JP外	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
肯定的	性格 表情・様子	1	4	1	・	2	2
	印象	3	10	1	3	9	5
否定的	性格 心理状態	・	・	・	・	・	・
	表情・様子	2	4	・	・	1	1
	言語行動 印象	1	1	・	・	・	・
コメントなし	関係 言語行動	2	2	・	・	3	1
	行為・行動	1	5	1	・	2	1
	心理状態	9	11	・	4	6	4
	性格	3	3	・	・	1	3
	特に無し 表情・様子	46	67	14	22	32	39
ND	1	1	1	・	・	1	
合計	5	4	2	1	8	2	
合計	8	3	4	5	5	5	
ND	6	6	・	1	13	10	
合計	88	123	24	36	82	77	

図表Ⅱ-6-10C-3 非言語行動から受ける印象〔方向性×注目点〕（年齢層別集計）〔6.1.2〕

		外JP					JPJP					JP外		
		20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代
肯定的	性格 表情・様子	1	2	2	・	・	・	・	・	1	・	1	2	1
	印象	2	9	2	・	・	・	1	1	・	2	10	3	1
否定的	性格 心理状態	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・
	表情・様子 言語行動	・	・	・	2	・	・	・	・	・	・	・	・	・
コメントなし	印象	1	1	2	・	・	・	・	・	・	3	1	・	・
	関係 言語行動	5	・	・	・	1	1	・	・	・	・	3	・	・
コメントなし	行為・行動	1	10	3	3	3	1	1	1	1	5	3	2	2
	心理状態	2	・	3	・	1	・	・	・	・	1	2	1	1
コメントなし	性格	27	41	25	10	10	11	10	8	5	2	36	24	11
	特に無し	・	1	・	・	1	・	・	1	・	・	1	・	・
ND	表情・様子	2	2	1	3	1	・	・	1	1	1	3	4	3
		3	2	5	・	1	2	3	1	1	2	6	2	2
合計		51	76	45	19	20	15	16	13	8	8	77	54	28

図表Ⅱ-6-10C-4 非言語行動から受ける印象〔方向性×注目点〕（滞在年数別集計）〔6.1.2〕

		外JP					JP外				
		短短	短中	中中	中長	長長	短短	短中	中中	中長	長長
肯定的	性格 表情・様子	3	1	・	・	1	・	2	2	・	・
	印象	8	3	2	・	・	7	2	4	・	1
否定的	心理状態	1	・	・	・	・	・	1	・	・	・
	表情・様子 言語行動	4	・	2	・	・	1	・	1	・	・
コメントなし	印象	2	・	・	1	・	・	・	・	・	1
	関係 言語行動	1	1	2	・	・	・	4	・	・	・
コメントなし	行為・行動	5	・	・	・	1	・	1	2	・	・
	心理状態	6	5	3	4	2	2	2	4	2	・
コメントなし	性格	2	3	・	1	・	・	2	1	1	・
	特に無し	36	28	14	16	16	23	24	14	5	2
ND	表情・様子	・	・	1	・	1	・	・	1	・	・
		3	3	3	・	2	2	4	2	2	・
合計		6	3	1	・	1	2	7	1	・	1
合計		4	4	1	1	2	5	7	8	10	6

図表Ⅱ-6-10D-1 非言語行動から受ける印象 [注目点×具体] (地域別集計) [6.1.2]

		BRJP	FRJP	USJP	KRJP	VNJP	外JP	JPJP	JPBR	JPFR	JPUS	JPKR	JPVN	JP外
性 格	過敏	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	消極	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	直実	1	4	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1
	柔和	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	友好	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
心理 状態	失望	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	不安	15	14	21	14	24	88	23	9	3	9	8	5	15
	迫り	2	6	1	2	3	30	2	9	3	2	5	1	38
	期待	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	楽	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
表情・ 様子	緊張	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	時 ^{したて}	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	積極	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	活朗	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	朗い	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	整い	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	丁寧	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行為・ 行動	観察	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	熱心	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	不安	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	慮風	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
言 語 行 動	挨拶	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	世 ^事	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	謝罪	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	調問	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	質認	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	確認	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	念押 ^し	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
関 係 印 象	序列	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	親和	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	感礼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特 に 無 し	3	2	2	1	1	9	3	2	4	2	1	2	10	
ND	2	2	5	1	2	12	1	6	2	6	3	6	23	
合 計	30	41	40	54	46	211	60	32	30	32	31	34	159	

図表Ⅱ-6-10D-2 非言語行動から受ける印象 [注目点×具体] (性別集計) [6.1.2]

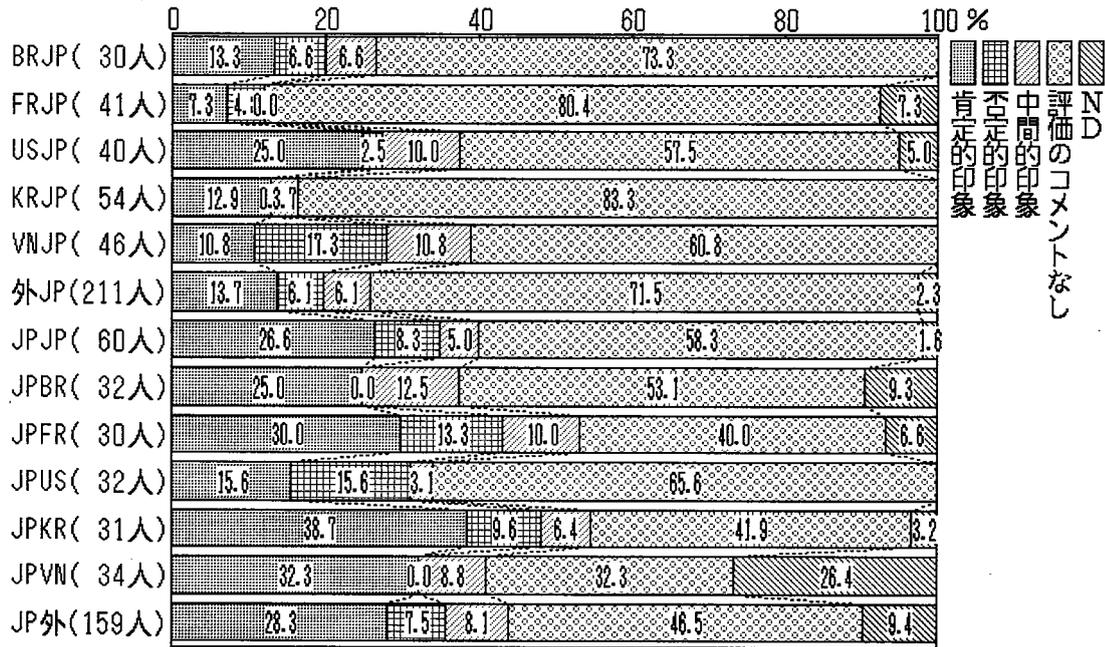
		外JP		JPJP		JP外	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
性格	過敏	1	0	0	0	1	0
	消極	0	1	1	0	0	0
	率直	0	1	1	0	0	0
	誠実	1	3	0	0	0	1
	友好	0	0	0	0	1	1
心理状態	失望	0	1	0	0	0	0
	不安	4	3	1	0	7	8
	不緊	36	52	6	17	19	19
	期待	1	2	1	1	1	3
	喜楽	7	13	6	3	3	7
表情・様子	緊張	0	1	0	0	0	1
	下手	2	1	1	2	3	0
	積極	5	1	2	0	2	0
	明快	1	5	0	2	1	2
	整い	0	4	0	1	2	0
	丁寧	1	2	2	2	4	2
	普通	1	0	0	1	2	5
行為・行動	観察	2	0	0	0	0	0
	熱心	0	1	0	0	0	0
	不安	1	0	0	0	0	1
	慮風	0	1	0	0	1	0
言語行動	挨拶	0	0	0	0	0	1
	世間	0	1	0	0	0	1
	謝罪	0	1	0	0	0	0
	調問	1	3	0	1	2	0
	確認	0	1	0	1	1	0
	依頼	7	4	0	2	3	3
関係印象	序列	0	2	1	0	0	0
	親和	1	3	0	0	2	1
特に無し	好感	0	1	0	0	0	2
	失礼	2	2	0	0	3	1
ND		5	4	2	1	8	2
合計		6	6	0	1	13	10
		88	123	24	36	82	77

図表Ⅱ-6-10D-3 非言語行動から受ける印象〔注目点×具体〕（年齢層別集計）〔6.1.2〕

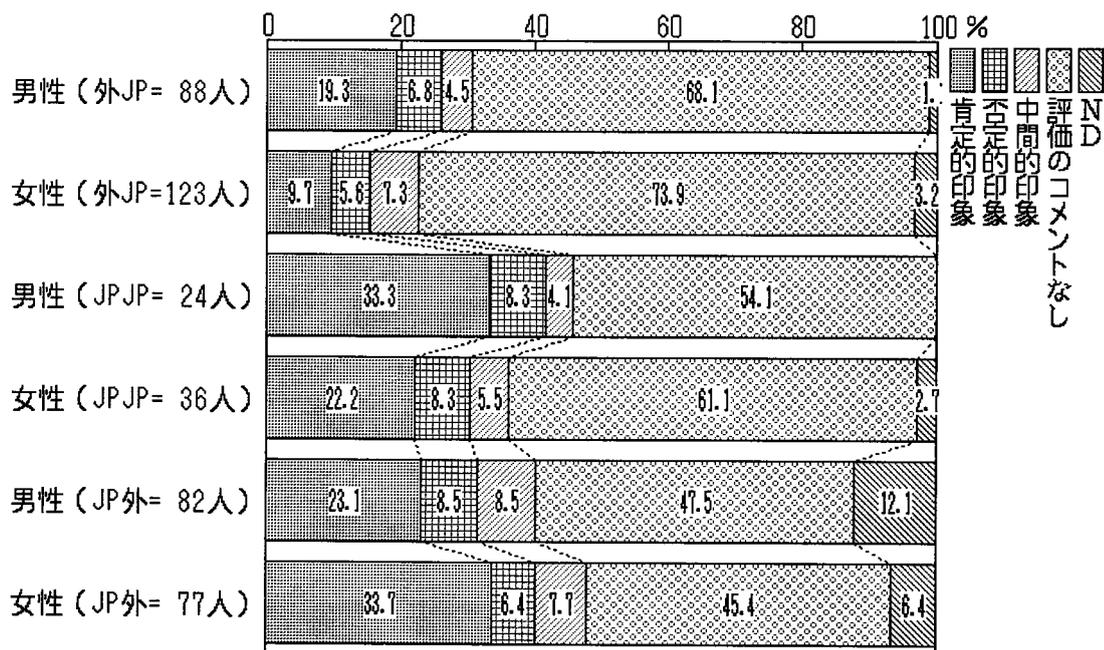
		外JP					JPJP					JP外		
		20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代
性格	過敏	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・
	消極	1	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・
	積極	・	1	・	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・
	直実	・	2	2	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・
	誠和	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	・
心理状態	友好	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	1
	失望	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・
	不安	4	1	2	・	1	・	・	・	1	・	8	5	2
	緊迫	23	28	18	11	8	7	8	5	2	1	21	12	5
	ラックス	・	2	1	・	・	・	1	・	1	1	1	1	2
表情・様子	期待	4	11	4	・	1	4	1	2	1	1	5	4	1
	喜楽	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・	2	2	1
	緊張	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・
	下 ^{した} 降 ^り	・	1	・	2	・	・	2	1	・	・	3	・	・
	積極	2	1	2	・	1	1	・	・	1	・	1	1	・
	快活	・	4	2	・	・	・	2	・	・	・	3	・	・
	明朗	・	3	1	・	・	・	・	・	・	1	2	・	・
	整丁	3	・	・	・	・	1	・	1	・	2	3	1	2
行為・行動	親和	・	1	・	・	・	・	・	・	・	1	・	3	1
	普通	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	観察	1	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	熱心	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・
	不安慮	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1
言語行動	風和	・	・	1	・	・	・	・	・	・	1	1	・	・
	挨拶	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	1
	世 ^事 事	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・
	お謝罪	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	調 ^査 問	・	1	1	2	・	・	・	・	・	1	1	1	・
	質問	・	1	1	・	・	・	・	・	・	1	1	・	1
関係印象	確認	1	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・
	念押	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1
	依頼	・	6	1	1	3	・	1	1	・	4	1	1	
特に無し	攻撃	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	序列	2	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・
ND	親和	3	・	・	・	1	・	・	・	・	・	3	3	1
	好感	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1	1
合計	失礼	1	1	2	・	・	・	・	・	・	3	1	1	1
	特に無し	2	2	1	3	1	・	1	1	1	3	4	3	3
ND		2	7	2	・	1	・	1	・	・	10	8	5	5
合計		51	76	45	19	20	15	16	13	8	8	77	54	28

図表Ⅱ-6-100-4 非言語行動から受ける印象 [注目点×具体] (滞在年数別集計) [6.1.2]

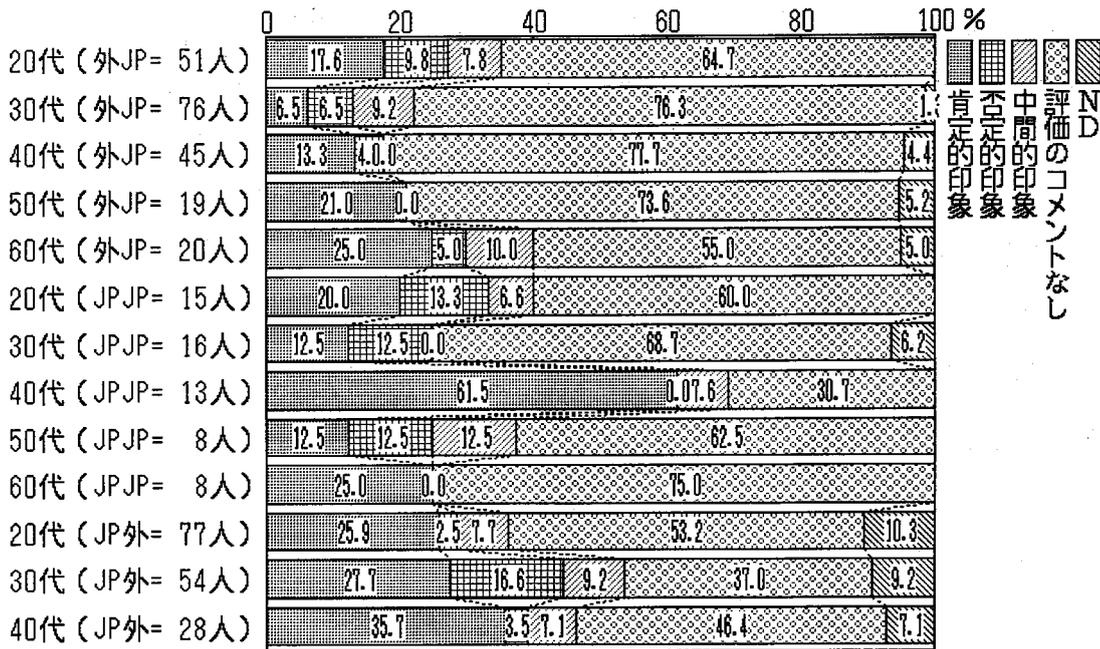
		外JP					JP外				
		短短	短中	中中	中長	長長	短短	短中	中中	中長	長長
性格	過敏	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・
	消極	1	・	・	・	1	・	・	・	・	・
	率直	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・
	実誠	2	1	・	・	1	・	・	1	・	・
	友好	・	・	・	・	・	・	2	・	・	・
心理状態	失望	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・
	不安	5	2	・	・	・	5	4	3	1	1
	不緊	25	17	16	15	13	15	12	6	4	・
	期待	10	2	・	・	1	1	1	1	・	1
	ホッス	・	7	・	・	・	2	6	1	・	・
表情・様子	緊張	1	・	・	・	・	・	1	・	・	・
	下 ^{した} て	2	1	・	・	・	1	・	2	・	・
	積極	2	2	1	・	1	・	1	1	・	・
	快活	4	2	・	・	・	1	2	・	・	・
	明朗	1	1	2	・	・	1	・	1	・	・
行為・行動	整い	3	・	・	・	・	3	3	・	・	・
	丁寧	1	・	・	・	・	3	2	1	・	1
	親和	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	普通	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	観察	1	1	・	・	・	・	・	・	・	・
言語行動	熱心	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・
	不安	・	1	・	・	・	・	・	1	・	・
	不遠慮	・	1	・	・	・	・	・	・	1	・
	和風	1	・	・	・	・	・	2	・	・	・
	挨拶	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・
関係印象	世 ^事	・	・	・	1	・	・	・	・	・	1
	お謝	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	謝罪	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・
	質問	2	2	・	・	・	1	・	・	1	・
	確認	1	・	・	・	・	・	・	1	・	・
特に無し	念押し	2	2	3	2	2	1	2	2	1	・
	依頼	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・
	攻撃	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・
	序列	2	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	親和	3	・	・	・	1	・	1	2	・	・
ND	好感	1	・	・	・	・	・	1	・	・	1
	失礼	1	1	2	・	・	・	4	・	・	・
合計	81	48	29	23	26	42	56	40	10	6	



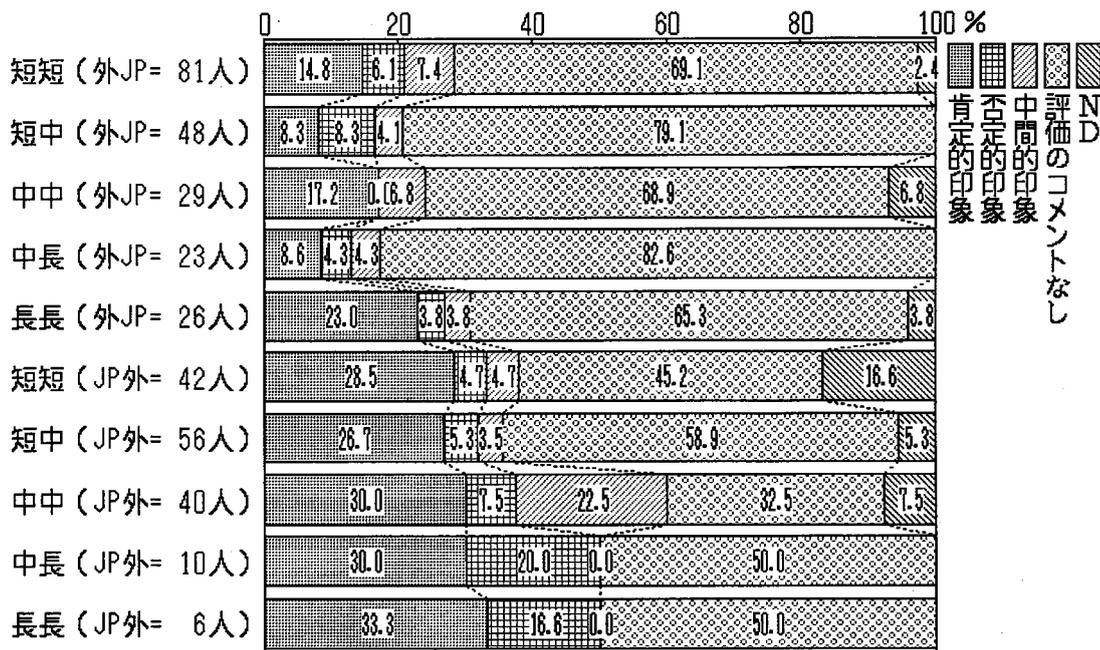
図表Ⅱ-6-11A-1 <笑い>から受ける印象[方向性] (地域別集計) [6.1.3]



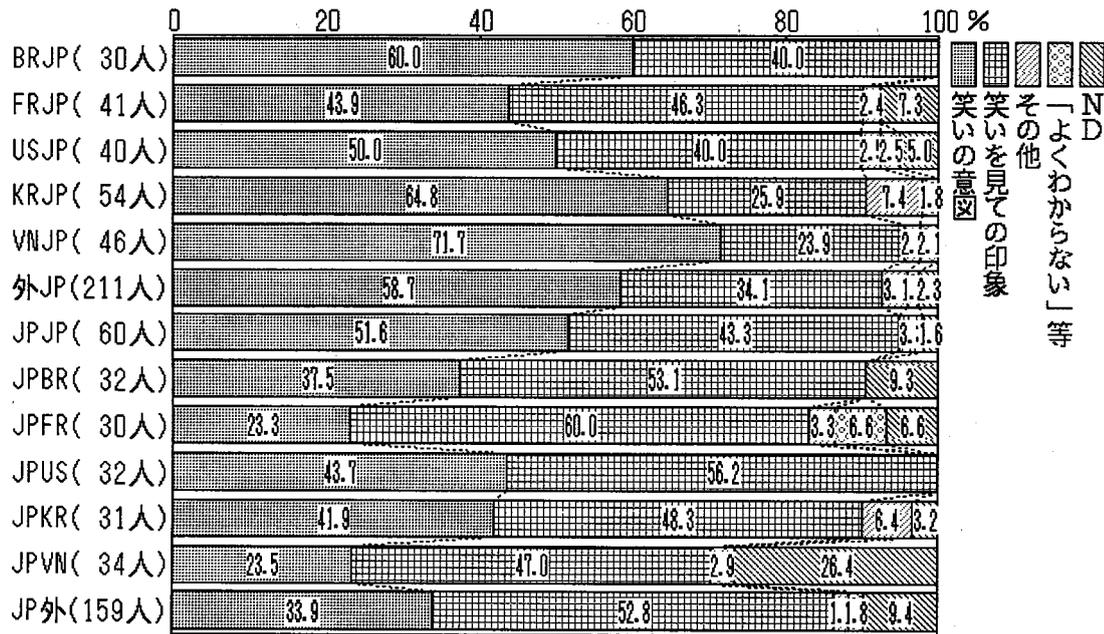
図表Ⅱ-6-11A-2 <笑い>から受ける印象[方向性] (性別集計) [6.1.3]



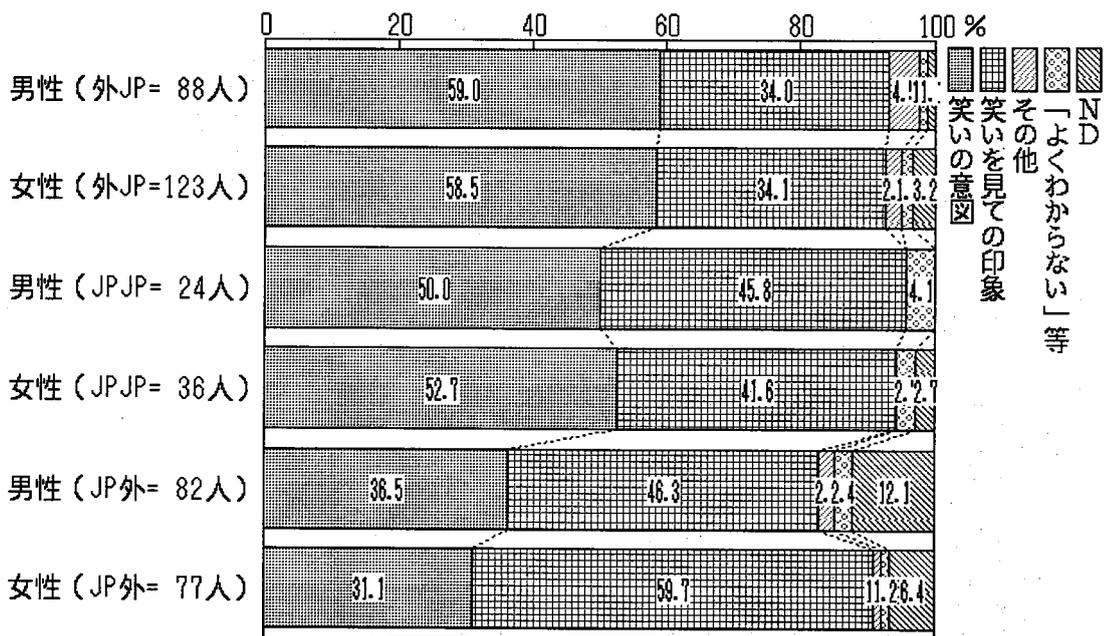
図表Ⅱ-6-11A-3 <笑い>から受ける印象 [方向性] (年齢層別集計) [6.1.3]



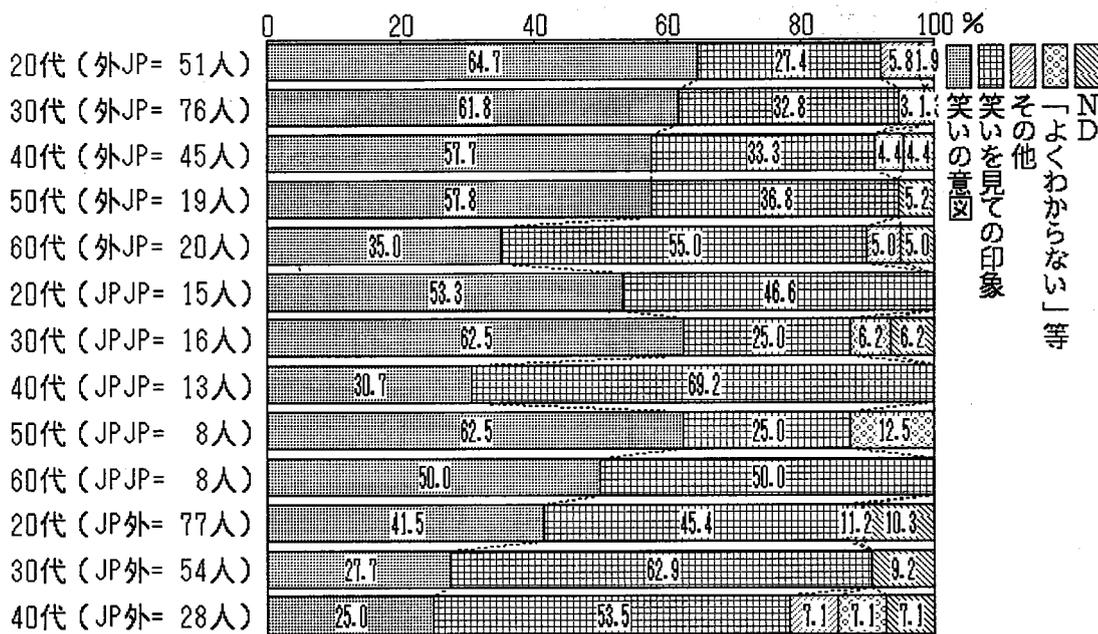
図表Ⅱ-6-11A-4 <笑い>から受ける印象 [方向性] (滞在年数別集計) [6.1.3]



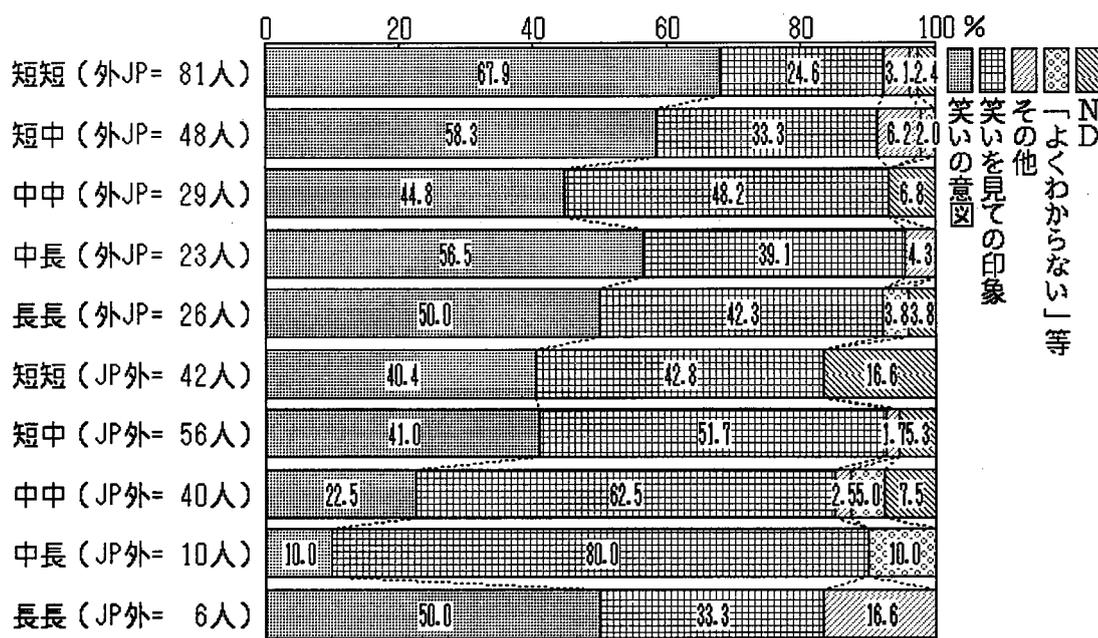
図表Ⅱ-6-11B-1 <笑い>から受ける印象 [注目点] (地域別集計) [6.1.3]



図表Ⅱ-6-11B-2 <笑い>から受ける印象 [注目点] (性別集計) [6.1.3]



図表Ⅱ-6-11B-3 <笑い>から受ける印象 [注目点] (年齢層別集計) [6.1.3]



図表Ⅱ-6-11B-4 <笑い>から受ける印象 [注目点] (滞在年数別集計) [6.1.3]

図表Ⅱ-6-11C-1 無音映像の<笑い>を見ての印象 [方向性×注目点]
(地域別集計) [6.1.3]

		BRJP	FRJP	USJP	KRJP	VNJP	外JP	JPJP	JPBR	JPFR	JPUS	JPKR	JPVN	JP外
肯定的	意図印象	1	・	・	2	3	6	5	・	1	・	1	・	2
	印象	3	3	10	5	2	23	11	8	8	5	11	11	43
否定的	意図印象	・	・	・	・	4	4	1	・	・	・	1	・	1
	印象	2	2	1	・	3	8	4	・	4	5	2	・	11
	その他	・	・	・	・	1	1	・	・	・	・	・	・	・
中間的	意図印象	・	・	1	1	3	5	1	・	1	・	1	1	3
	印象	2	・	3	1	2	8	2	4	2	1	・	2	9
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	1
コメントなし	意図印象	17	18	19	32	23	109	24	12	5	14	10	7	48
	印象	5	14	2	8	4	33	9	5	4	7	2	3	21
	その他	・	1	1	4	・	6	・	1	・	・	1	・	2
	不明	・	・	1	1	1	3	2	・	2	・	・	1	3
ND		・	3	2	・	・	5	・	3	2	・	1	9	15
合計		30	41	40	54	46	211	60	32	30	32	31	34	159

図表Ⅱ-6-11C-2 無音映像の<笑い>を見ての印象 [方向性×注目点]
(性別集計) [6.1.3]

		外JP		JPJP		JP外	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
肯定的	意図印象	5	1	1	4	・	2
	印象	12	11	7	4	19	24
否定的	意図印象	2	2	1	・	・	1
	印象	3	5	1	3	7	4
	その他	1	・	・	・	・	・
中間的	意図印象	1	4	・	1	1	2
	印象	3	5	1	1	5	4
	その他	・	・	・	・	1	・
コメントなし	意図印象	44	65	10	14	29	19
	印象	12	21	2	7	7	14
	その他	3	3	・	・	1	1
	不明	1	2	1	1	2	1
ND		1	4	・	1	10	5
合計		88	123	24	36	82	77

図表Ⅱ-6-11C-3 無音映像の<笑い>を見ての印象 [方向性×注目点]
(年齢層別集計) [6.1.3]

		外JP					JPJP					JP外		
		20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代
肯定的	意図印象	3 6	1 4	1 5	1 3	・ 5	1 2	2 ・	・ 8	・ 1	・ 2	1 19	・ 15	1 9
否定的	意図印象	2 2	1 4	1 1	・ ・	・ 1	・ 2	・ 2	・ ・	1 ・	・ ・	・ 2	1 8	・ 1
	その他	1 1	・ ・	・ ・	・ ・	・ 2	・ 1	・ ・	1 ・	・ 1	・ 1	2 3	1 4	・ 2
中間的	意図印象	3 1	2 5	・ ・	・ ・	・ 2	・ 1	・ ・	1 ・	・ 1	・ 1	2 3	1 4	・ 2
	その他	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	2 7	1 7	・ 8	・ 3	1 4	・ 2	1 29	・ 13	・ 6
コメントなし	意図印象	25 5	43 12	24 9	10 4	7 3	7 2	8 2	3 1	4 ・	2 4	29 11	13 7	6 3
	その他	2 1	3 ・	・ 2	・ ・	1 ・	・ 1	・ 1	・ ・	・ 1	・ ・	・ 1	・ ・	2 2
	不明	1 1	・ ・	2 2	・ ・	・ ・	・ ・	1 1	・ ・	1 1	・ ・	1 1	・ ・	2 2
ND		・	1	2	1	1	・	1	・	・	・	8	5	2
合計		51	76	45	19	20	15	16	13	8	8	77	54	28

図表Ⅱ-6-11C-4 無音映像の<笑い>を見ての印象 [方向性×注目点]
(滞在年数別集計) [6.1.3]

		外JP					JP外				
		短短	短中	中中	中長	長長	短短	短中	中中	中長	長長
肯定的	意図印象	4 8	・ 4	2 3	・ 2	・ 6	・ 12	1 14	・ 12	・ 3	1 1
否定的	意図印象	2 2	1 3	・ ・	・ 1	・ 1	・ 2	1 2	・ 3	・ 2	・ 1
	その他	1 1	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
中間的	意図印象	5 1	・ 2	・ 2	・ 1	・ 1	1 1	1 1	1 7	・ ・	・ ・
	その他	・ ・	1 1	・ ・	・ ・						
コメントなし	意図印象	44 9	27 7	11 9	13 5	13 3	16 3	20 12	8 3	1 3	2 ・
	その他	2 1	3 1	・ ・	1 ・	・ 1	・ ・	1 ・	・ 2	・ 1	1 ・
	不明	1 1	・ ・	・ ・	・ ・	1 1	・ ・	・ ・	2 1	1 ・	・ ・
ND		2	・	2	・	1	7	3	3	・	・
合計		81	48	29	23	26	42	56	40	10	6

図表Ⅱ-6-11D-1 無音映像の<笑い>を見ての印象 [注目点×具体]
(地域別集計) [6.1.3]

		BRJP	FRJP	USJP	KRJP	VNJP	外JP	JPJP	JPBR	JPFR	JPUS	JPKR	JPVN	JP外
意 図	社交	・	・	・	5	・	5	3	・	・	1	1	1	3
	緊張緩和	3	1	2	2	6	14	1	1	・	2	1	1	5
	了解	1	・	・	2	1	4	1	・	1	・	・	・	1
	困惑	3	1	9	5	3	21	9	3	2	3	3	1	12
	回避	3	4	5	6	11	29	5	1	1	・	・	・	2
	断り	2	4	・	3	3	12	4	・	1	1	4	・	6
印 象	受諾	5	4	2	7	9	27	8	5	1	5	2	5	18
	その他	1	2	1	3	・	6	・	2	1	1	2	・	6
	緊張	・	・	・	・	・	・	・	2	・	4	・	・	6
	曖昧	2	3	3	4	4	16	4	1	1	・	1	2	5
	柔和	3	1	7	1	1	13	4	・	3	1	5	1	5
	好感	・	1	3	2	・	6	6	5	2	2	6	9	24
そ の 他	風	・	2	・	・	1	3	1	2	1	・	1	・	4
	その他	5	9	3	5	4	26	10	7	9	9	2	2	29
	無し	2	3	・	2	1	8	1	・	2	2	・	2	6
	迷惑	・	1	1	2	1	5	・	・	1	・	1	・	2
	平気	・	・	・	1	・	1	・	・	・	・	・	・	・
	別件	・	・	・	1	・	1	・	・	・	・	1	・	1
「よくわからない」等		・	・	1	1	1	3	2	・	2	・	・	1	3
ND		・	3	2	・	・	5	1	3	2	・	1	9	15
合 計		30	41	40	54	46	211	60	32	30	32	31	34	159

図表Ⅱ-6-11D-2 無音映像の<笑い>を見ての印象 [注目点×具体]
(性別集計) [6.1.3]

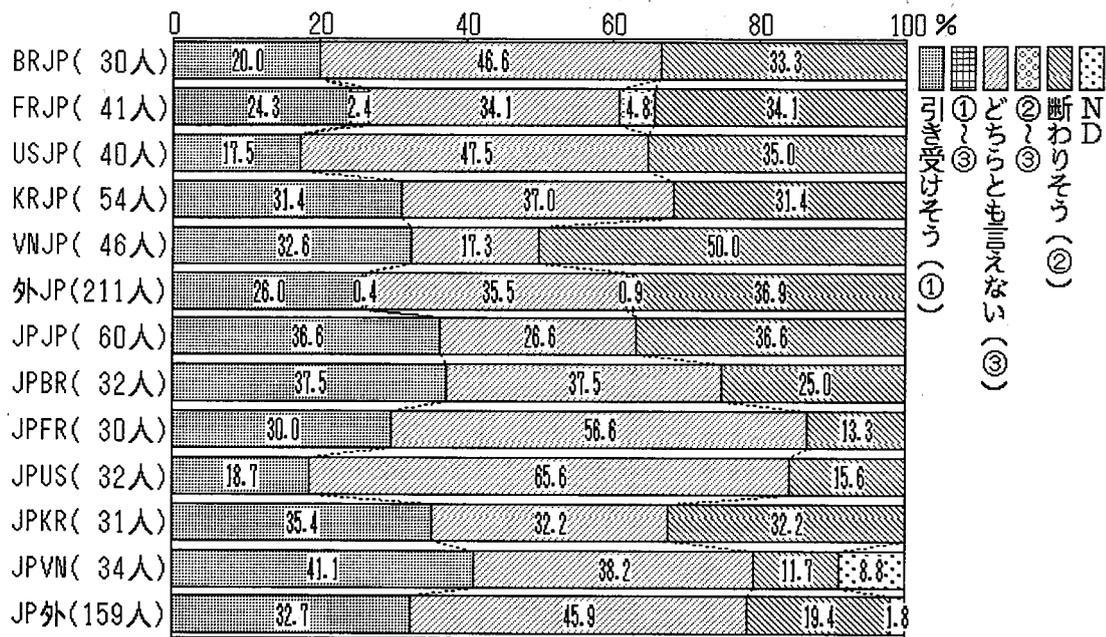
		外JP		JPJP		JP外	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
意 図	社交	5	・	1	2	1	2
	緊張緩和	8	6	・	1	4	1
	了解	2	2	1	・	1	・
	困惑	7	14	4	5	4	8
	回避	12	17	2	3	1	1
	断り	5	7	3	1	1	5
印 象	受諾	10	17	1	7	14	4
	その他	1	5	・	・	3	3
	緊張	・	・	・	・	2	4
	曖昧	6	10	・	4	2	3
	柔和	6	7	1	3	4	6
	好感	3	3	4	2	9	15
そ の 他	風	1	2	・	1	2	2
	その他	9	17	6	4	16	13
	無し	5	3	・	1	3	3
	迷惑	3	2	・	・	2	・
	平気	・	1	・	・	・	・
	別件	1	・	・	・	・	・
「よくわからない」等		1	2	1	1	2	1
ND		1	4	・	1	10	5
合 計		88	123	24	36	82	77

図表Ⅱ-6-11D-3 無音映像の<笑い>を見ての印象 [注目点×具体]
(年齢層別集計) [6.1.3]

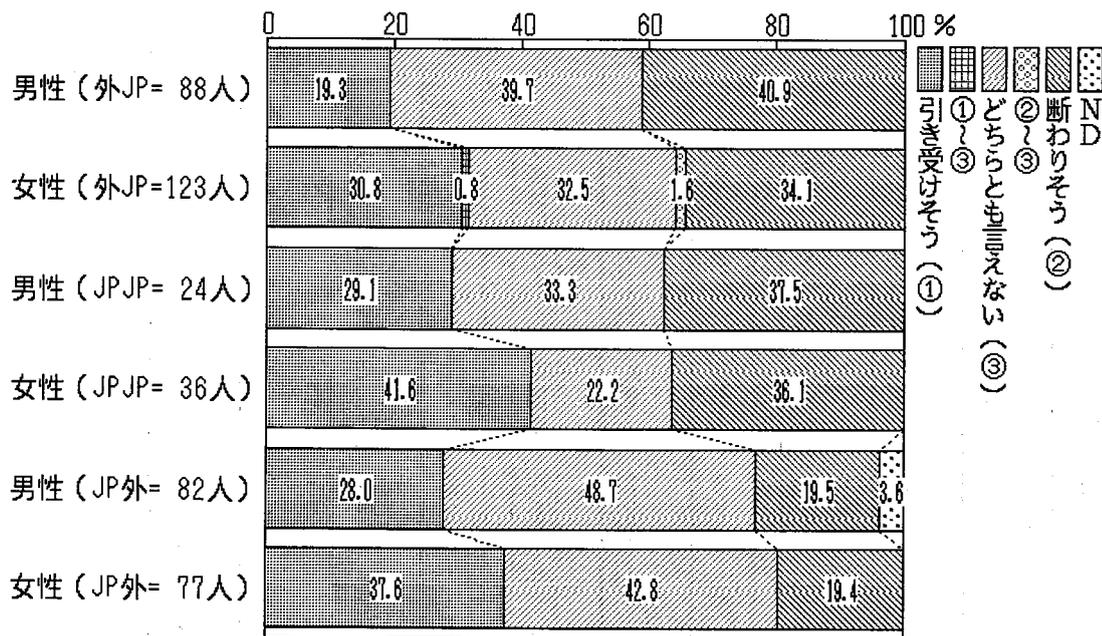
		外JP					JPJP					JP外		
		20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代
意 図	社交緊張	・	4	1	・	・	・	2	・	・	1	2	1	・
	緊張緩和	4	6	4	・	・	・	・	1	1	4	1	1	・
	了解	・	2	2	・	・	1	・	・	・	・	・	1	・
	困惑	3	10	5	3	・	2	4	1	2	・	6	6	・
	回避	12	10	3	3	1	2	・	2	1	・	1	・	1
	断り	2	6	1	2	1	2	・	・	1	1	4	2	・
印 象	受諾	10	4	8	2	3	1	4	1	・	2	14	2	2
	その他	2	3	・	・	1	・	・	・	・	1	1	1	4
	不明	・	2	2	1	1	・	・	・	・	・	・	1	・
	緊張	3	10	1	1	1	・	1	・	・	3	4	1	1
	曖昧	2	3	3	1	4	1	・	3	・	・	2	3	3
	好感	2	3	・	1	・	・	・	5	1	・	12	8	4
そ の 他	風	1	・	2	・	・	・	・	・	1	・	3	1	1
	その他	5	6	9	1	5	5	3	1	1	10	14	5	5
	無し	1	3	・	3	1	1	・	・	・	3	2	1	1
	迷惑	2	2	・	・	1	・	・	・	・	1	・	・	1
	平気	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	別件	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
「よくわからない」等		1	・	2	・	・	・	1	・	1	・	1	・	2
ND		・	1	2	1	1	・	1	・	・	8	5	2	2
合計		51	76	45	19	20	15	16	13	8	8	77	54	28

図表Ⅱ-6-11D-4 無音映像の<笑い>を見ての印象 [注目点×具体]
(滞在年数別集計) [6.1.3]

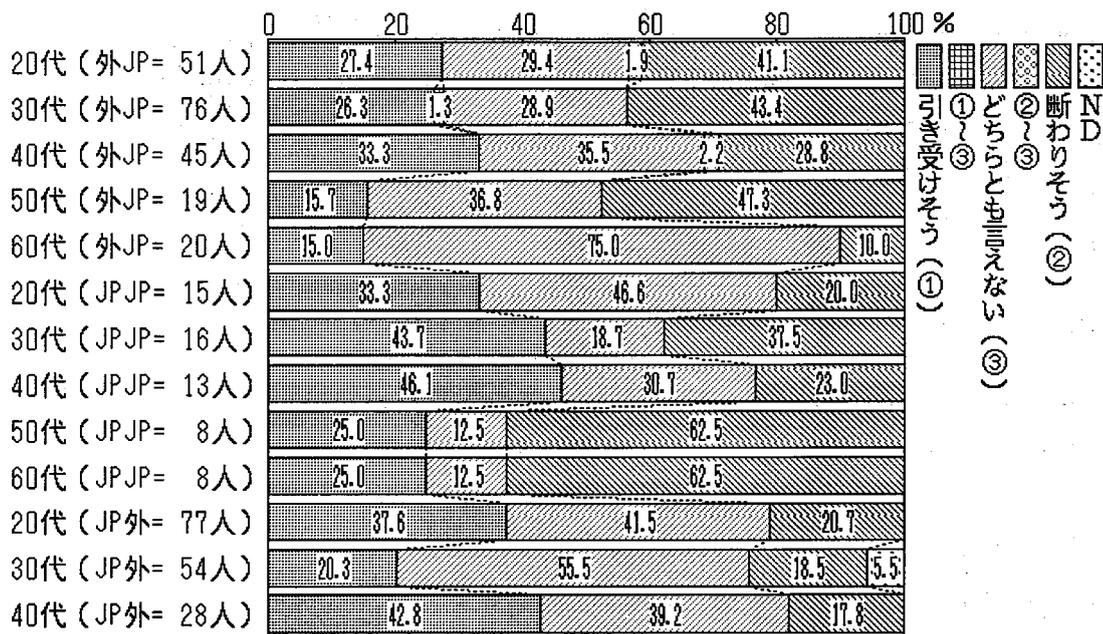
		外JP					JP外				
		短短	短中	中中	中長	長長	短短	短中	中中	中長	長長
意 図	社交緊張	2	3	・	・	・	2	1	・	・	・
	緊張緩和	1	3	2	3	1	1	4	・	・	
	了解	・	3	1	・	・	1	・	・	・	
	困惑	7	7	3	3	1	2	7	3	・	
	回避	16	4	2	3	3	・	・	1	1	
	断り	6	4	・	1	1	3	3	・	・	
印 象	受諾	11	5	4	3	4	7	7	2	1	
	その他	5	・	・	・	1	1	1	3	1	
	不明	2	1	1	・	2	・	・	・	1	
	緊張	・	・	・	・	・	・	6	・	・	
	曖昧	5	7	2	2	・	2	1	2	・	
	好感	3	3	・	1	6	3	4	2	1	
そ の 他	風	3	・	2	・	・	6	7	10	1	
	その他	3	・	・	・	・	・	1	2	・	
	無し	5	5	8	3	3	6	8	7	5	
	迷惑	1	1	2	2	2	1	2	2	1	
	平気	2	2	・	1	・	・	・	1	・	
	別件	・	1	・	・	・	・	・	・	・	
「よくわからない」等		1	1	・	・	1	・	・	2	1	
ND		2	・	2	・	1	7	3	3	・	
合計		81	48	29	23	26	42	56	40	10	



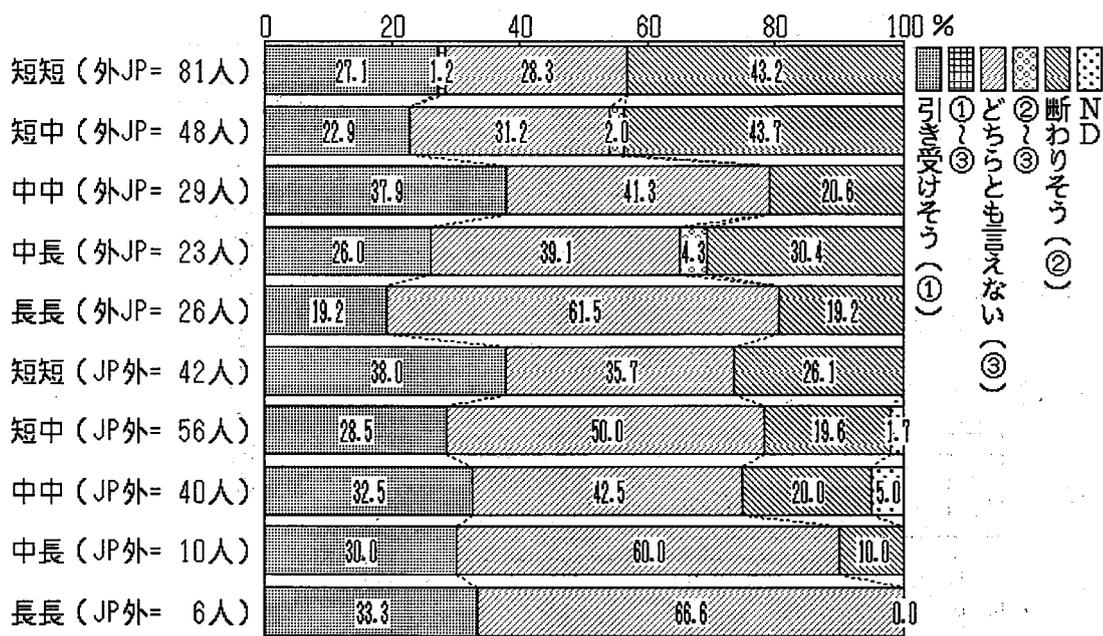
図表 II-6-12-1 <笑い>から感じられる意図 (地域別集計) [6.1.4]



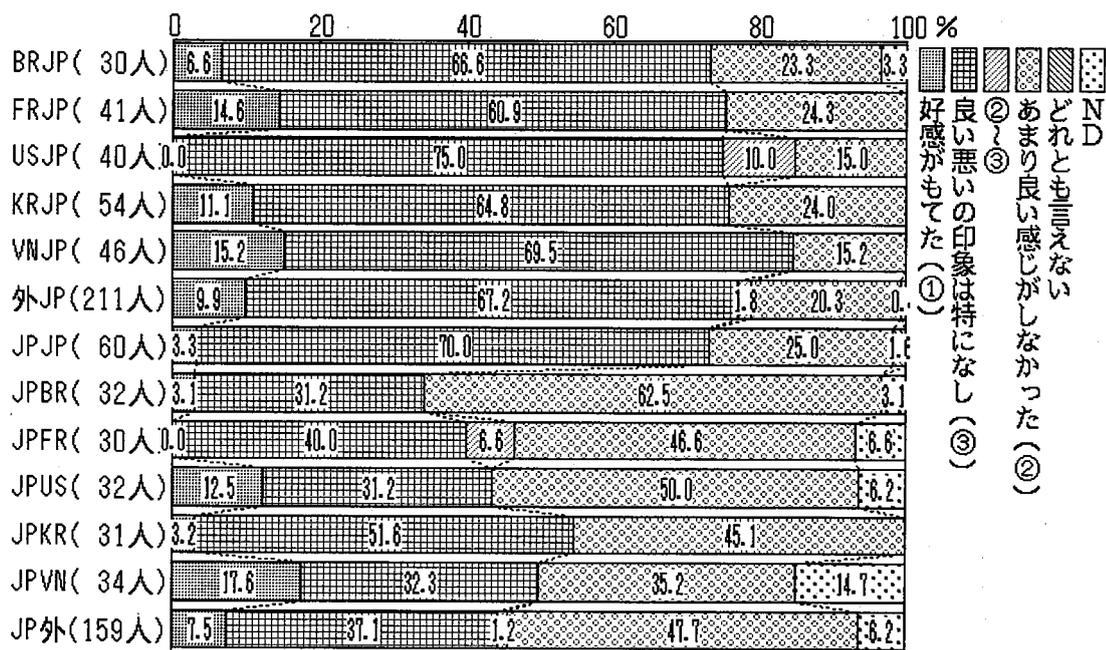
図表 II-6-12-2 <笑い>から感じられる意図 (性別集計) [6.1.4]



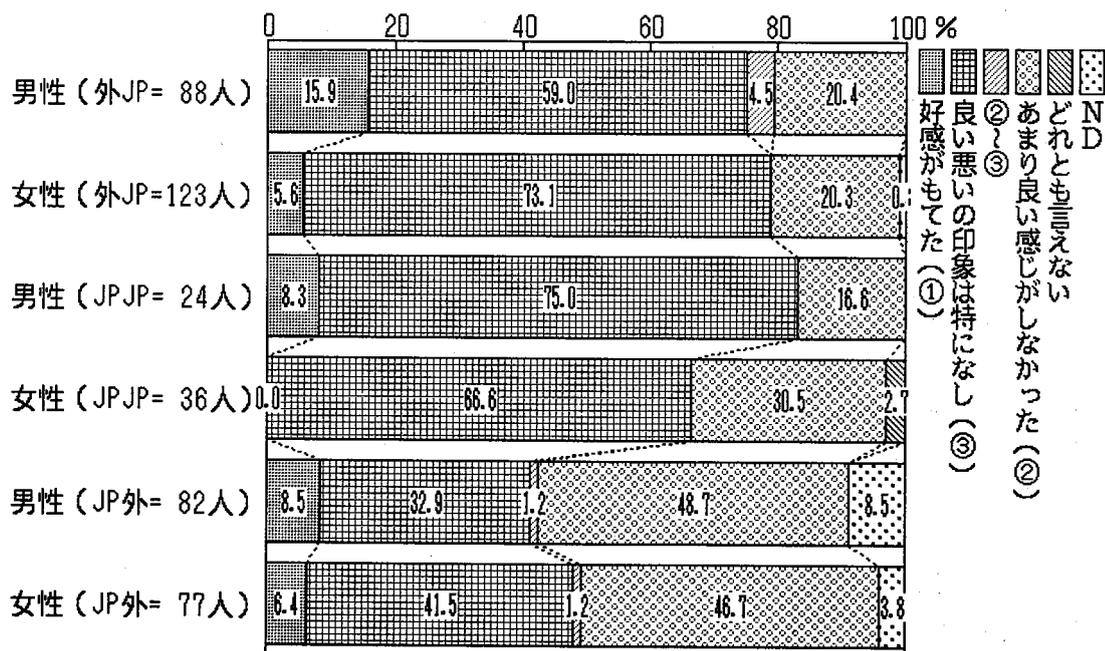
図表Ⅱ-6-12-3 <笑い>から感じられる意図 (年齢層別集計) [6.1.4]



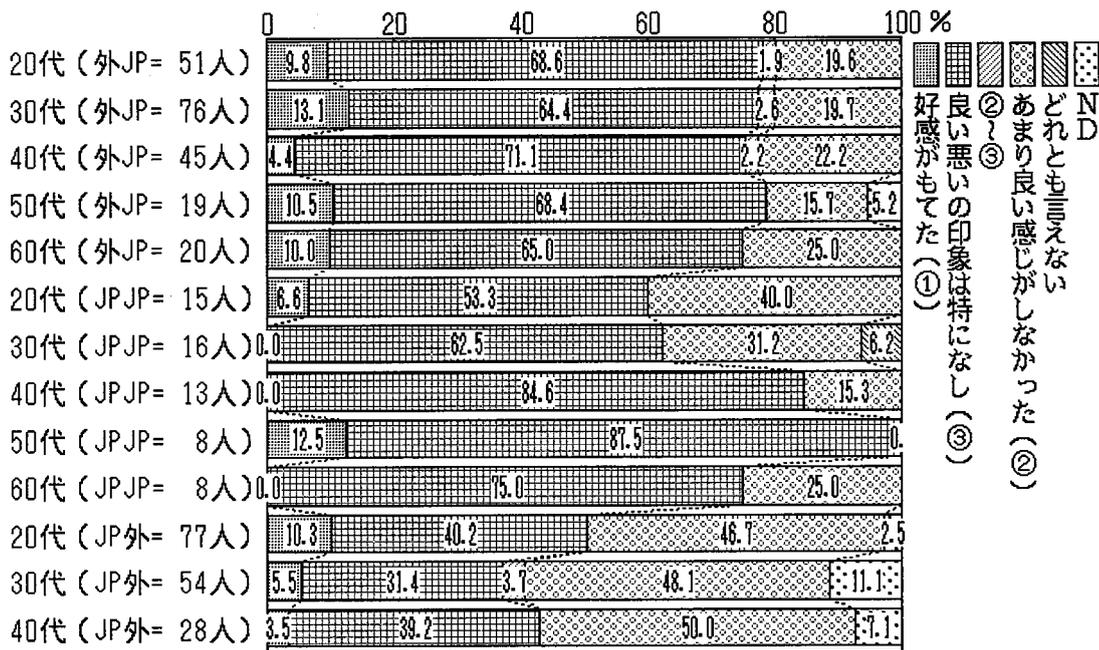
図表Ⅱ-6-12-4 <笑い>から感じられる意図 (滞在年数別集計) [6.1.4]



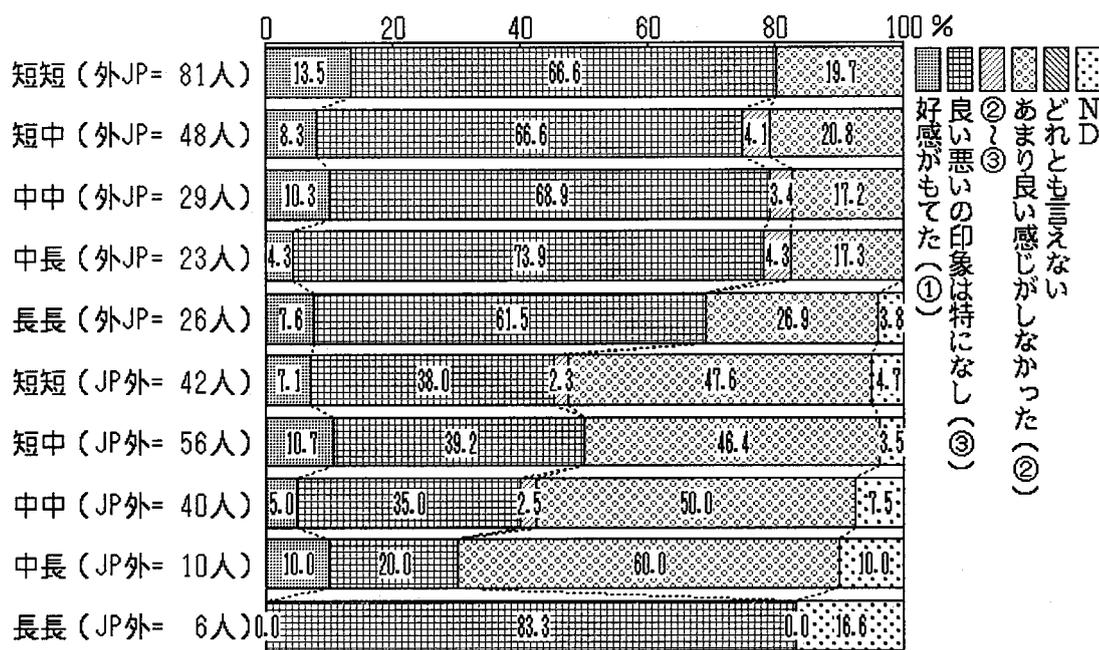
図表Ⅱ-6-13-1 すぐに用件を切り出す映像を見ての印象（地域別集計） [6.2.1]



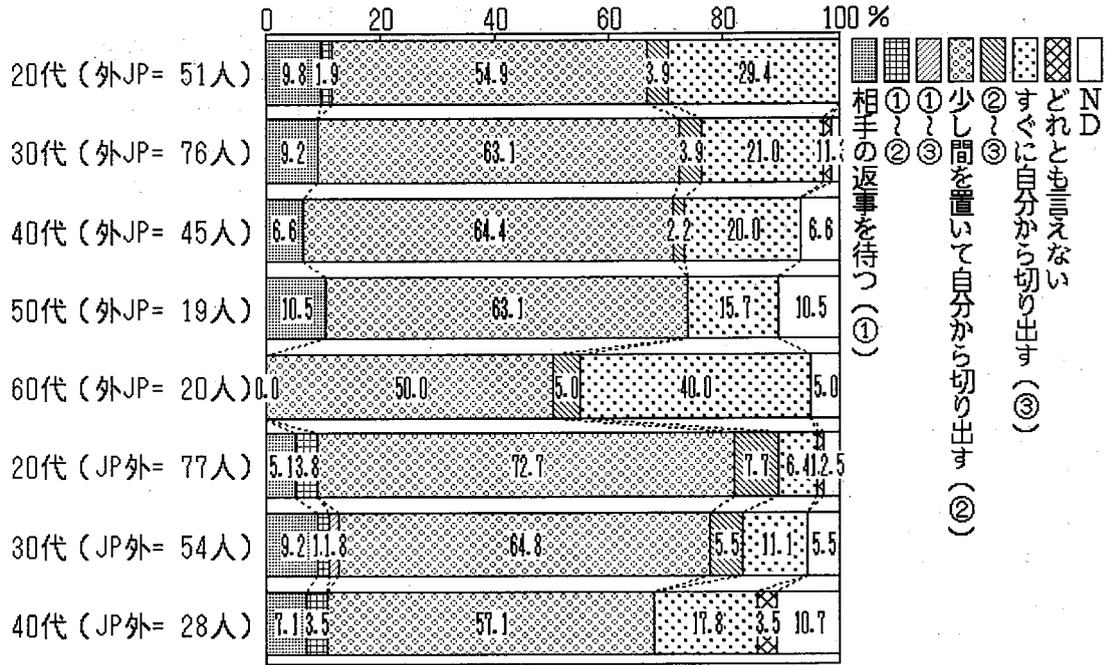
図表Ⅱ-6-13-2 すぐに用件を切り出す映像を見ての印象（性別集計） [6.2.1]



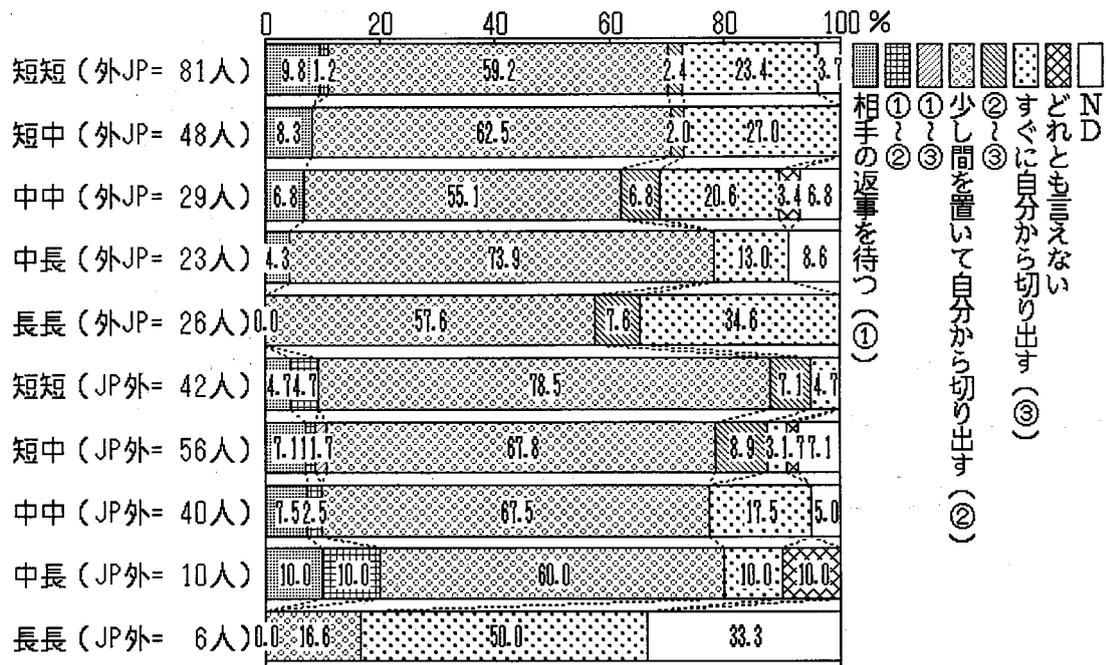
図表Ⅱ-6-13-3 すぐに用件を切り出す映像を見ての印象（年齢層別集計） [6.2.1]



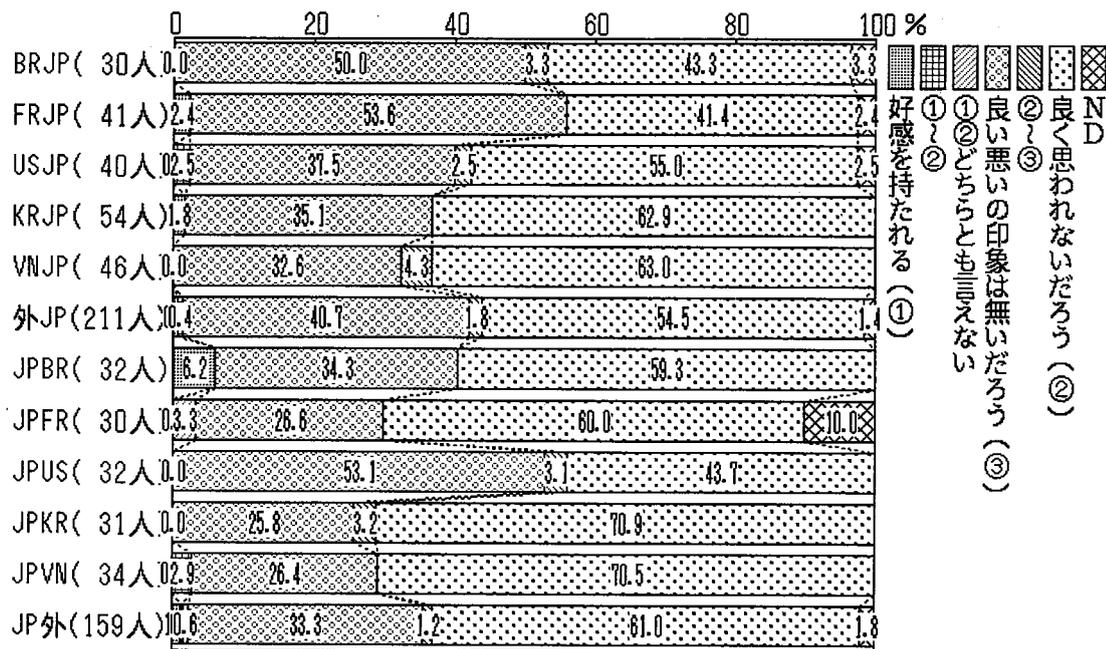
図表Ⅱ-6-13-4 すぐに用件を切り出す映像を見ての印象（滞在年数別集計） [6.2.1]



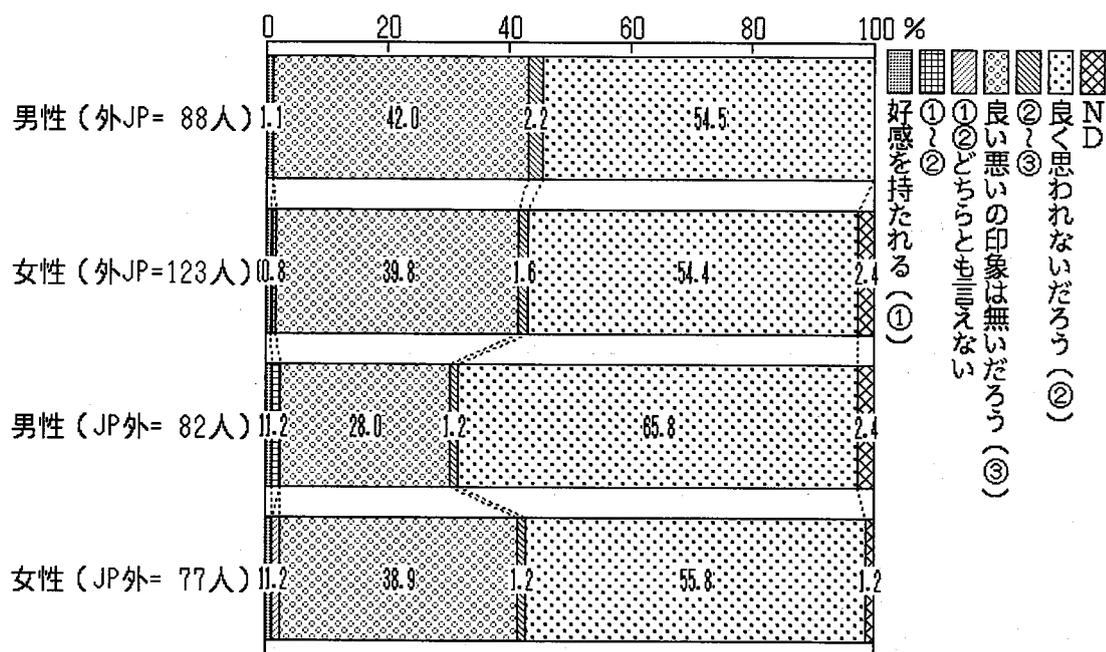
図表Ⅱ-6-14-3 対照国の人はずぐに用件を切り出すか（年齢層別集計） [6.2.2]



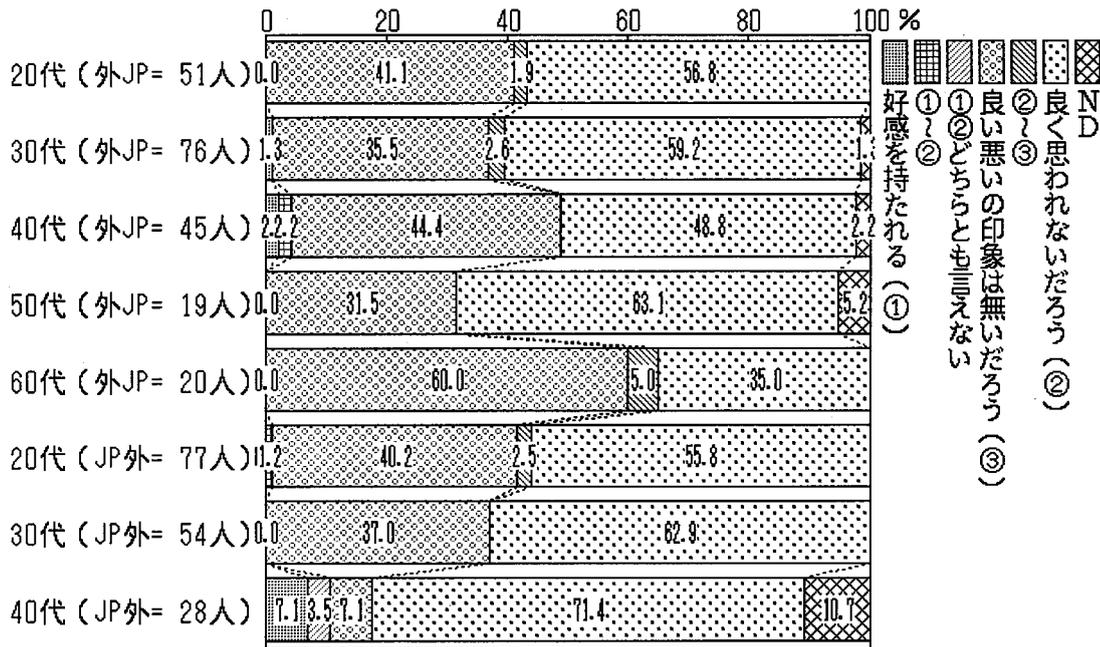
図表Ⅱ-6-14-4 対照国の人はずぐに用件を切り出すか（滞在年数別集計） [6.2.2]



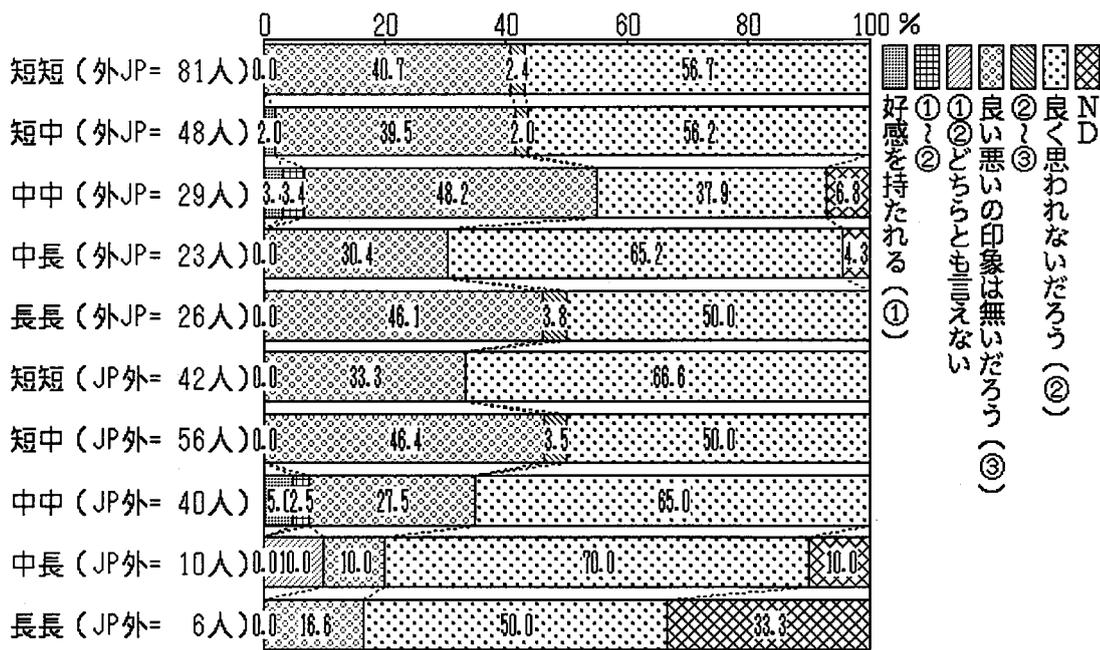
図表Ⅱ-6-15-1 すぐに用件を切り出す聞き方の対照国での評価（地域別集計） [6.2.3]



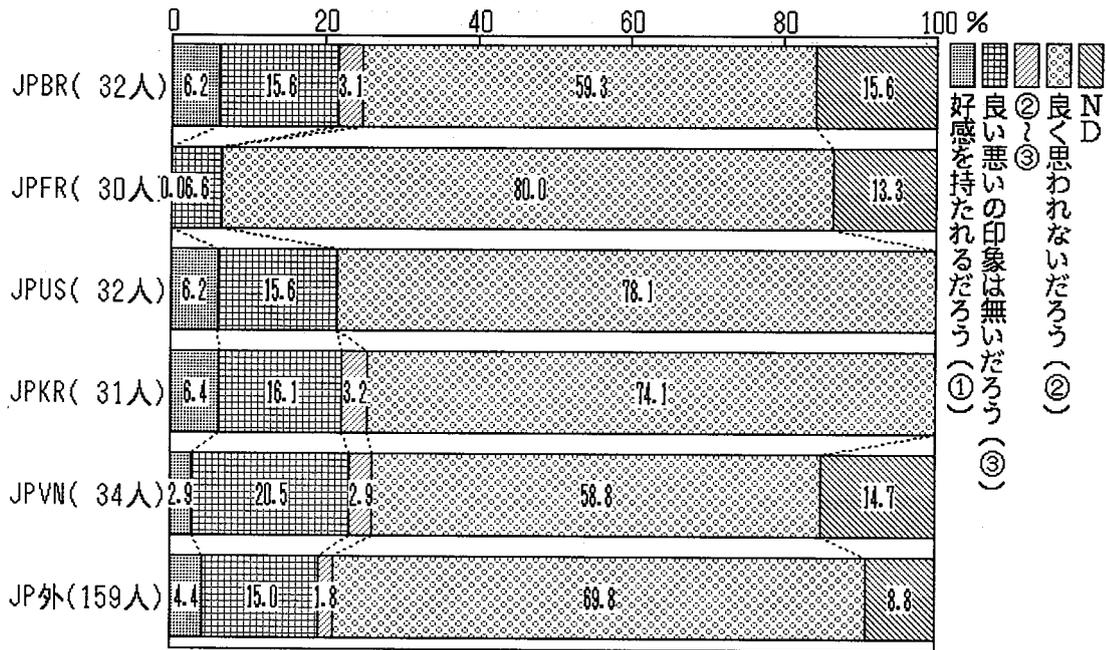
図表Ⅱ-6-15-2 すぐに用件を切り出す聞き方の対照国での評価（性別集計） [6.2.3]



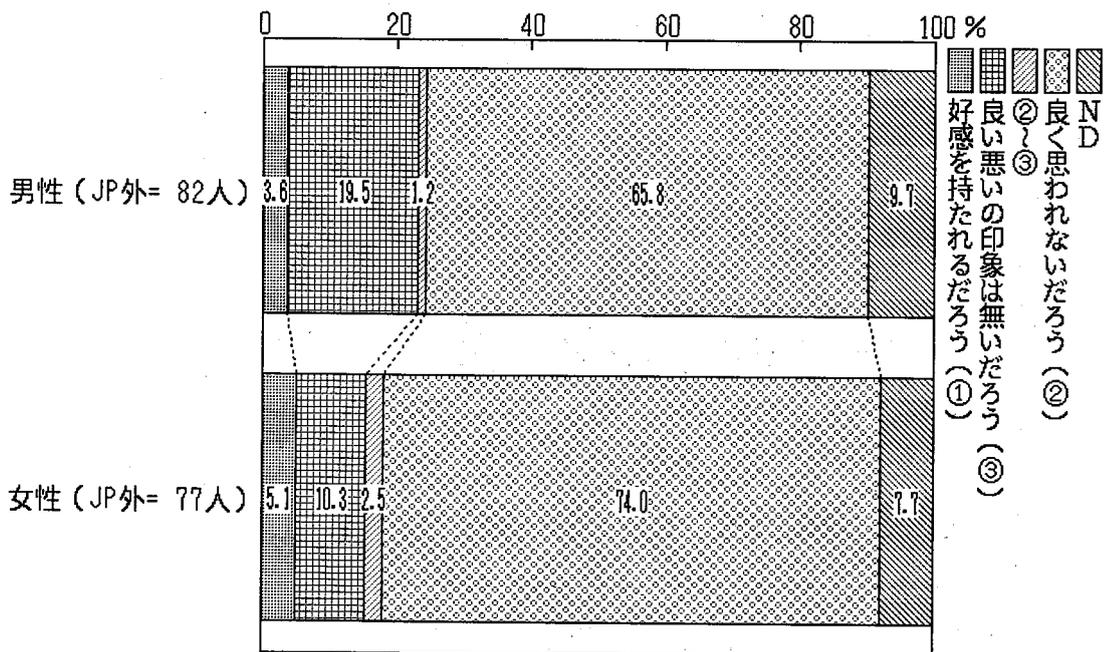
図表Ⅱ-6-15-3 すぐに用件を切り出す聞き方の対照国での評価（年齢層別集計） [6.2.3]



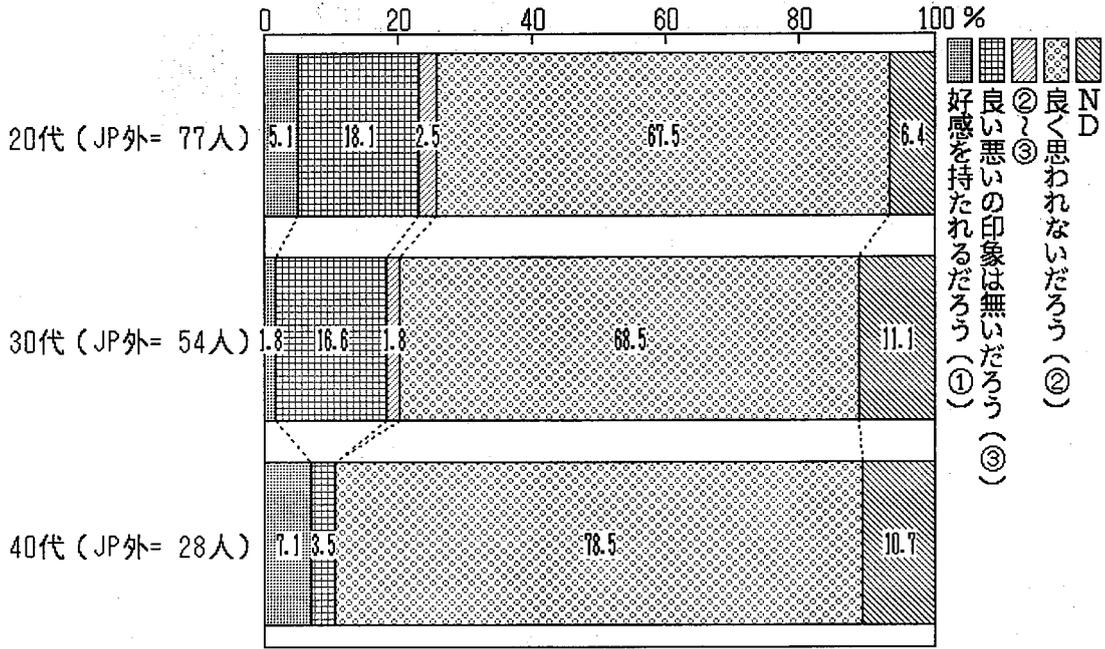
図表Ⅱ-6-15-4 すぐに用件を切り出す聞き方の対照国での評価（滞在年数別集計） [6.2.3]



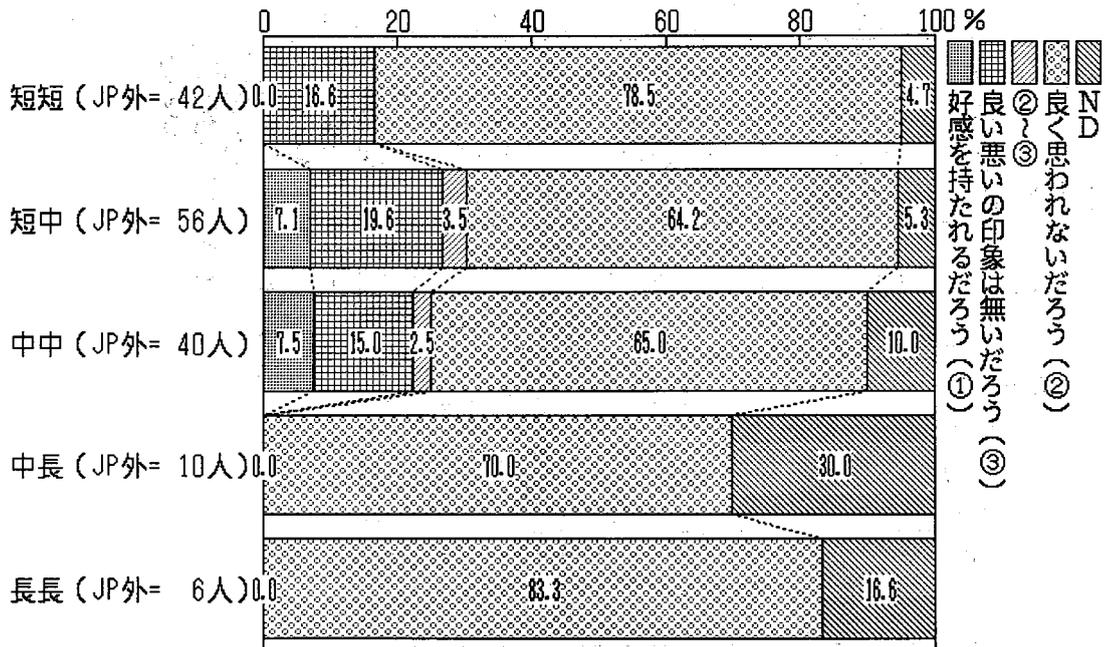
図表Ⅱ-6-16-1 すぐに用件を切り出す聞き方の日本での評価（地域別集計） [6.2.4]



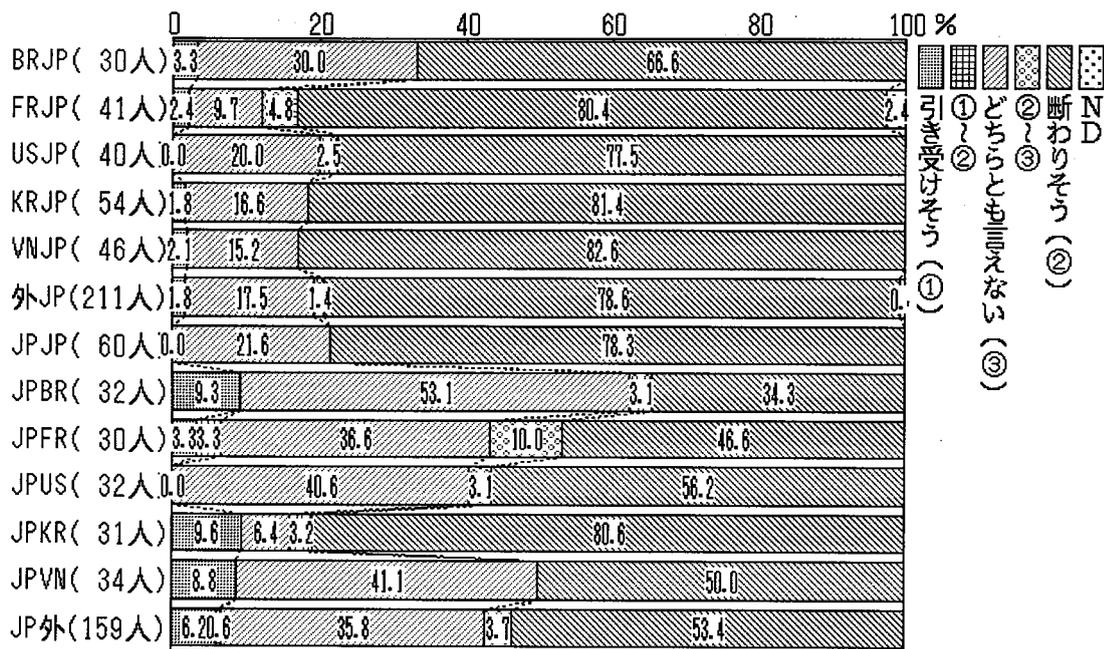
図表Ⅱ-6-16-2 すぐに用件を切り出す聞き方の日本での評価（性別集計） [6.2.4]



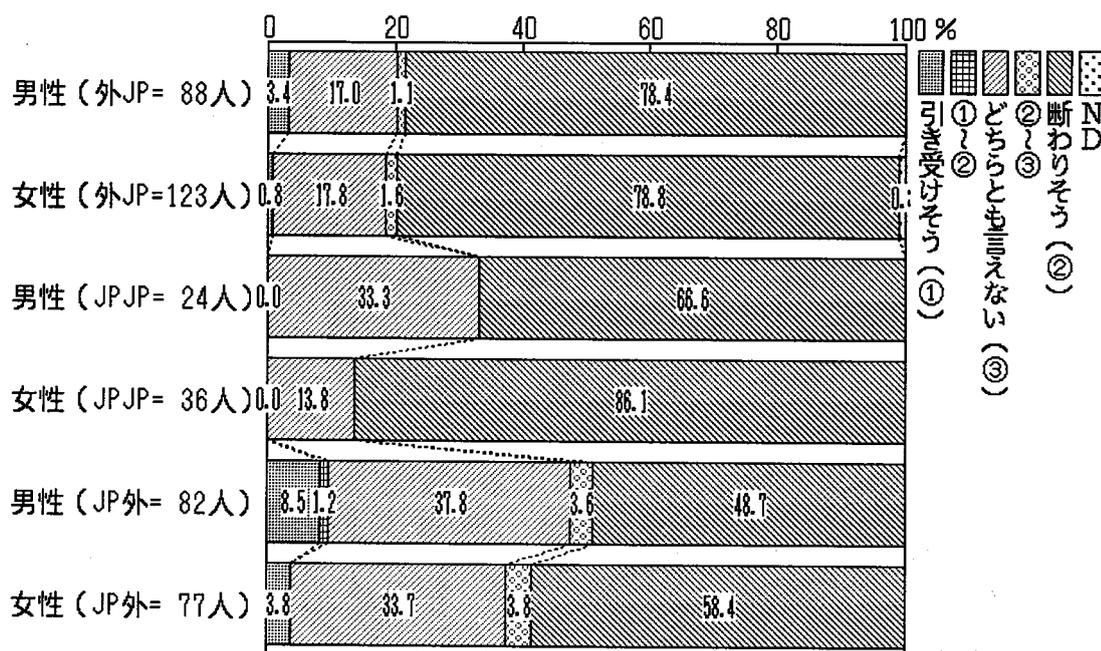
図表Ⅱ-6-16-3 すぐに用件を切り出す聞き方の日本での評価（年齢層別集計） [6.2.4]



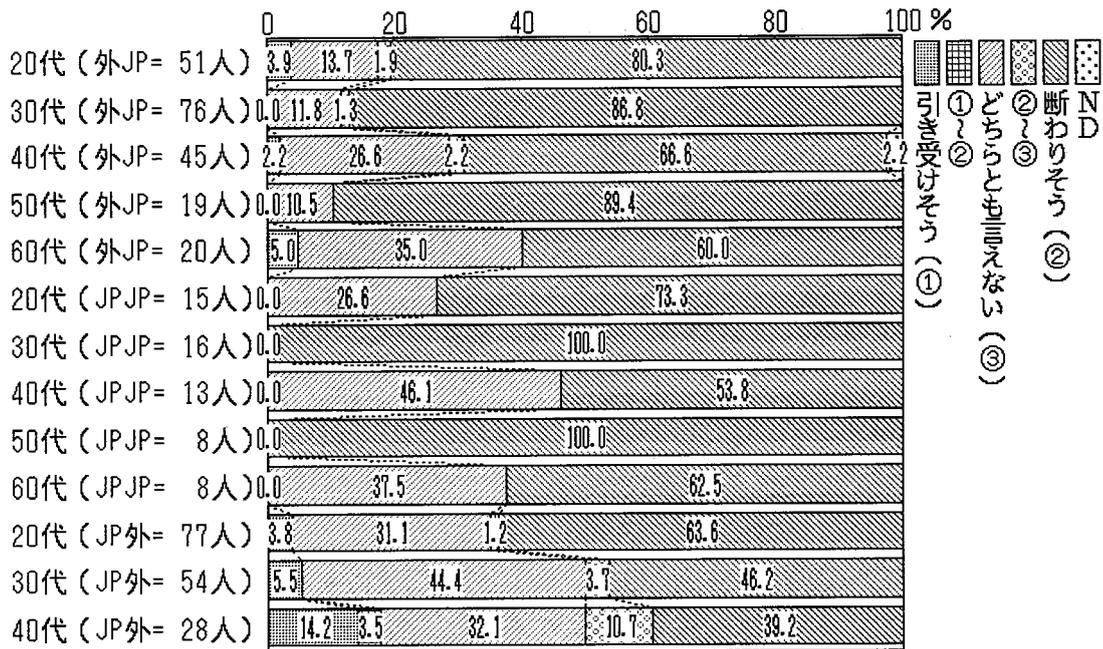
図表Ⅱ-6-16-4 すぐに用件を切り出す聞き方の日本での評価（滞在年数別集計） [6.2.4]



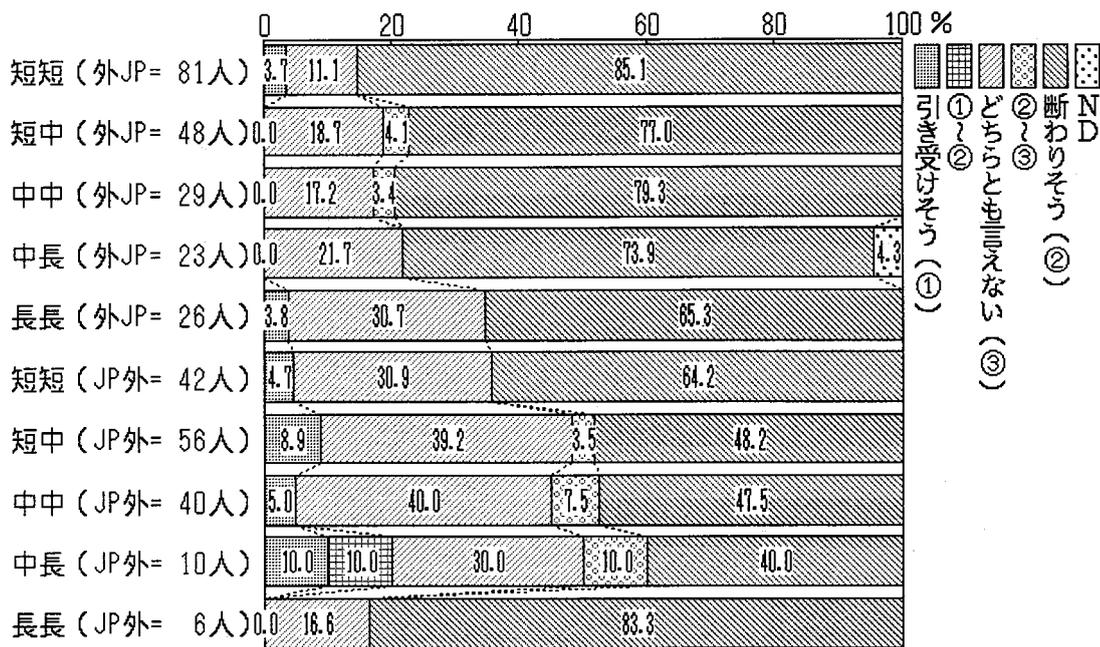
図表Ⅱ-6-17-1 <笑い>と話題そらしから感じられる発話者の意図（地域別集計） [6.3.1.A]



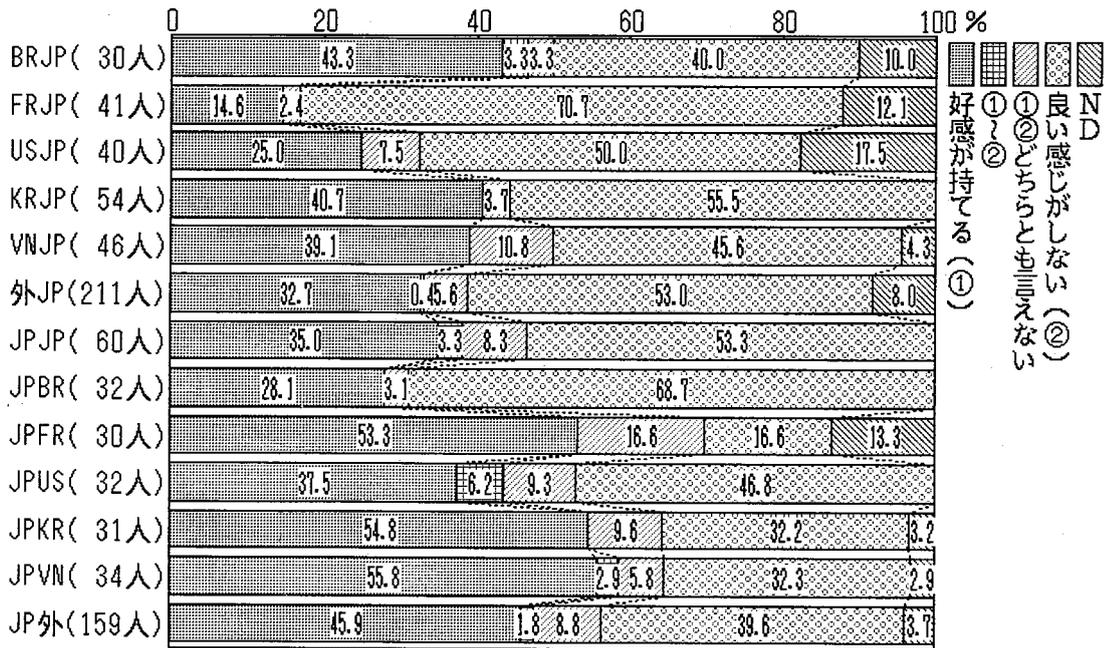
図表Ⅱ-6-17-2 <笑い>と話題そらしから感じられる発話者の意図（性別集計） [6.3.1.A]



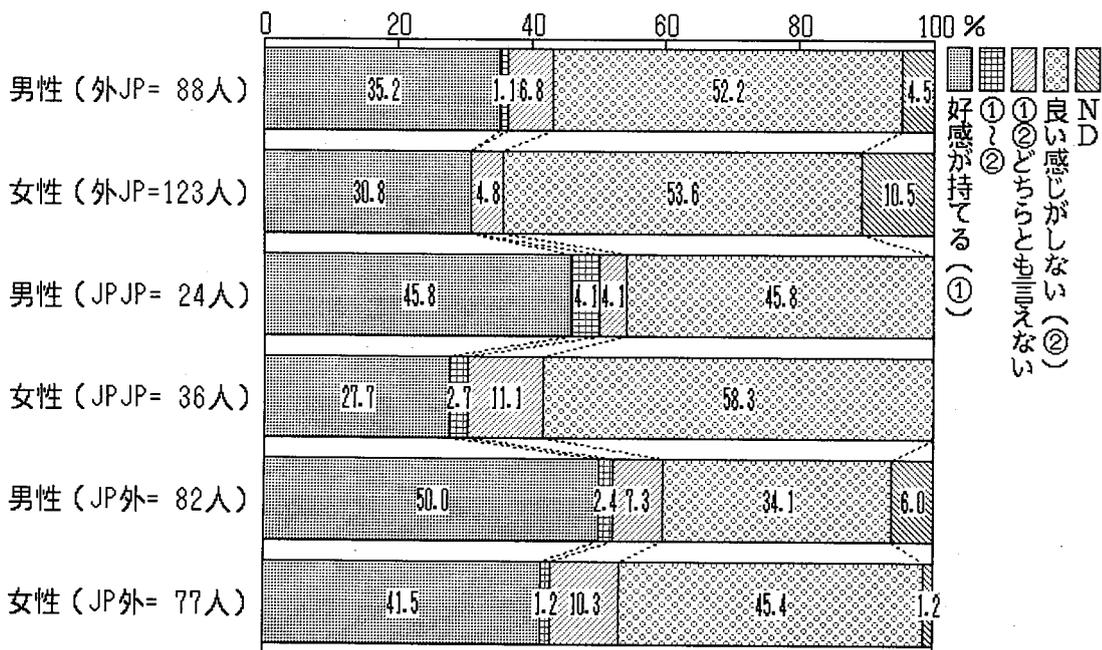
図表Ⅱ-6-17-3 <笑い>と話題そらしから感じられる発話者の意図 (年齢層別集計) [6.3.1.A]



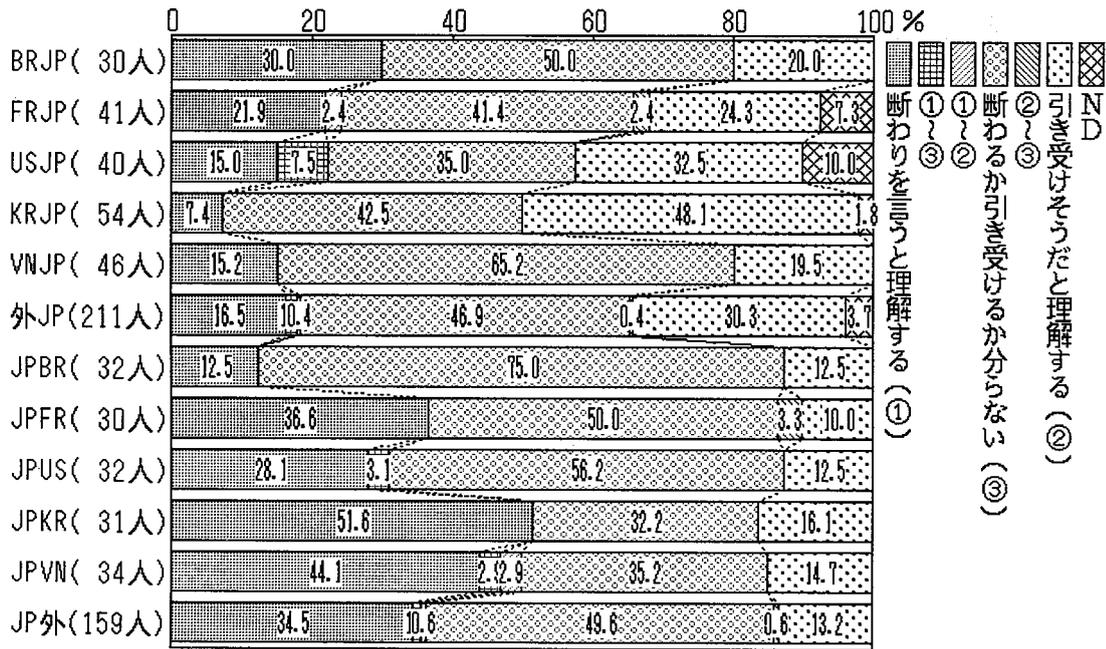
図表Ⅱ-6-17-4 <笑い>と話題そらしから感じられる発話者の意図 (滞在年数別集計) [6.3.1.A]



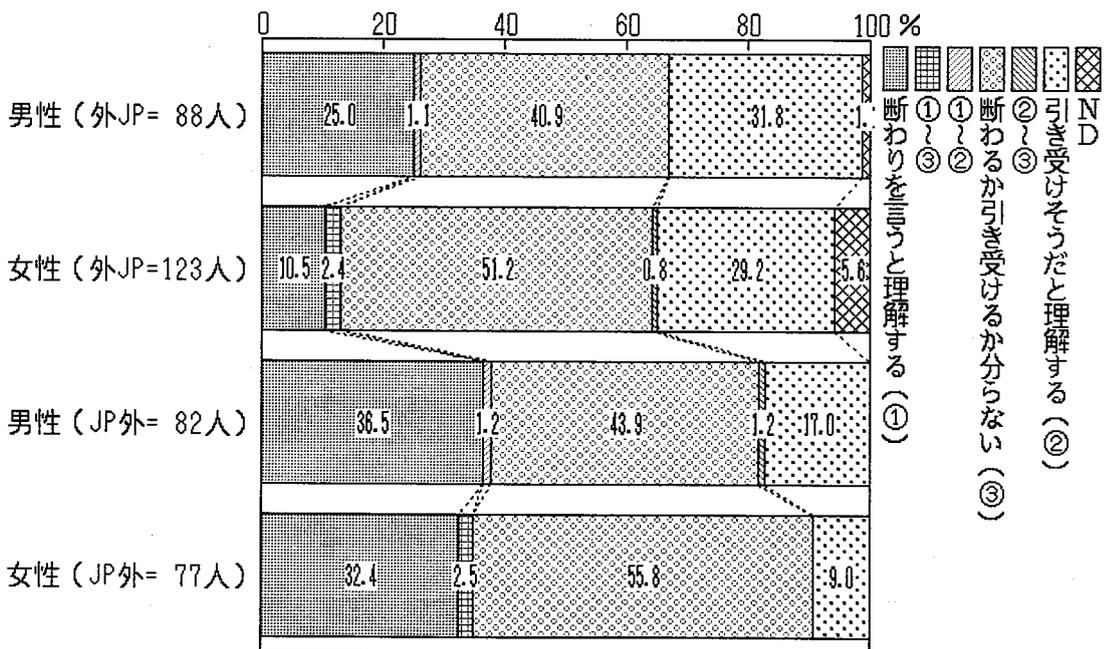
図表Ⅱ-6-18-1 <笑い>と話題そらしを見ての印象（地域別集計） [6.3.1.B]



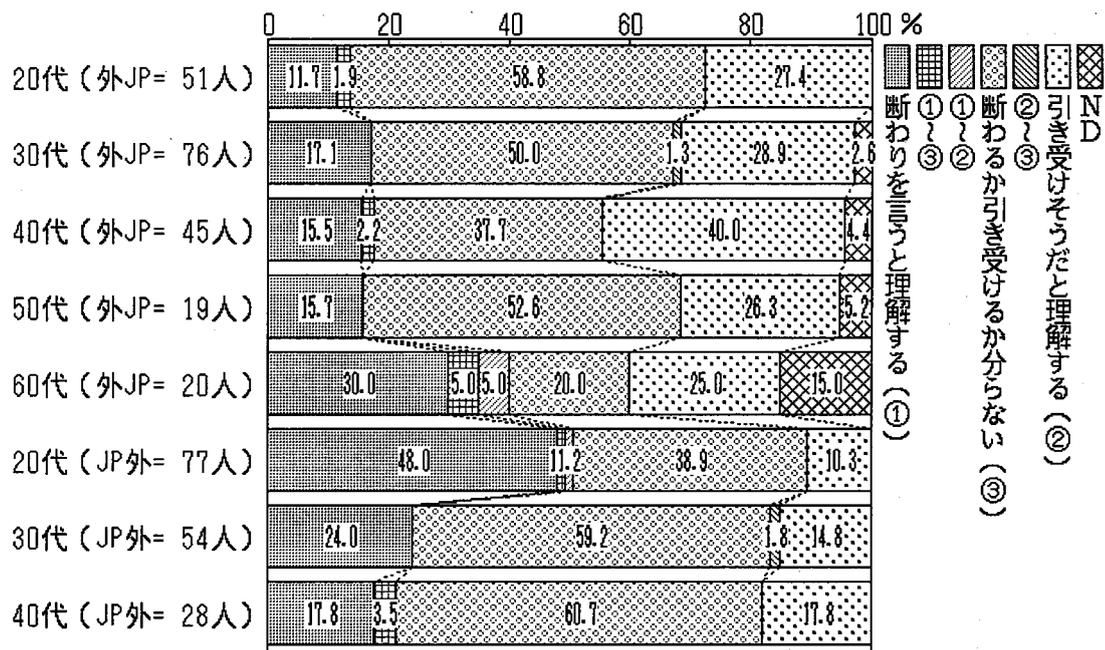
図表Ⅱ-6-18-2 <笑い>と話題そらしを見ての印象（性別集計） [6.3.1.B]



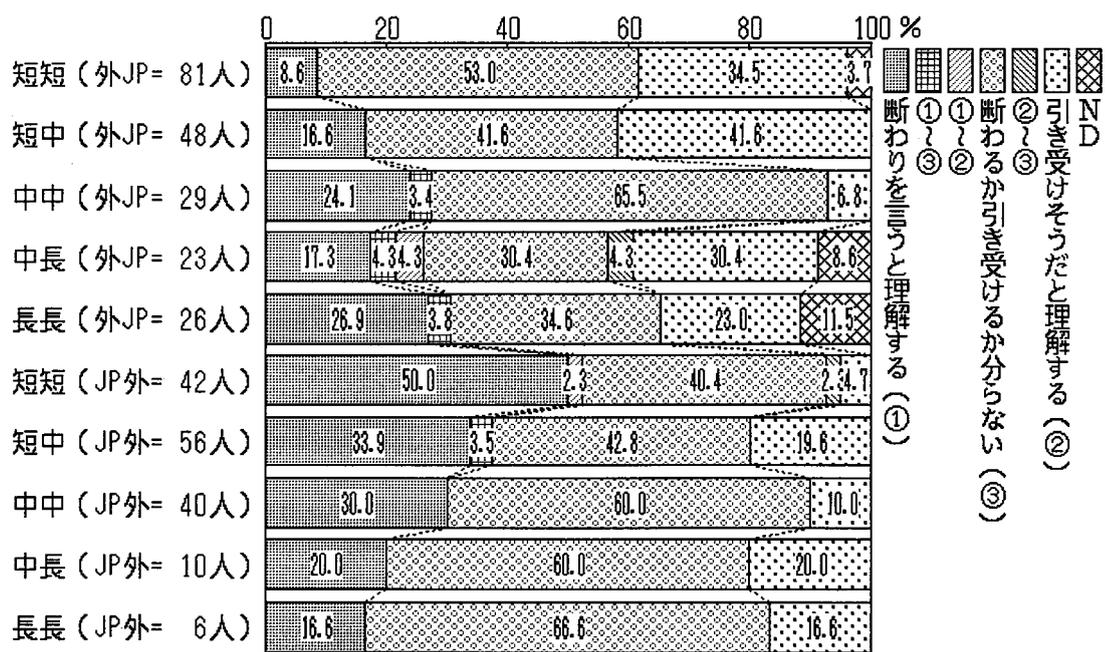
図表Ⅱ-6-19-1 話題そらしについての対照国の人の理解 (地域別集計) [6.3.2.A]



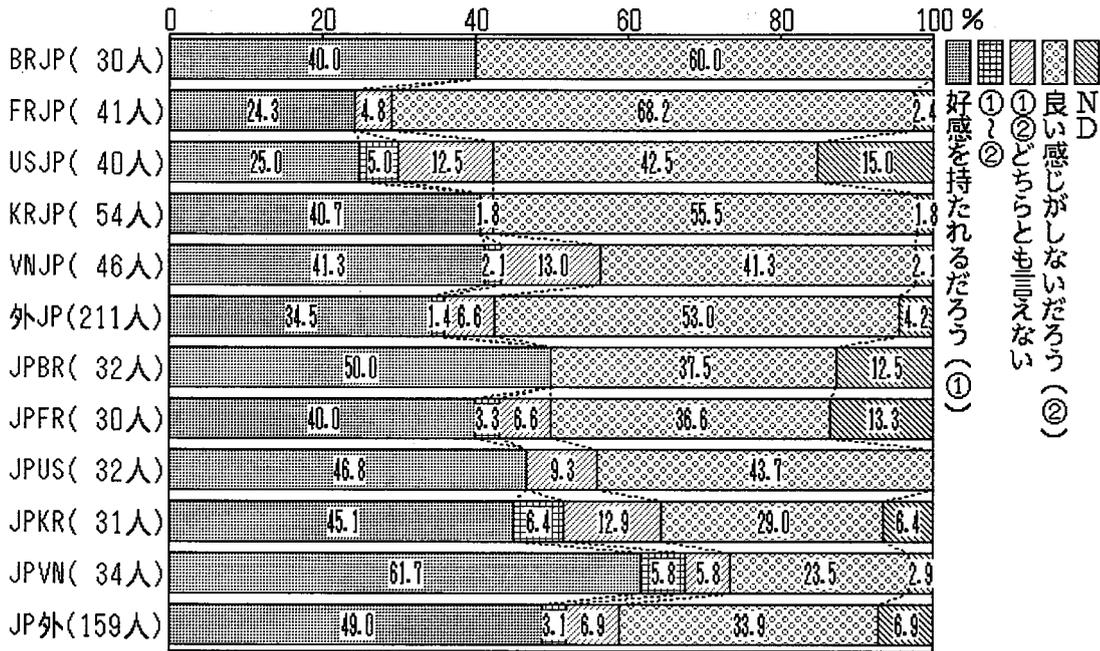
図表Ⅱ-6-19-2 話題そらしについての対照国の人の理解 (性別集計) [6.3.2.A]



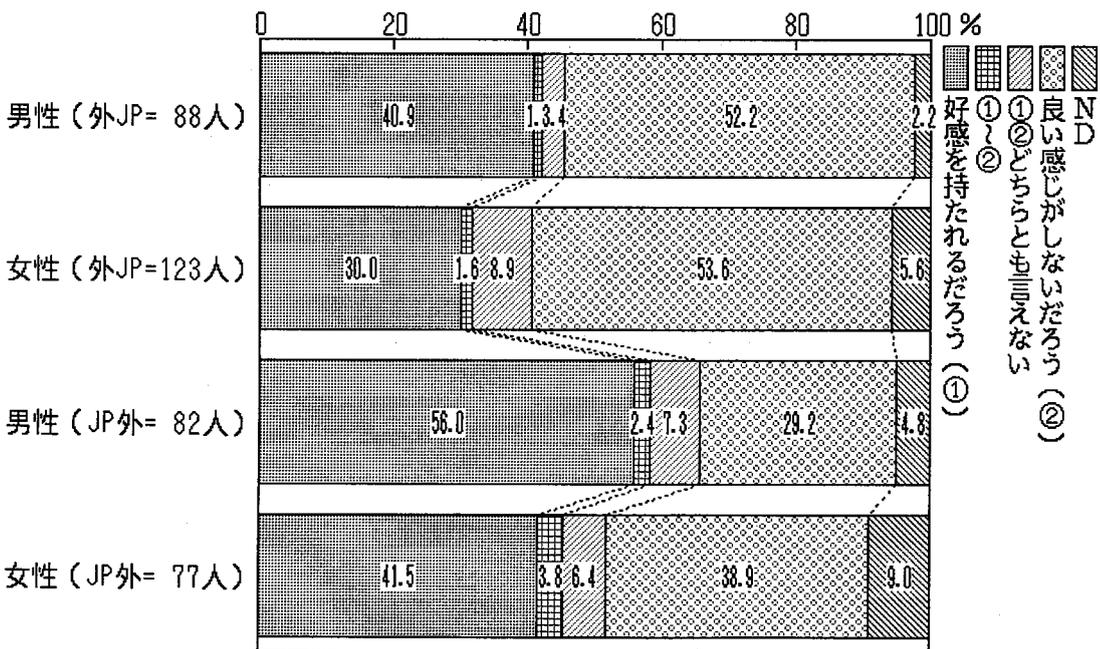
図表Ⅱ-6-19-3 話題そらしについての対照国の人の理解（年齢層別集計） [6.3.2.A]



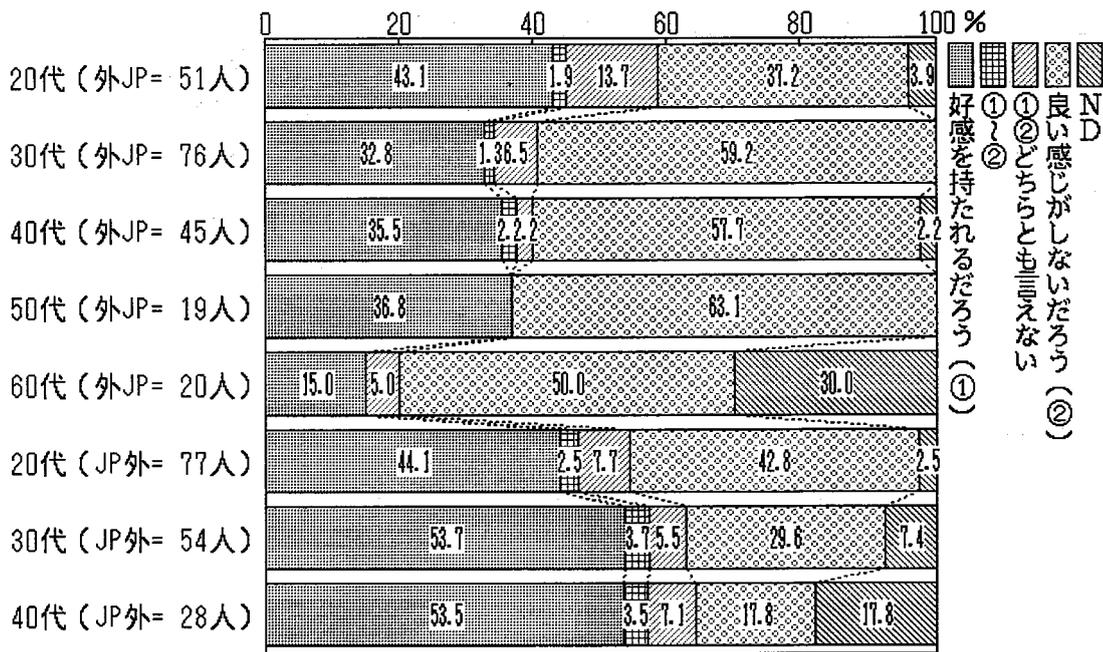
図表Ⅱ-6-19-4 話題そらしについての対照国の人の理解（滞在年数別集計） [6.3.2.A]



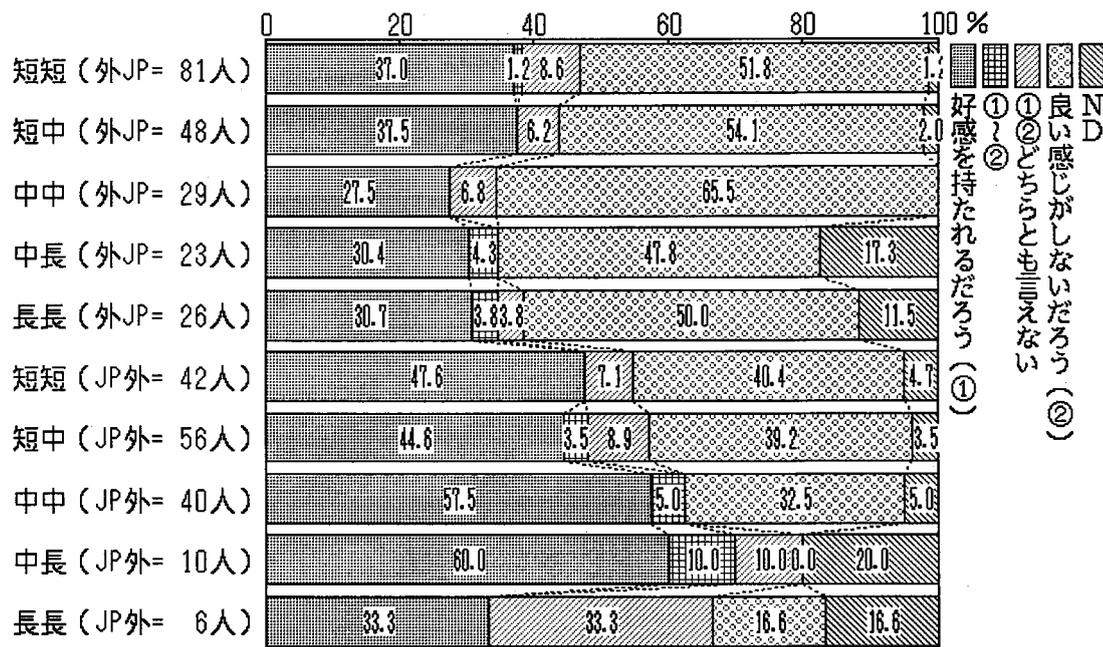
図表Ⅱ-6-20-1 話題そらしについての対照国の人の印象（地域別集計） [6.3.2.B]



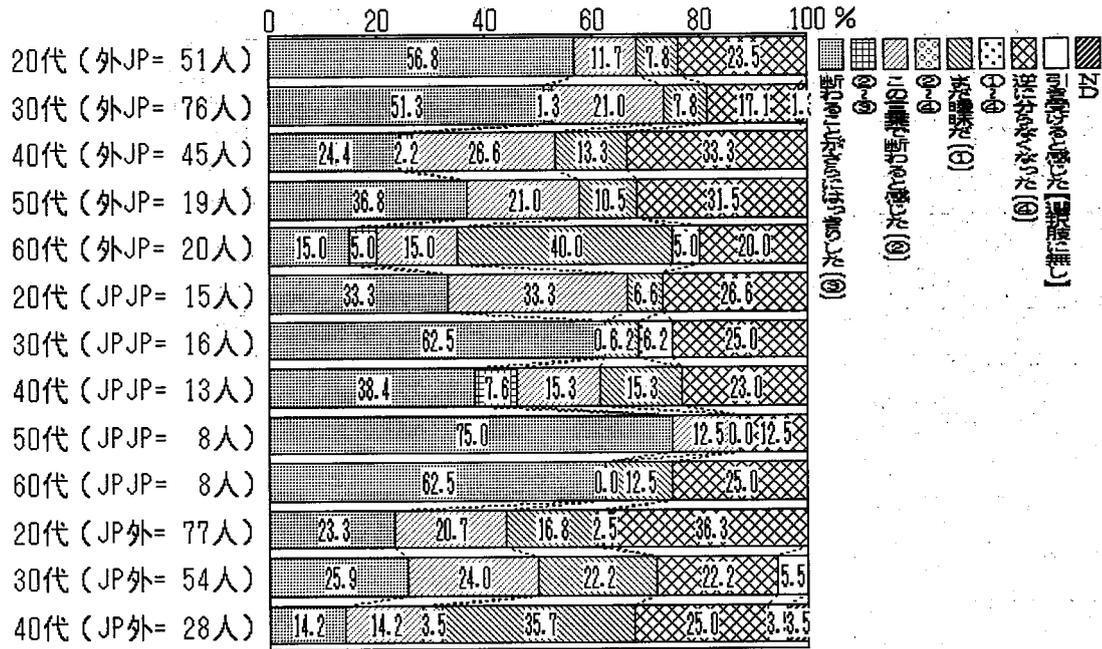
図表Ⅱ-6-20-2 話題そらしについての対照国の人の印象（性別集計） [6.3.2.B]



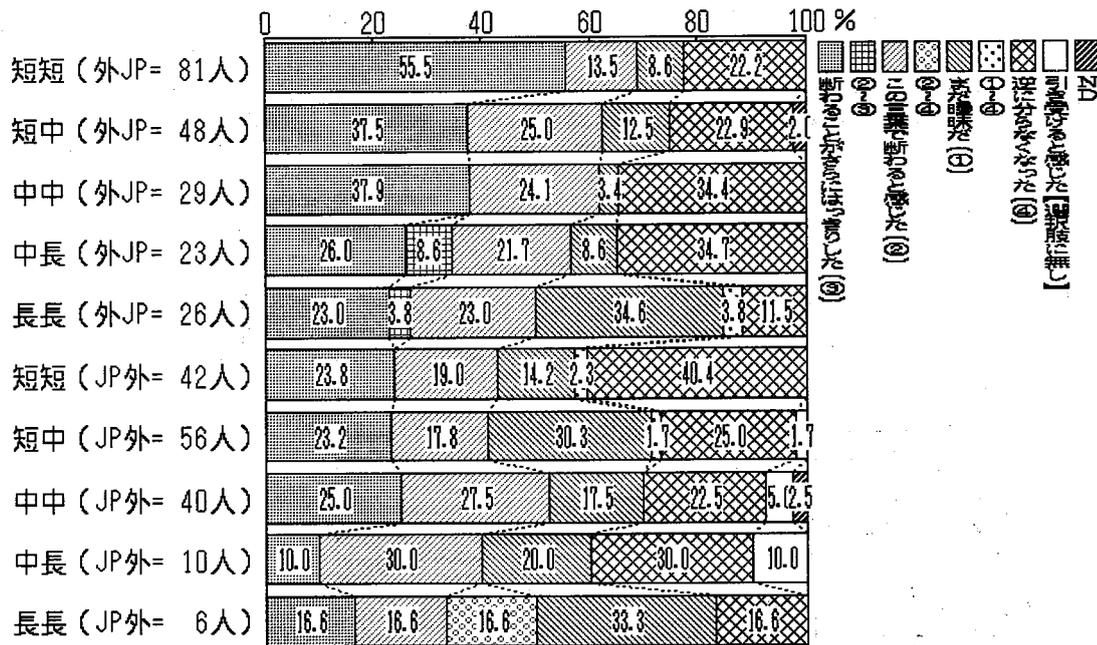
図表Ⅱ-6-20-3 話題そらしについての対照国の人の印象（年齢層別集計） [6.3.2.B]



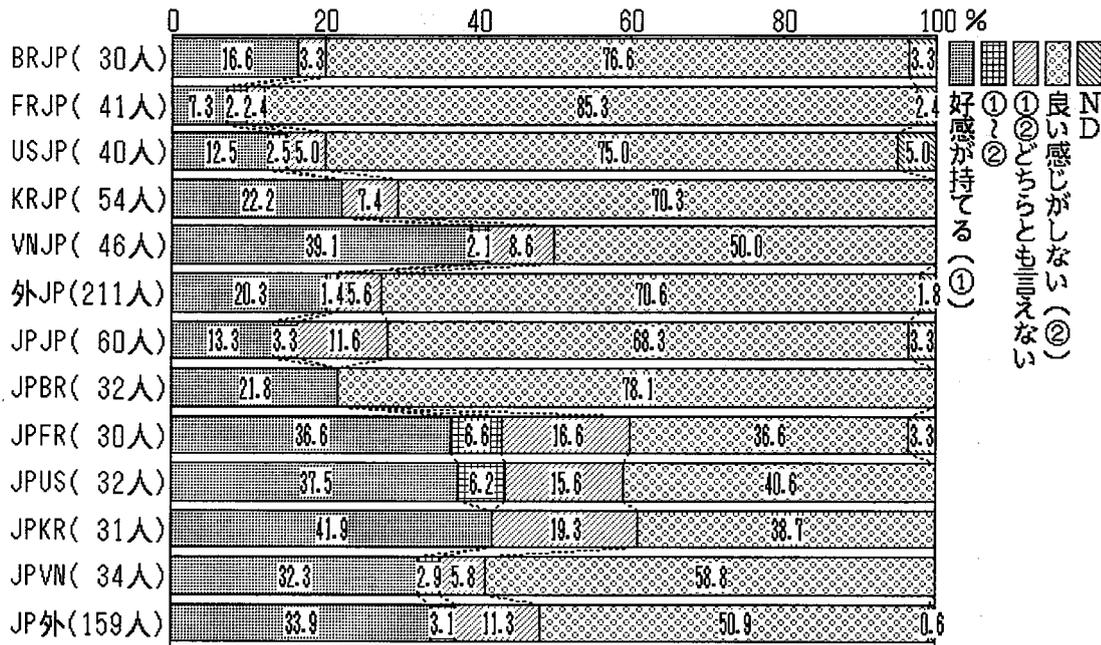
図表Ⅱ-6-20-4 話題そらしについての対照国の人の印象（滞在年数別集計） [6.3.2.B]



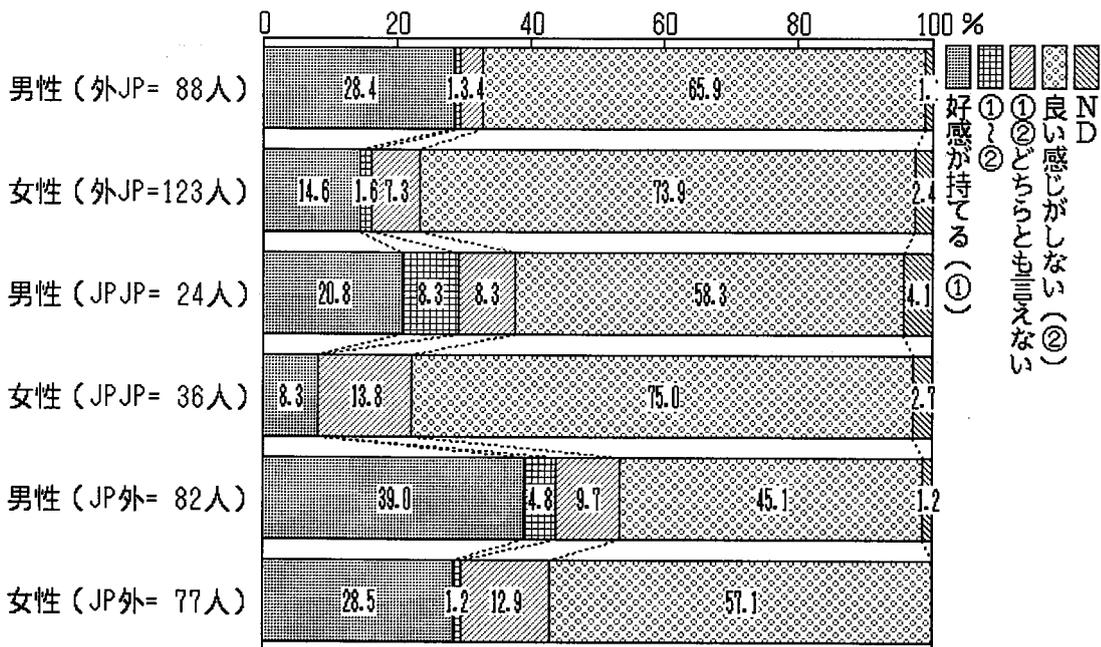
図表Ⅱ-6-21-3 あいまいな返事から感じられる発話者の意図(年齢層別集計) [6.4.1]



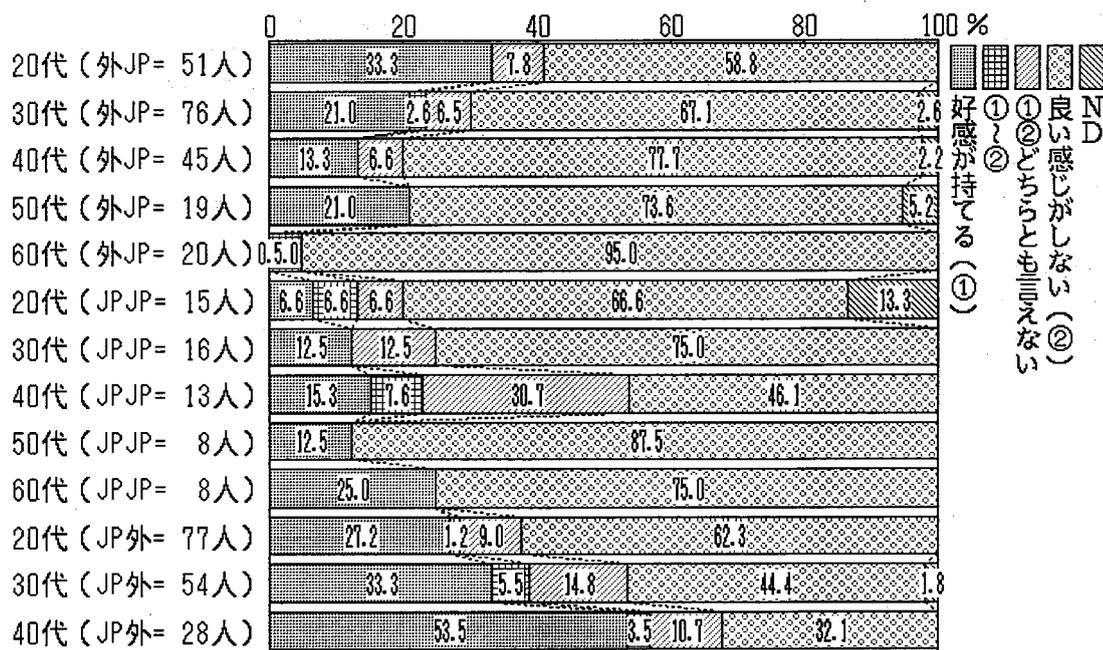
図表Ⅱ-6-21-4 あいまいな返事から感じられる発話者の意図(滞在年数別集計) [6.4.1]



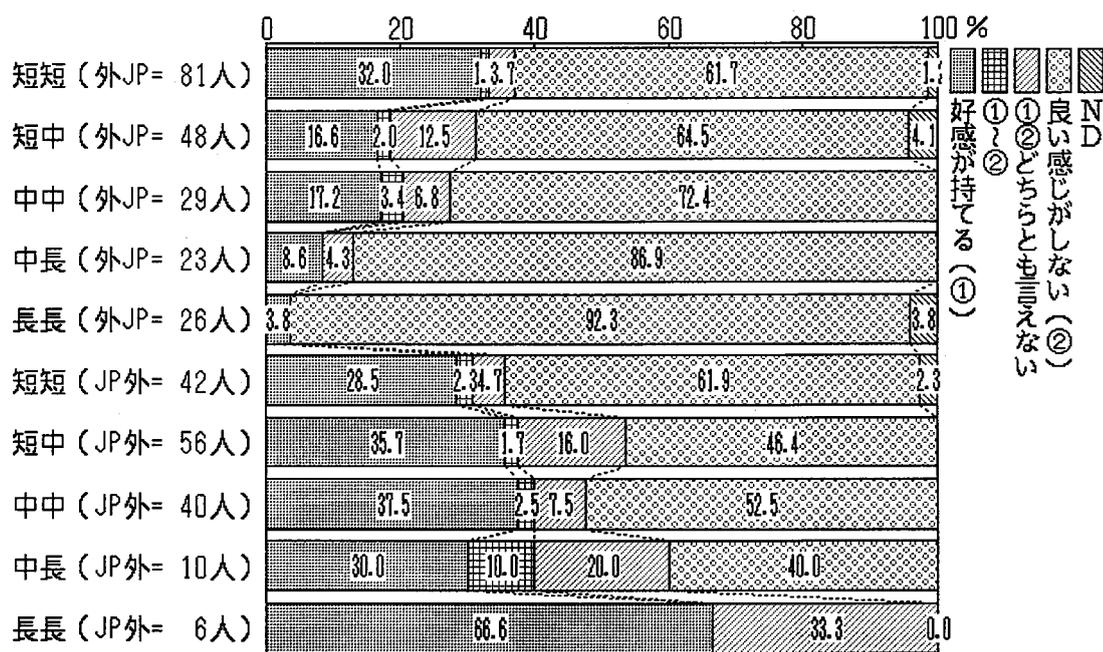
図表Ⅱ-6-22-1 あいまいな返事を見ての印象（地域別集計） [6.4.2]



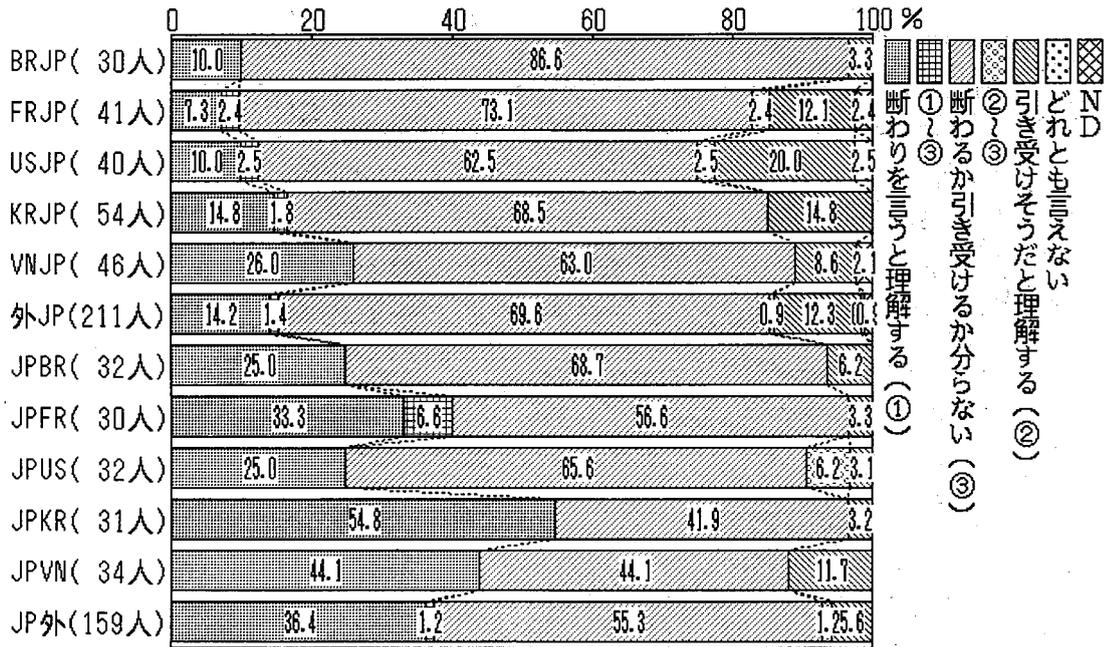
図表Ⅱ-6-22-2 あいまいな返事を見ての印象（性別集計） [6.4.2]



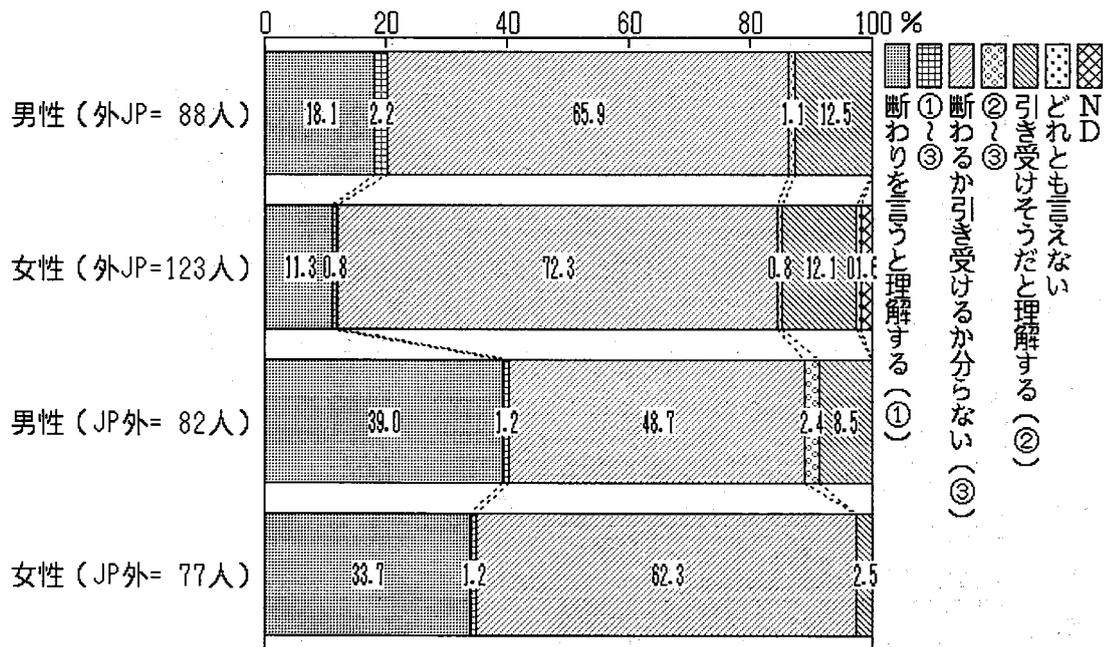
図表 II-6-22-3 あいまいな返事を見ての印象 (年齢層別集計) [6.4.2]



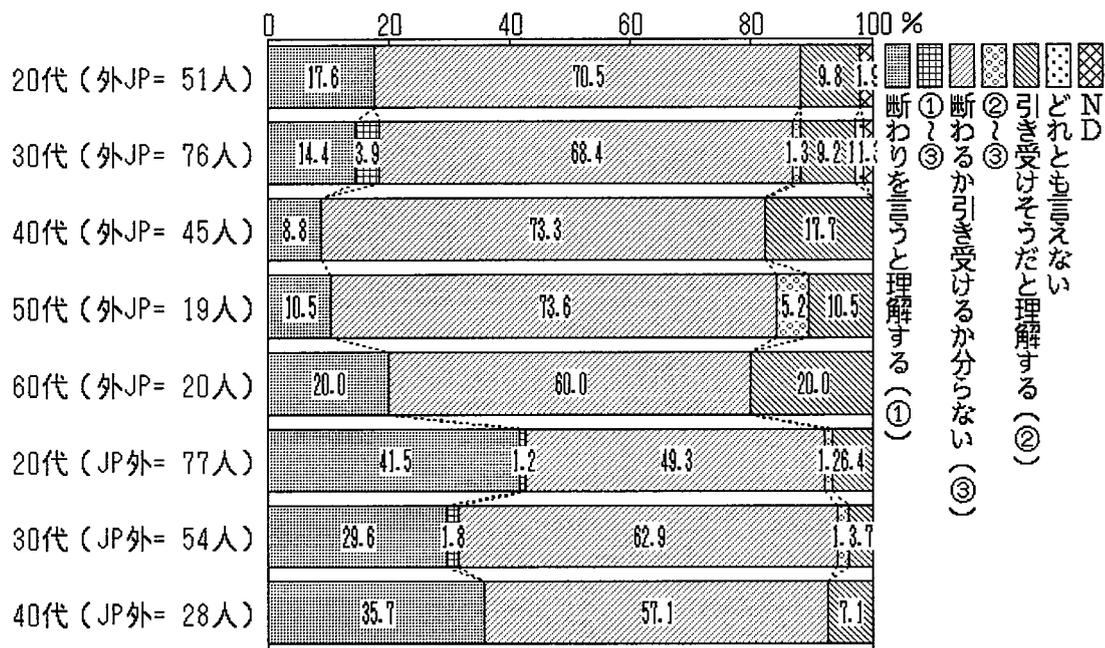
図表 II-6-22-4 あいまいな返事を見ての印象 (滞在年数別集計) [6.4.2]



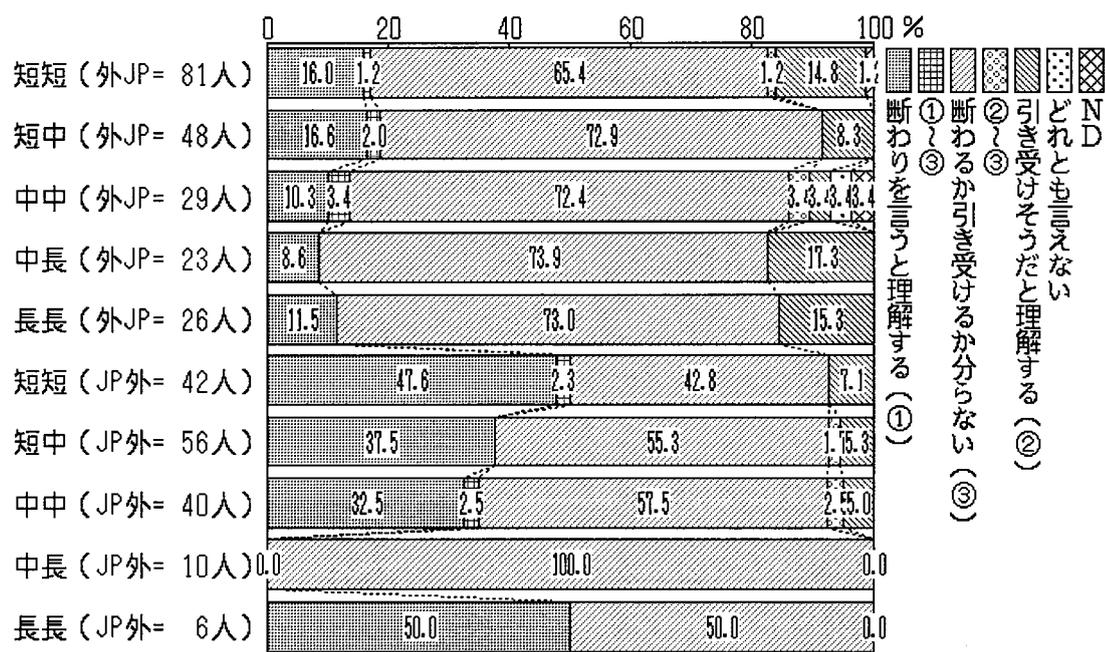
図表Ⅱ-6-23-1 あいまいな返事についての対照国の人の理解（地域別集計） [6.4.3.A]



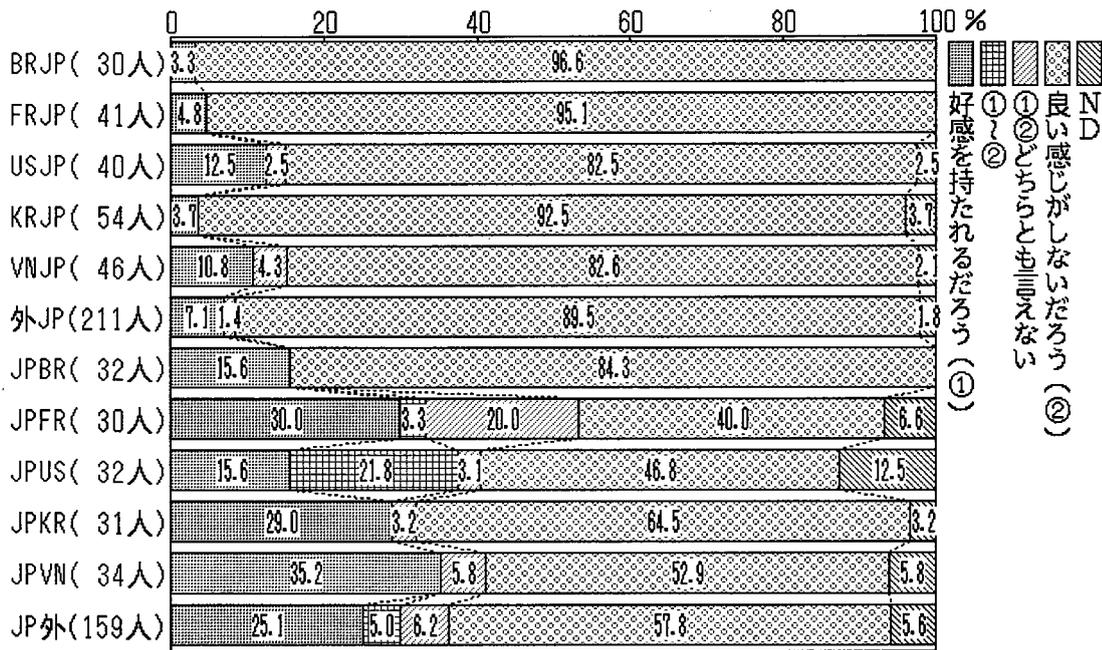
図表Ⅱ-6-23-2 あいまいな返事についての対照国の人の理解（性別集計） [6.4.3.A]



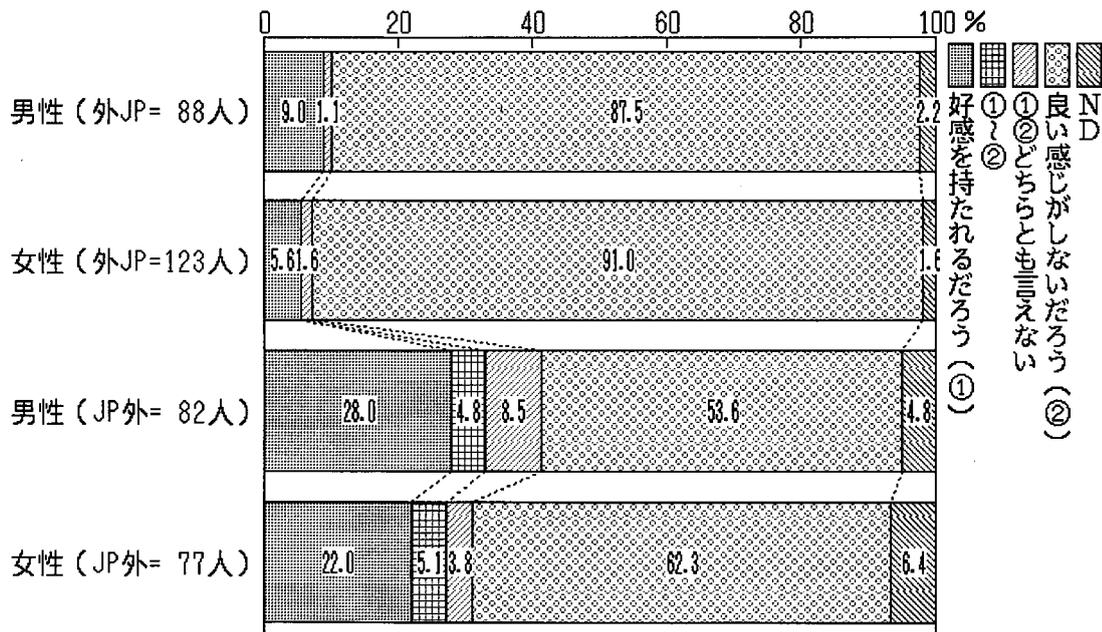
図表Ⅱ-6-23-3 あいまいな返事についての対照国の人の理解（年齢層別集計） [6.4.3.A]



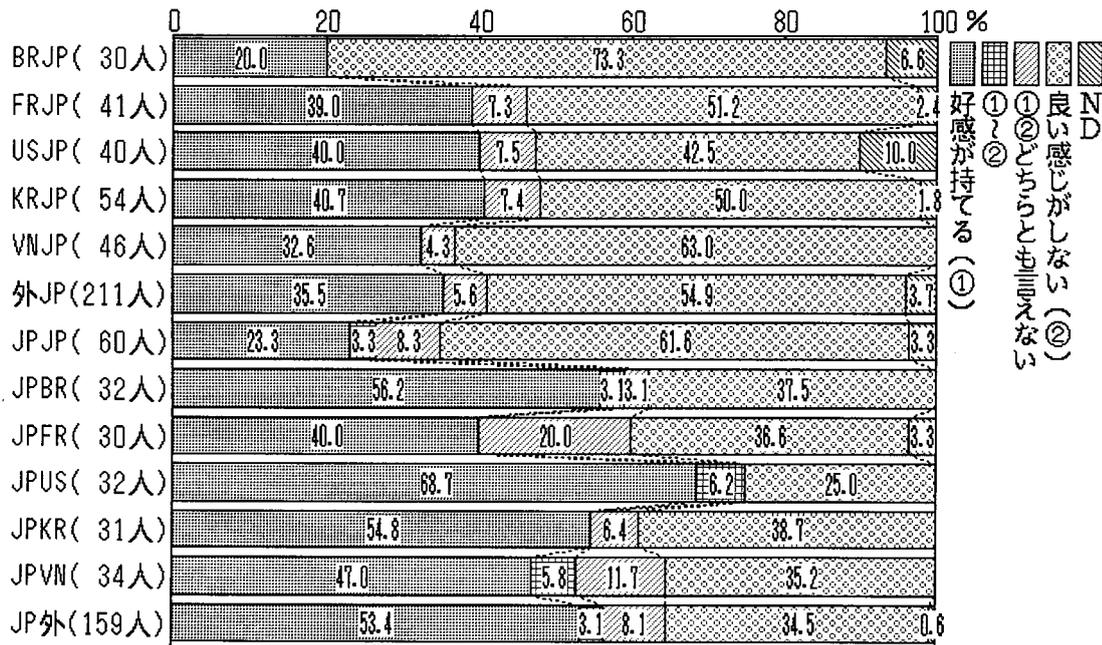
図表Ⅱ-6-23-4 あいまいな返事についての対照国の人の理解（滞在年数別集計） [6.4.3.A]



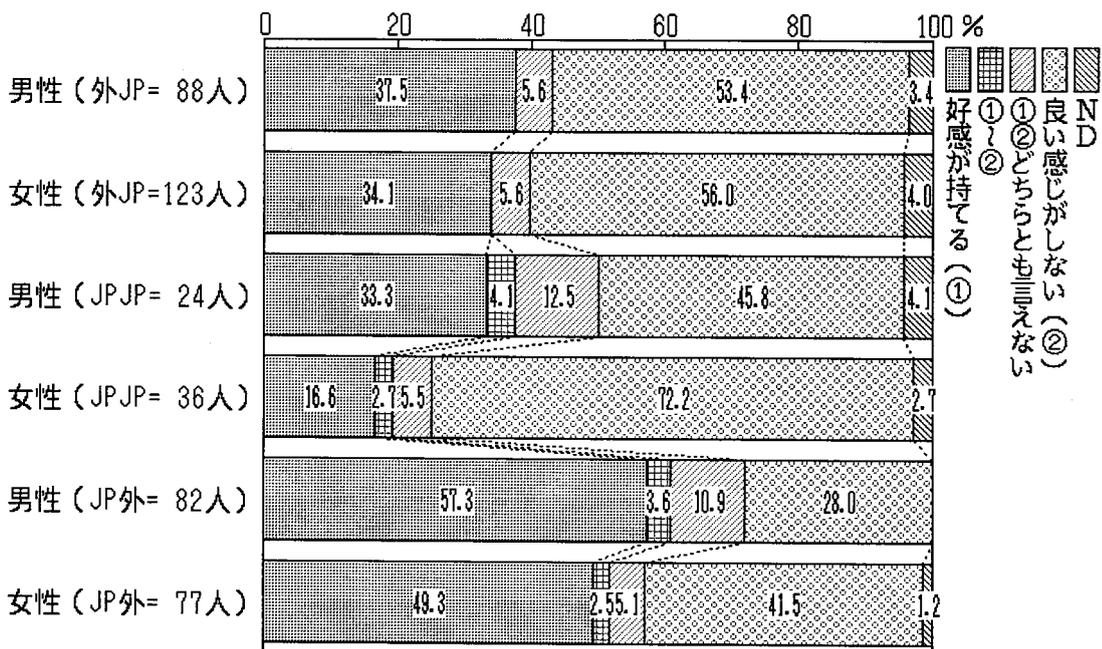
図表Ⅱ-6-24-1 あいまいな返事についての対照国の人の印象（地域別集計） [6.4.3.B]



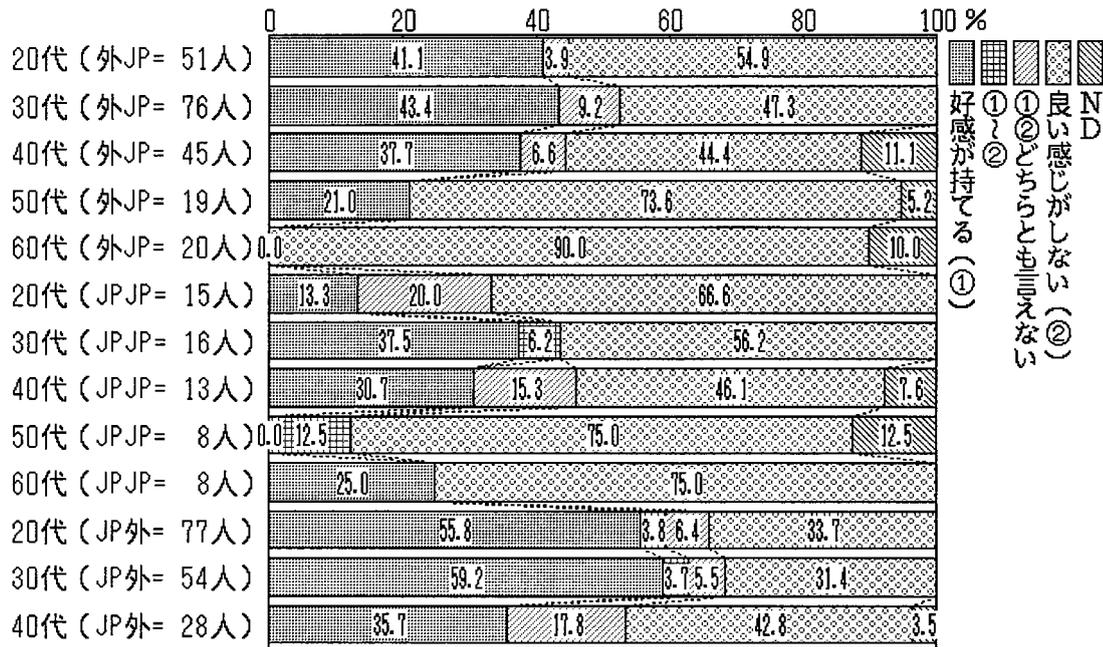
図表Ⅱ-6-24-2 あいまいな返事についての対照国の人の印象（性別集計） [6.4.3.B]



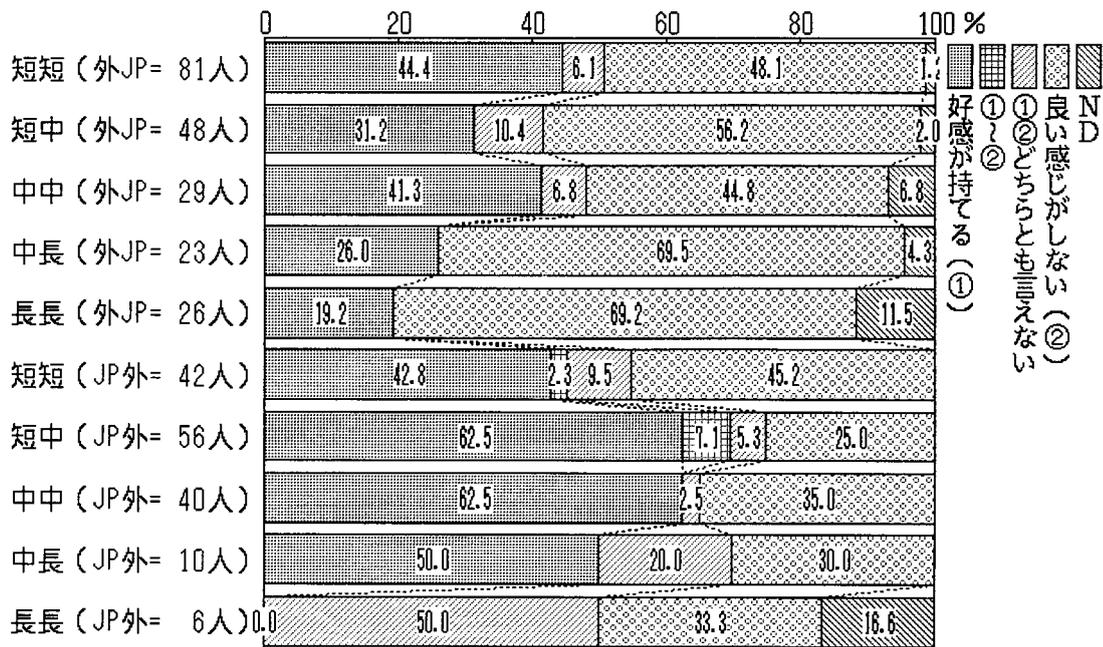
図表Ⅱ-6-25-1 その場で断わずに話題をそらすことについての印象（地域別集計） [6.4.4]



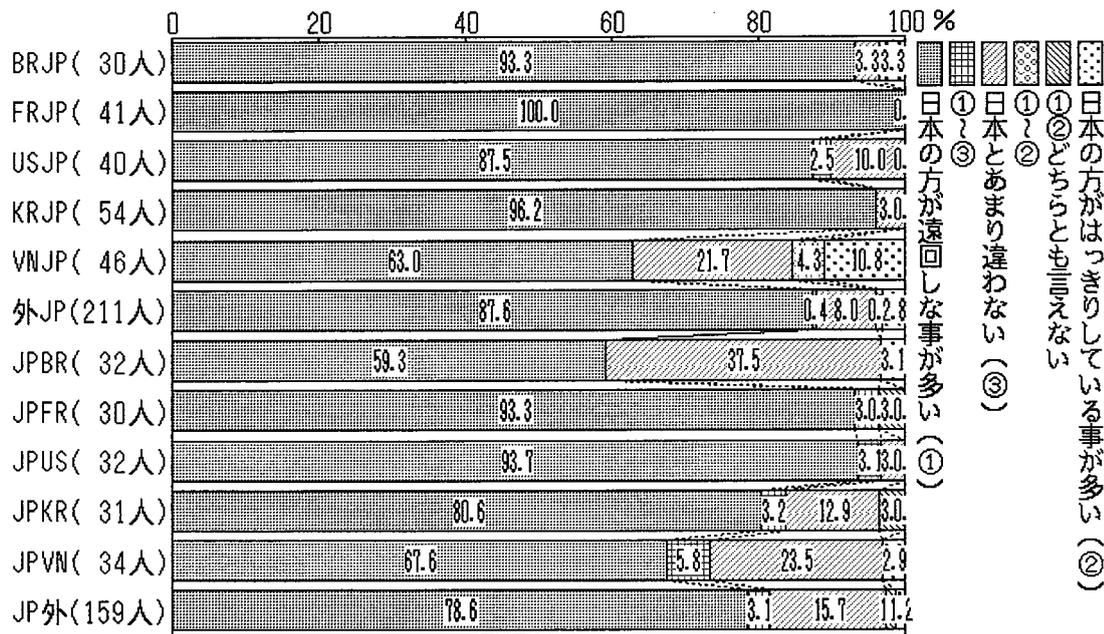
図表Ⅱ-6-25-2 その場で断わずに話題をそらすことについての印象（性別集計） [6.4.4]



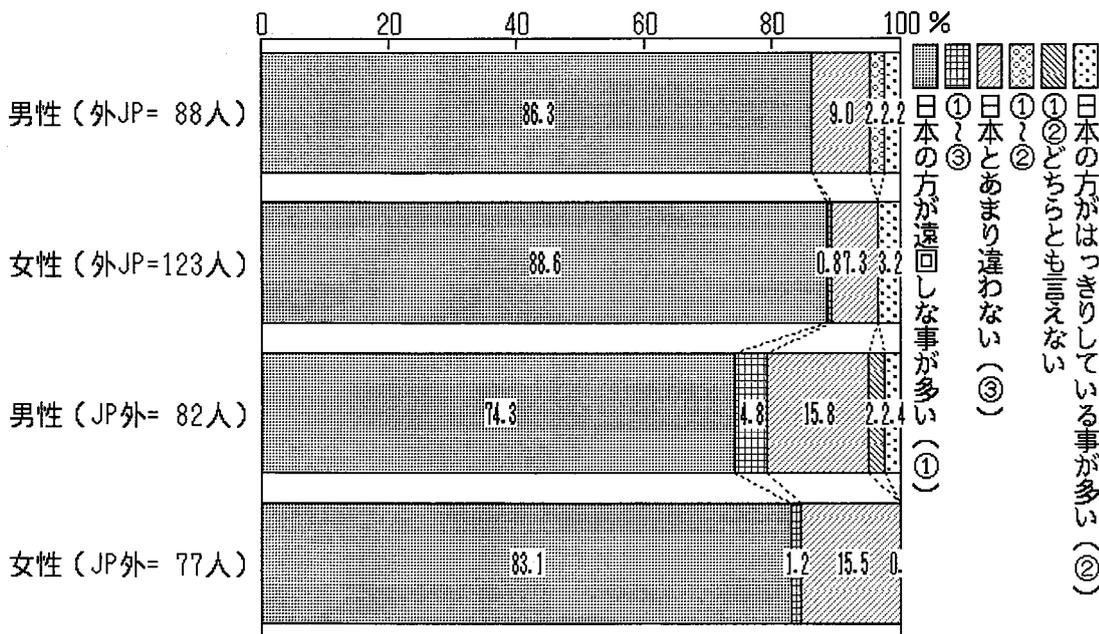
図表Ⅱ-6-25-3 その場で断わずに話題をそらすことについての印象 (年齢層別集計) [6.4.4]



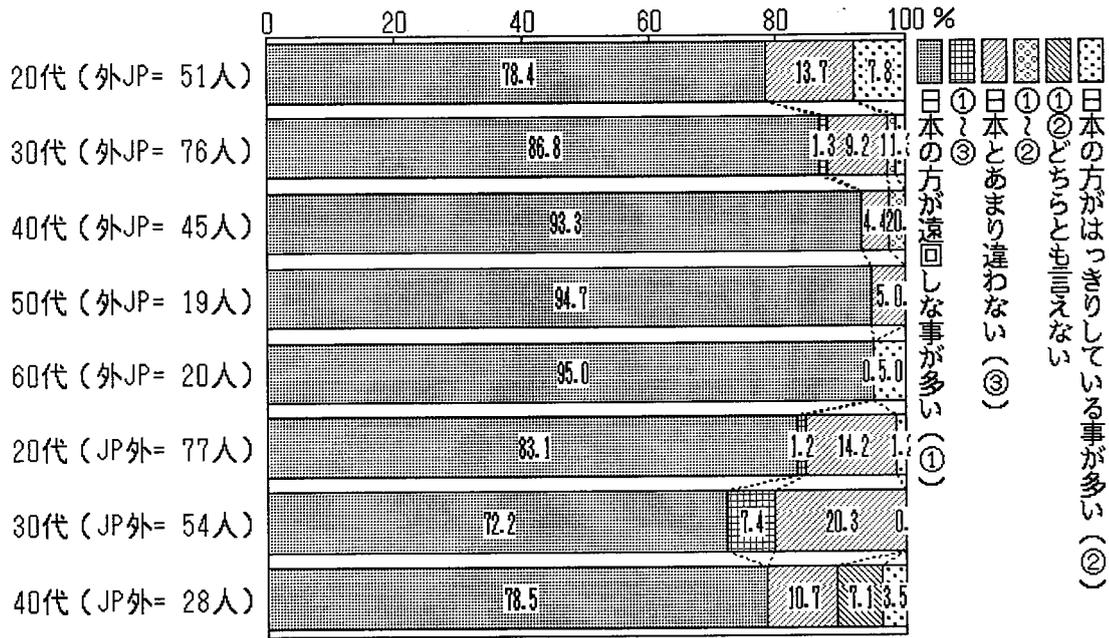
図表Ⅱ-6-25-4 その場で断わずに話題をそらすことについての印象 (滞在年数別集計) [6.4.4]



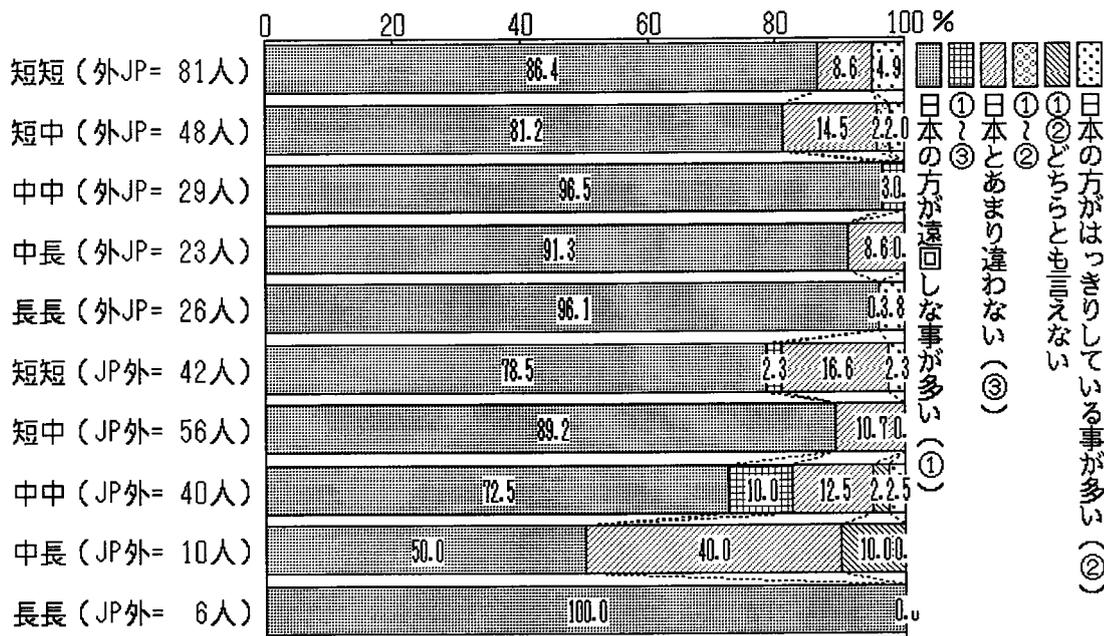
図表Ⅱ-6-26-1 依頼の断わり方についての日本と対照国との比較（地域別集計） [6.5.1]



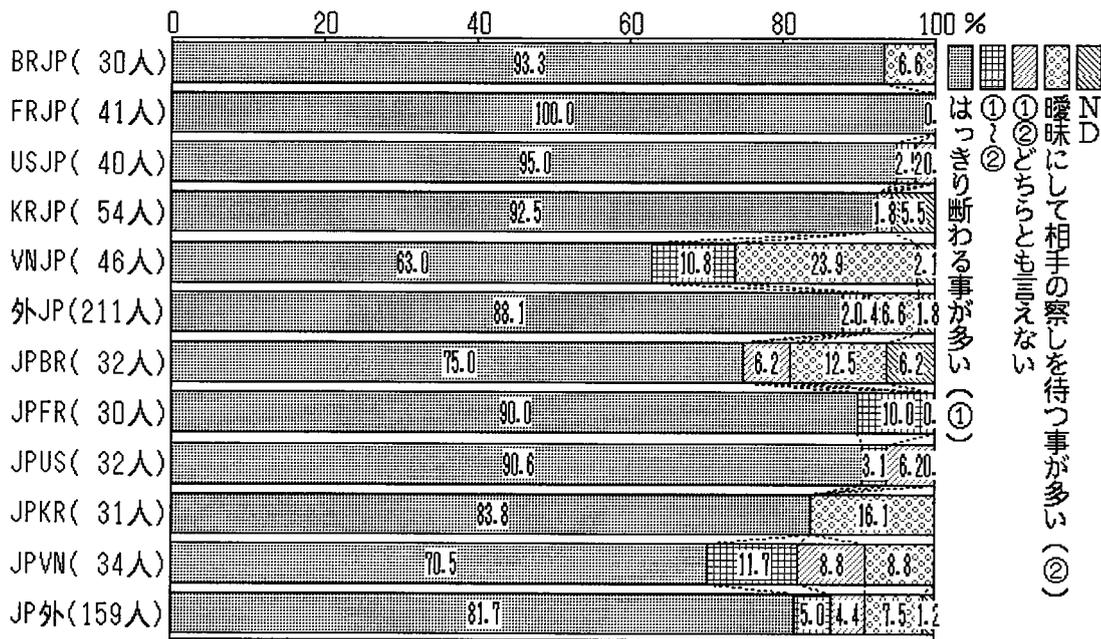
図表Ⅱ-6-26-2 依頼の断わり方についての日本と対照国との比較（性別集計） [6.5.1]



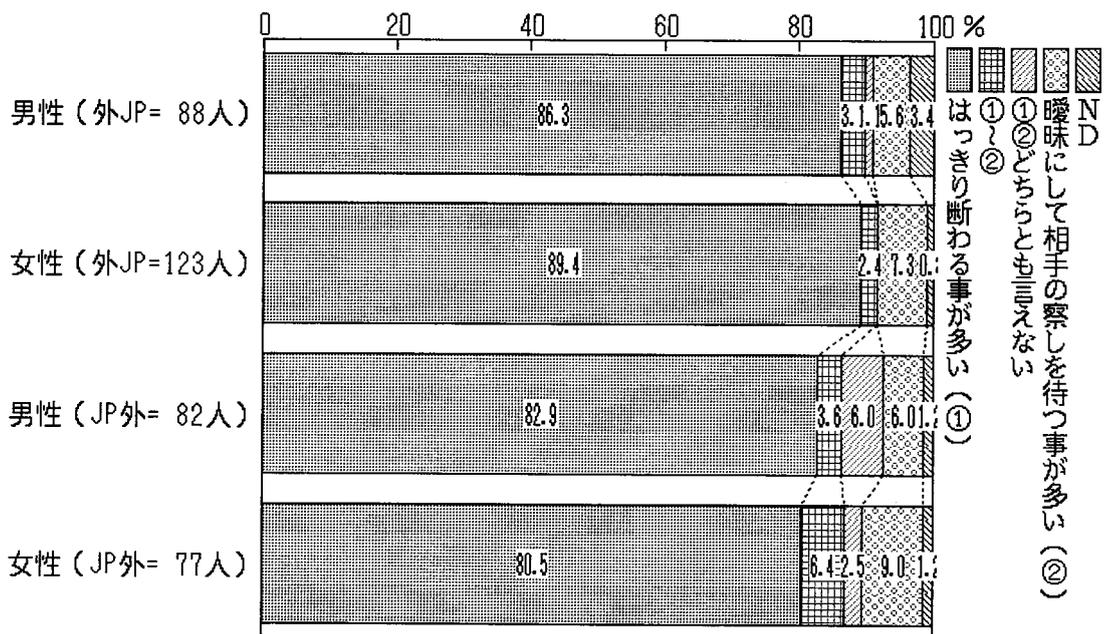
図表Ⅱ-6-26-3 依頼の断わり方についての日本と対照国との比較（年齢層別集計） [6.5.1]



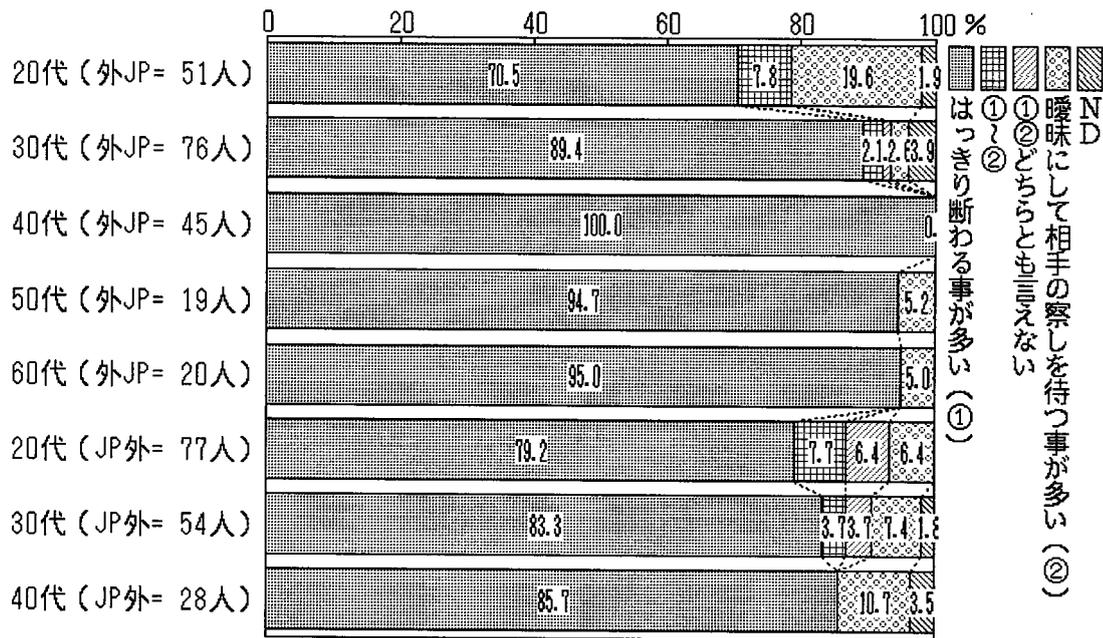
図表Ⅱ-6-26-4 依頼の断わり方についての日本と対照国との比較（滞在年数別集計） [6.5.1]



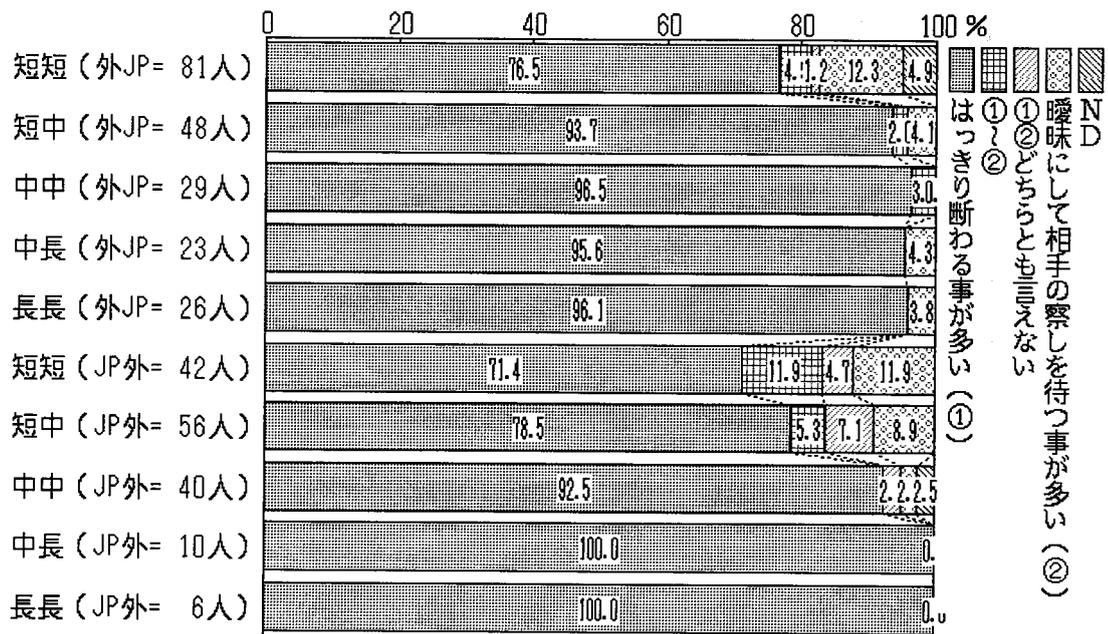
図表Ⅱ-6-27-1 対照国での依頼の断わり方 (地域別集計) [6.5.2]



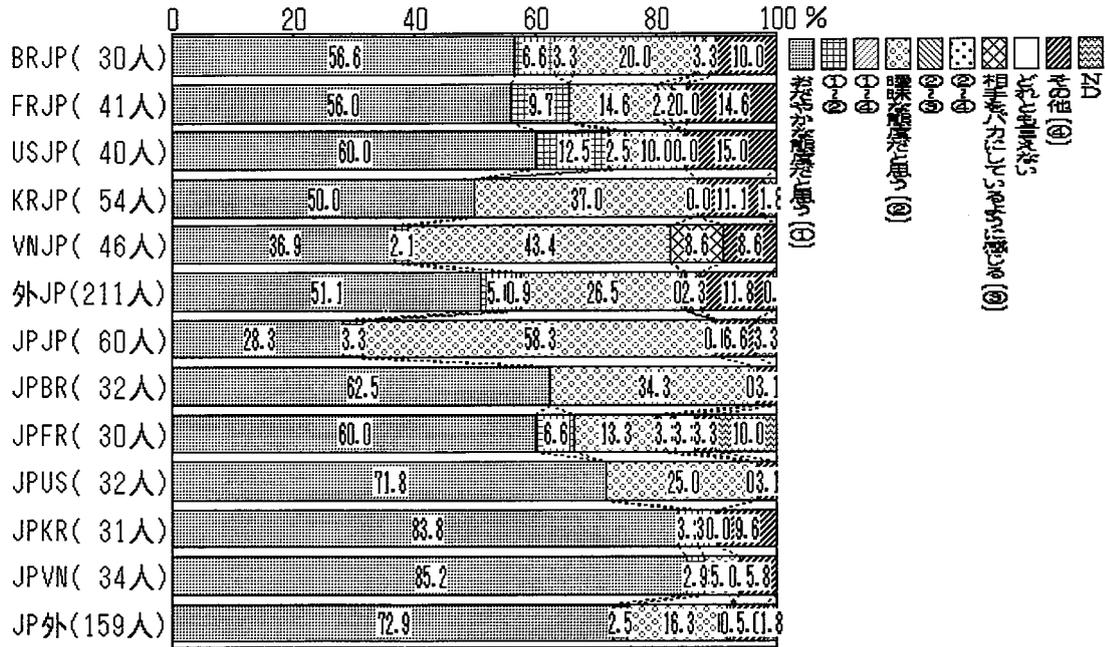
図表Ⅱ-6-27-2 対照国での依頼の断わり方 (性別集計) [6.5.2]



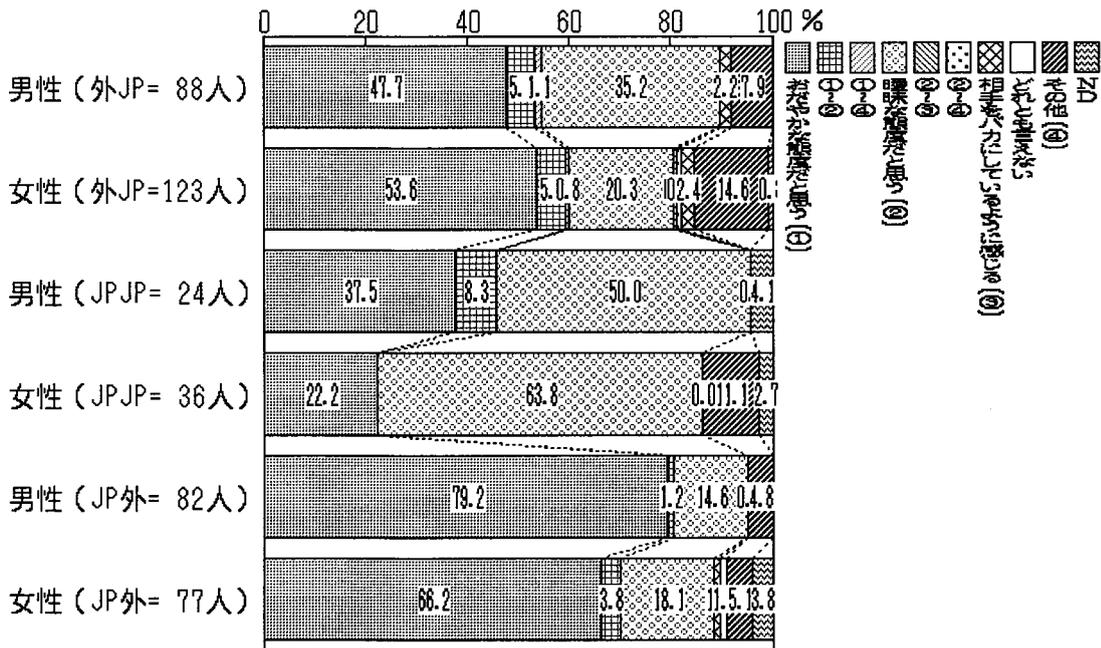
図表Ⅱ-6-27-3 対照国での依頼の断わり方（年齢層別集計） [6.5.2]



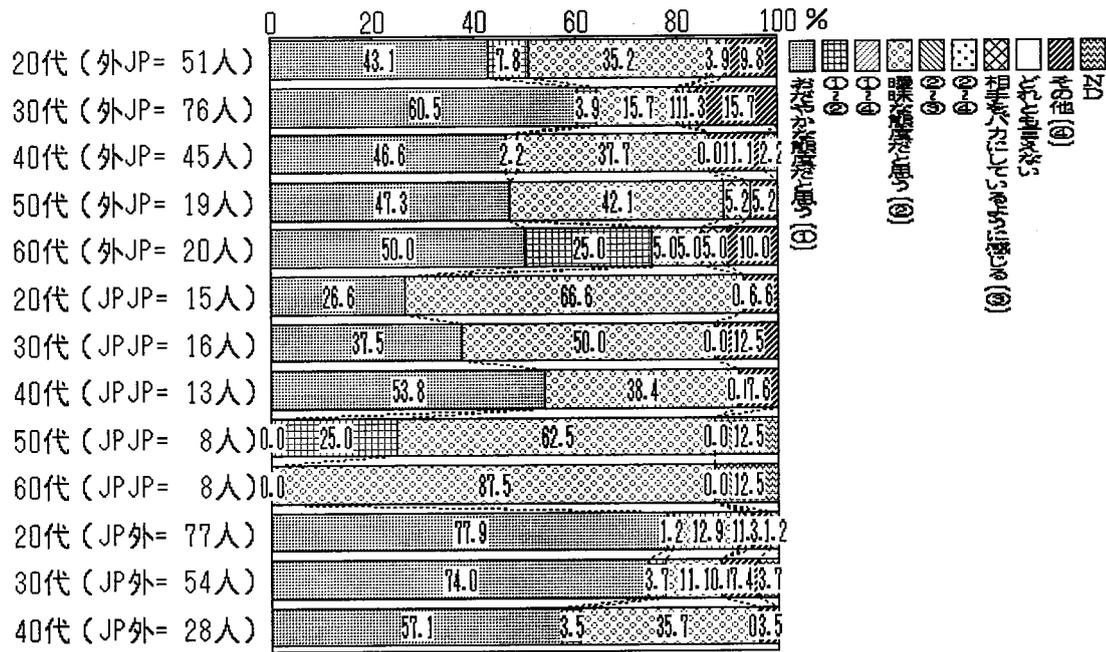
図表Ⅱ-6-27-4 対照国での依頼の断わり方（滞在年数別集計） [6.5.2]



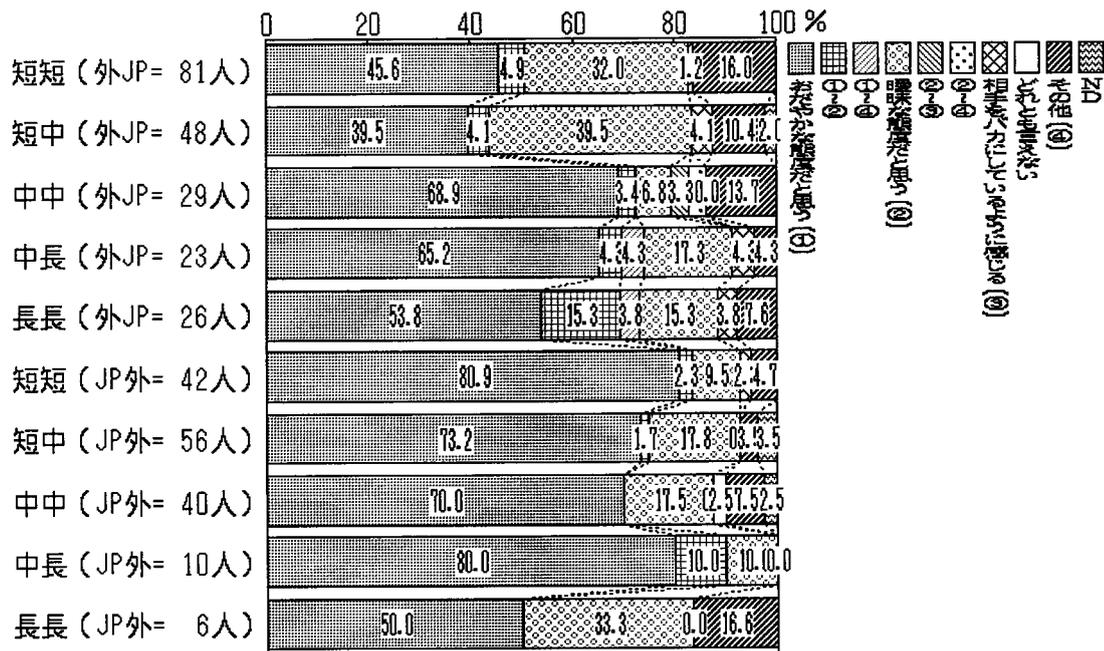
図表Ⅱ-6-28-1 あいまいな返事に伴う<笑い>についての日本人の感じ方(地域別集計) [6.5.3]



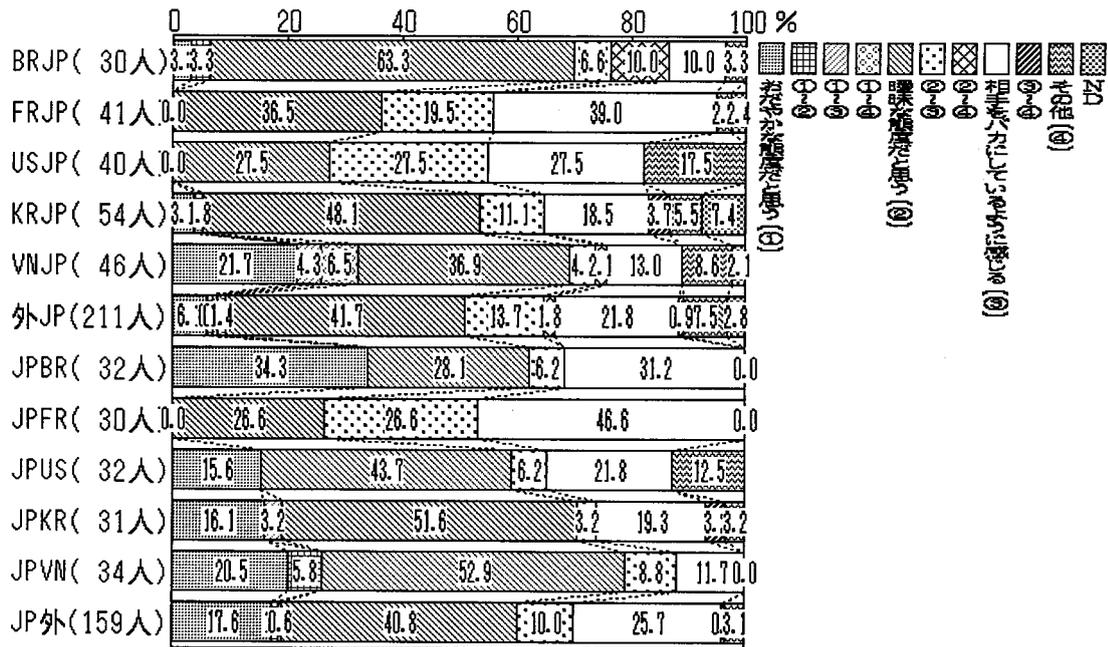
図表Ⅱ-6-28-2 あいまいな返事に伴う<笑い>についての日本人の感じ方(地域別集計) [6.5.3]



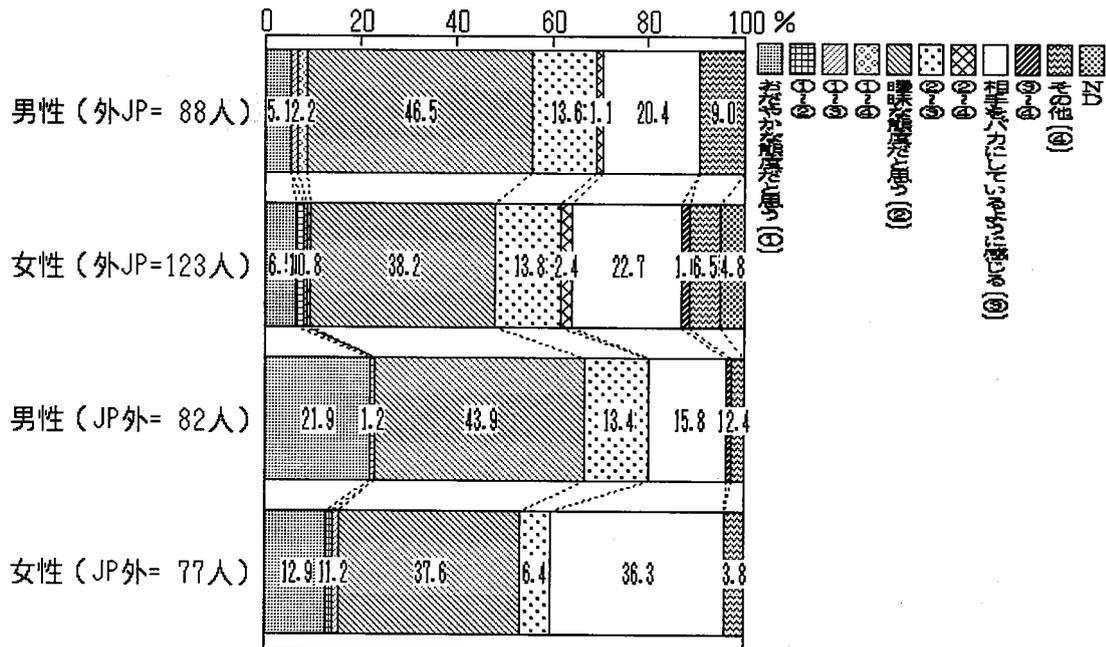
図表Ⅱ-6-28-3 あいまいな返事に伴う<笑い>についての日本人の感じ方 (地域別集計) [6.5.3]



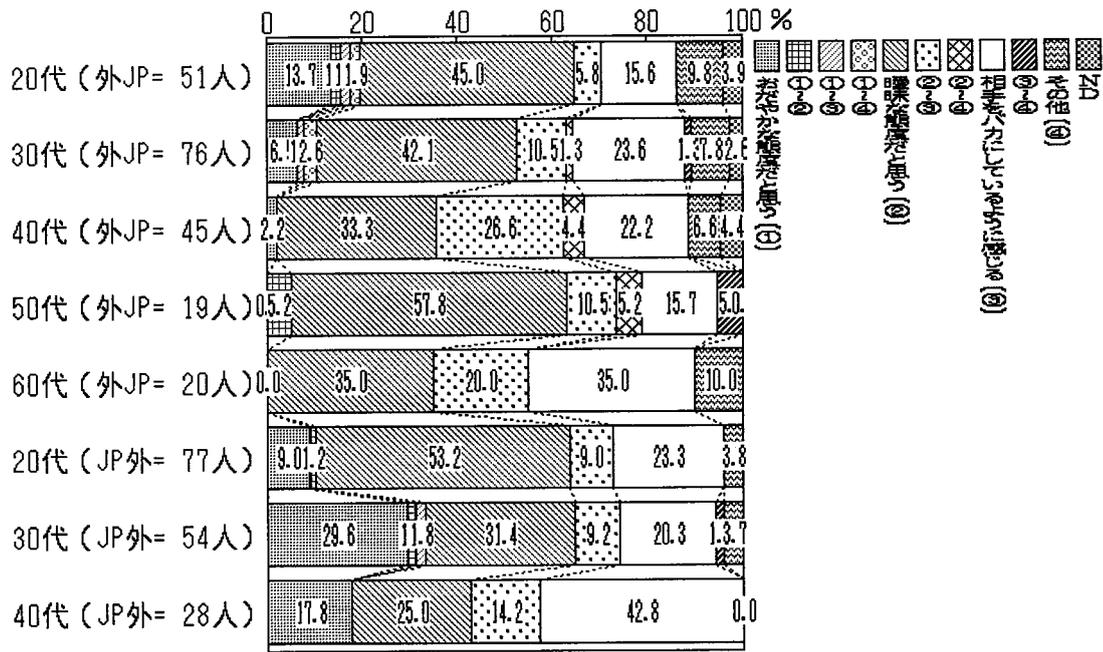
図表Ⅱ-6-28-4 あいまいな返事に伴う<笑い>についての日本人の感じ方 (地域別集計) [6.5.3]



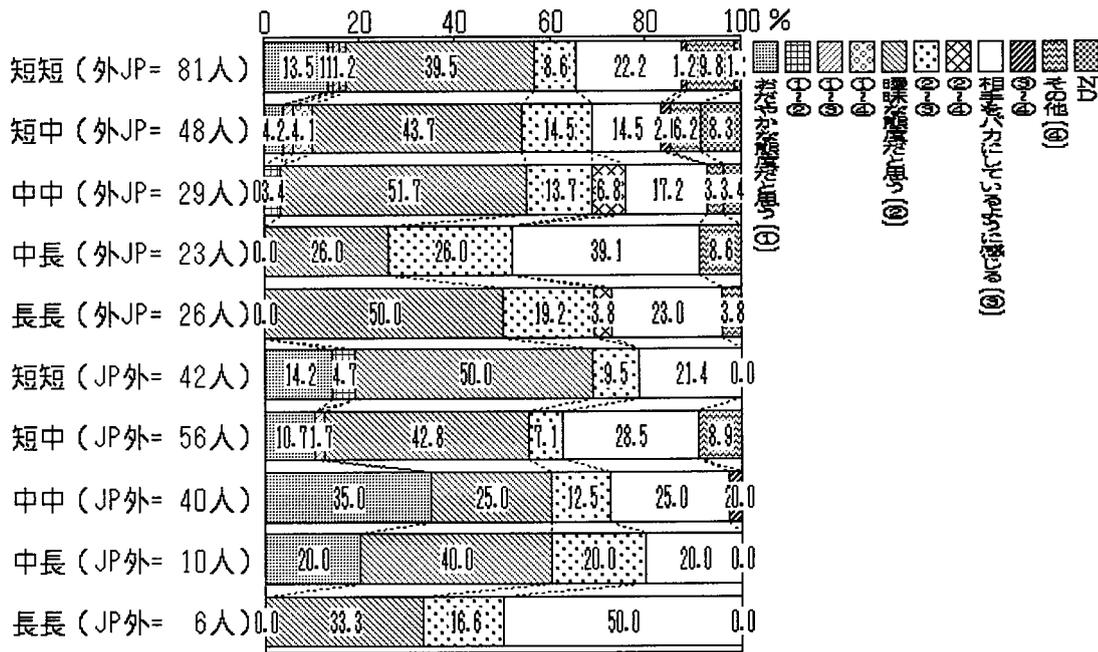
図表Ⅱ-6-29-1 あいまいな返事に伴う<笑い>についての
対照国の人の感じ方(地域別集計) [6.5.4]



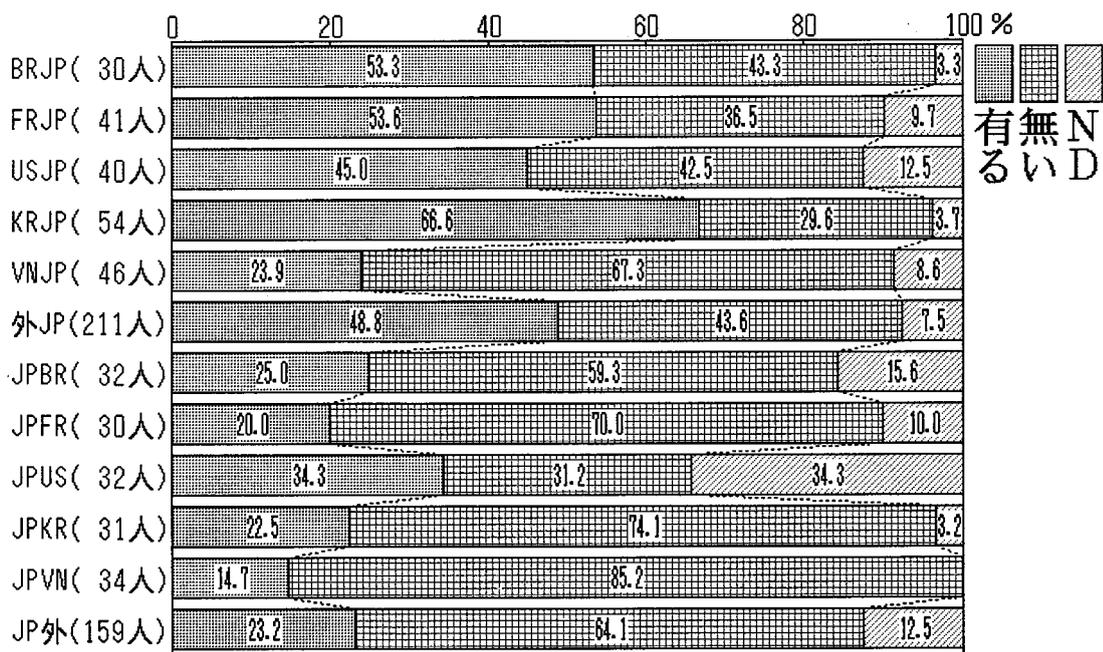
図表Ⅱ-6-29-2 あいまいな返事に伴う<笑い>についての
対照国の人の感じ方(性別集計) [6.5.4]



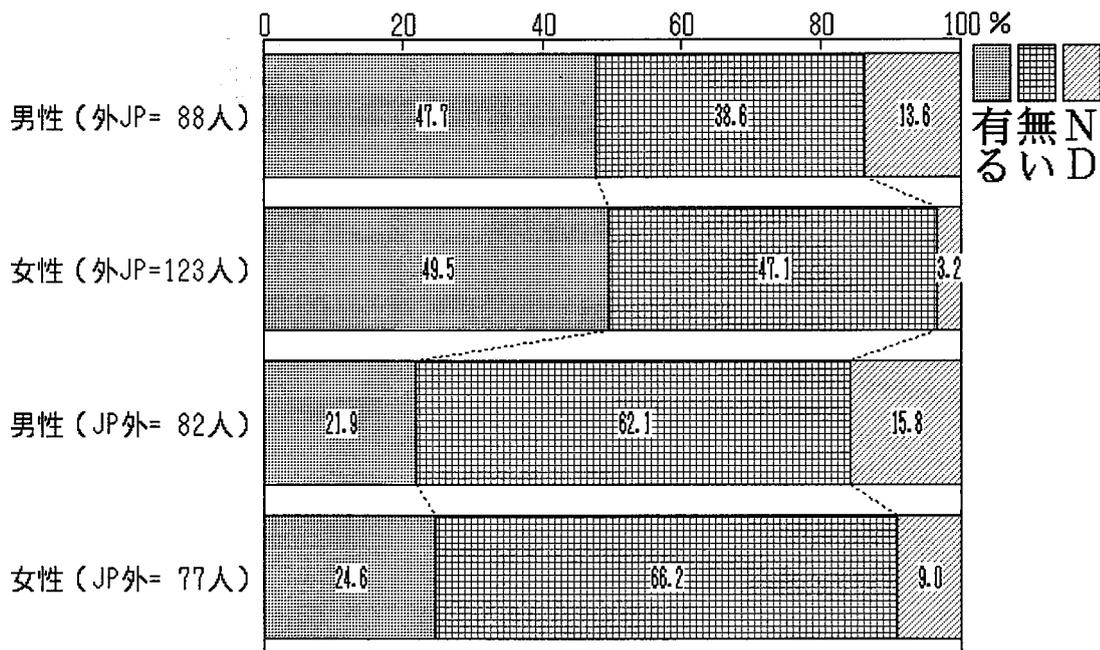
図表Ⅱ-6-29-3 あいまいな返事に伴う<笑い>についての対照国の人の感じ方(年齢層別集計) [6.5.4]



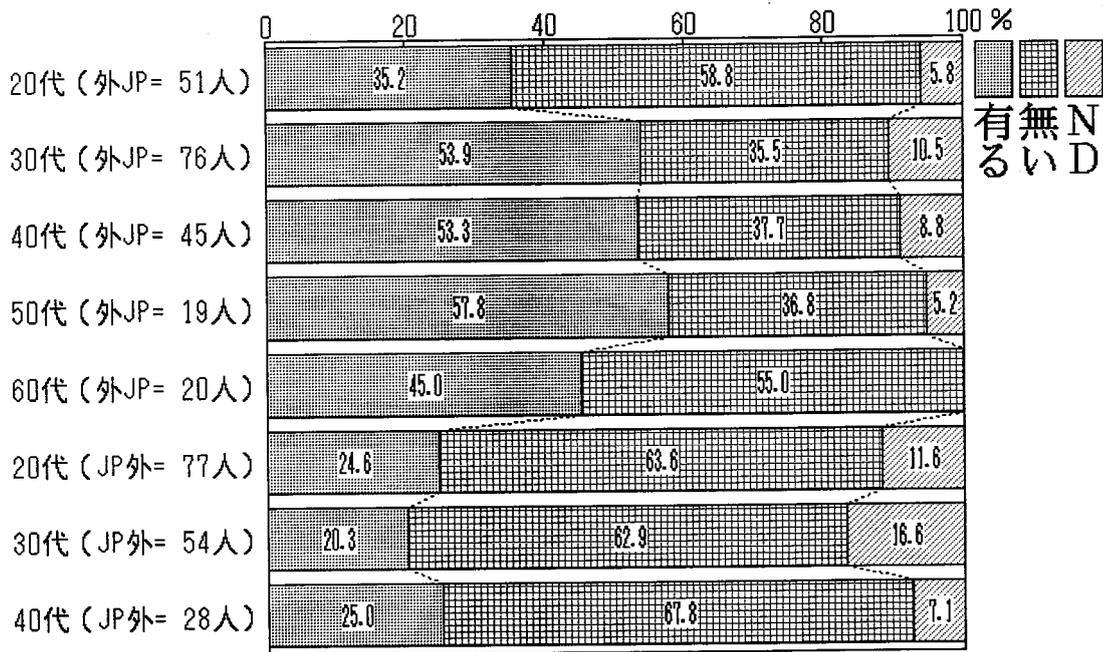
図表Ⅱ-6-29-4 あいまいな返事に伴う<笑い>についての対照国の人の感じ方(滞在年数別集計) [6.5.4]



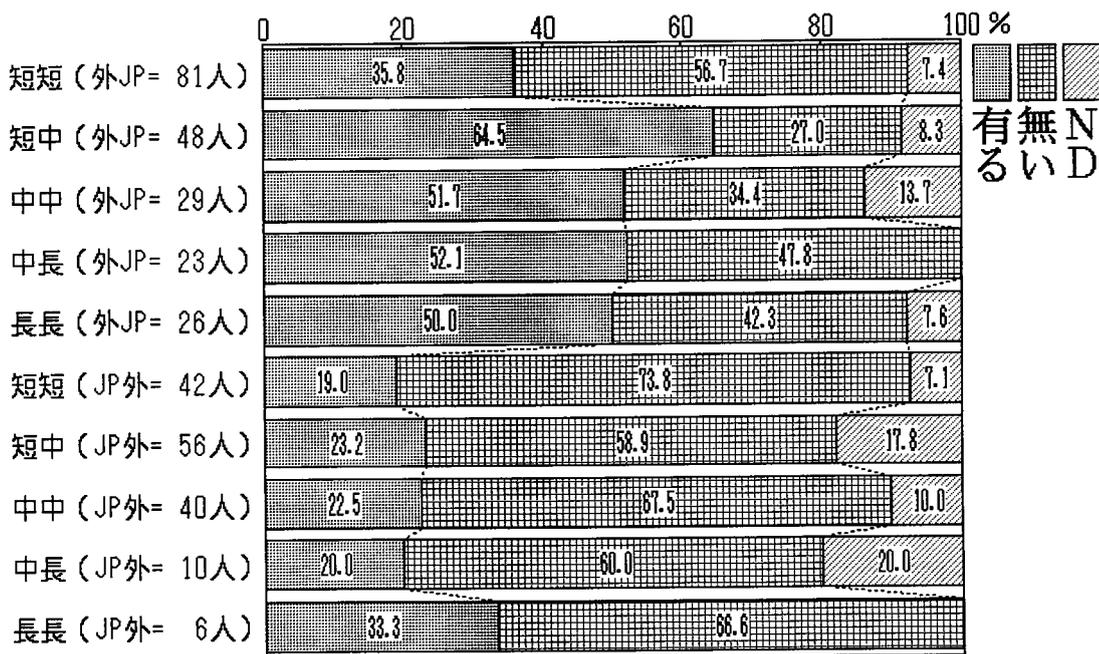
図表Ⅱ-6-30-1 現住国で予想よりはっきりと断わられてとまどった経験(地域別集計) [6.5.5.①]



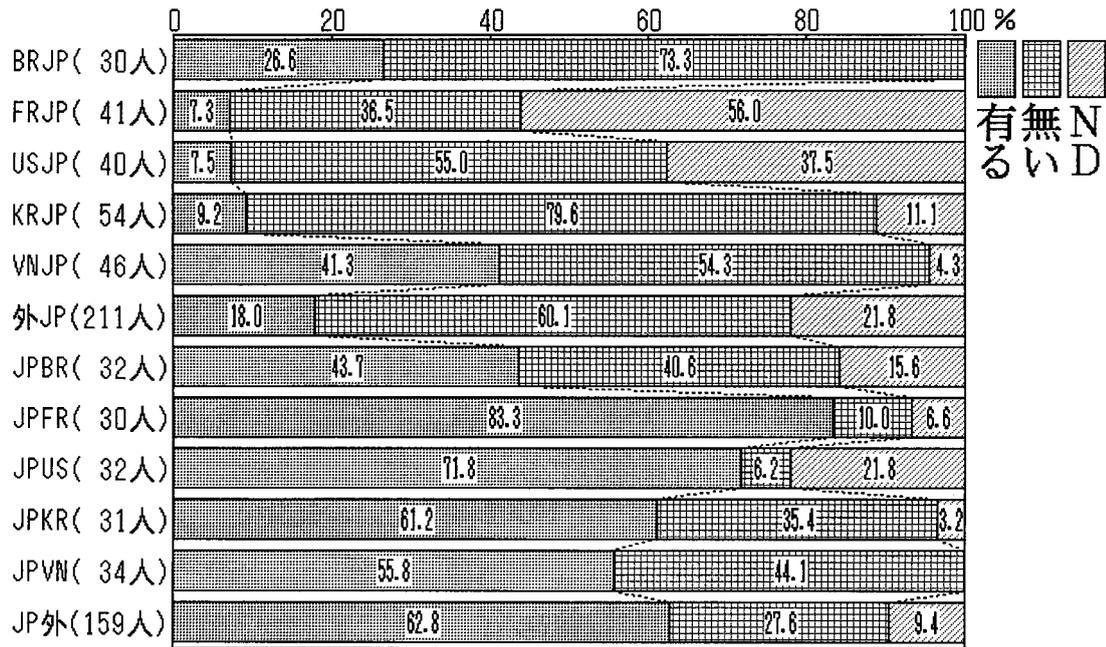
図表Ⅱ-6-30-2 現住国で予想よりはっきりと断わられてとまどった経験(性別集計) [6.5.5.①]



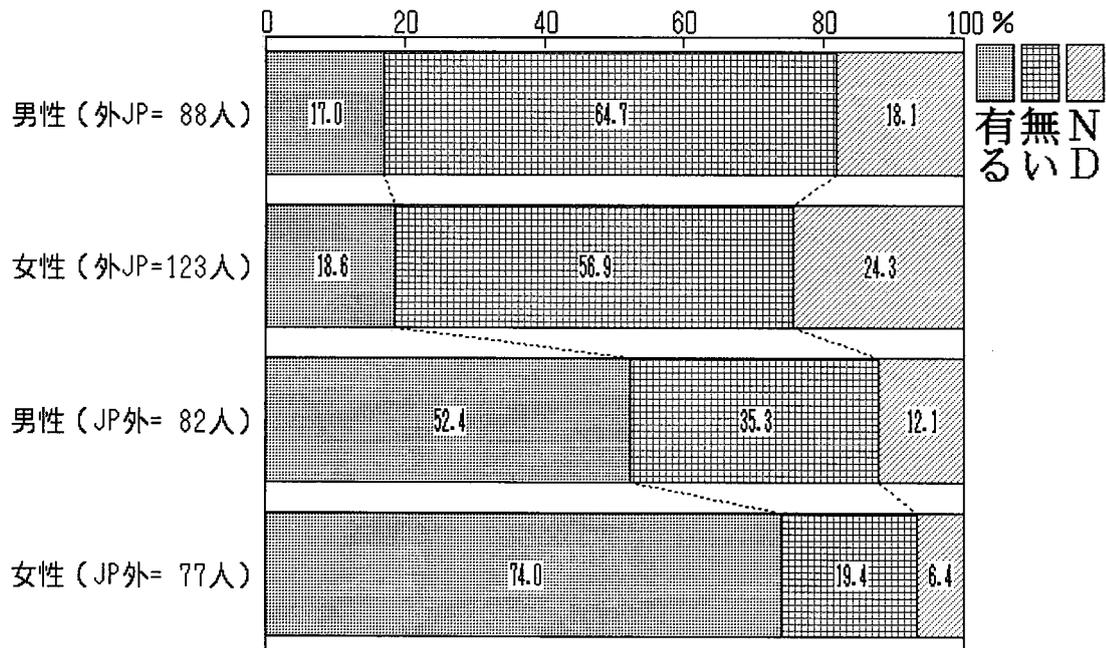
図表Ⅱ-6-30-3 現住国で予想よりはっきりと断わられてとまどった経験(年齢層別集計) [6.5.5.①]



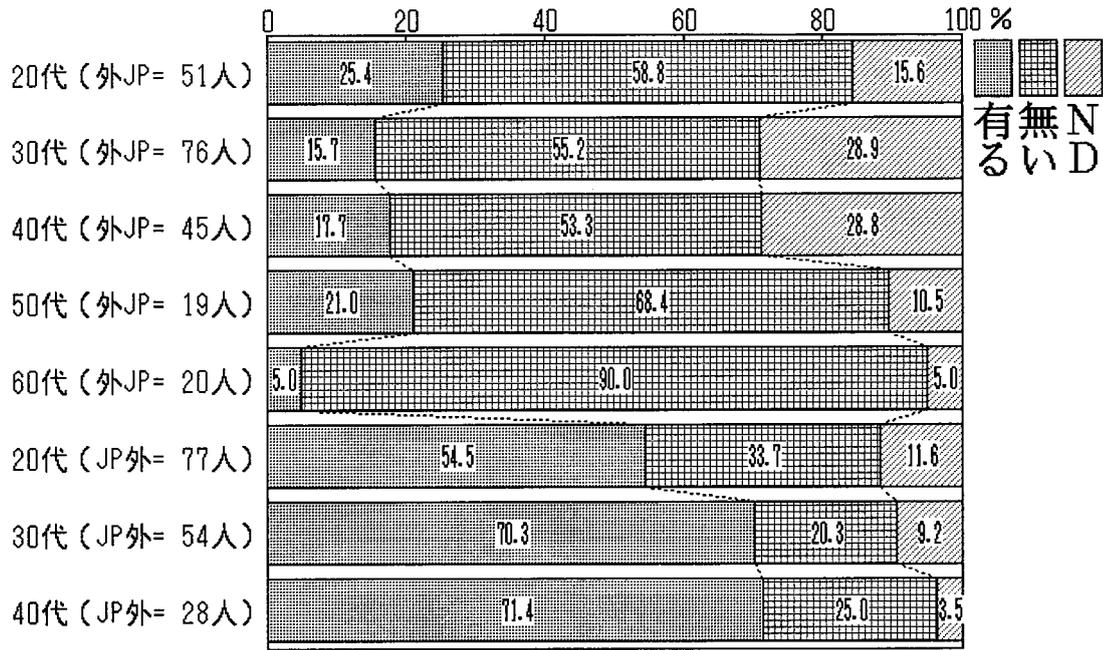
図表Ⅱ-6-30-4 現住国で予想よりはっきりと断わられてとまどった経験(滞在年数別集計) [6.5.5.①]



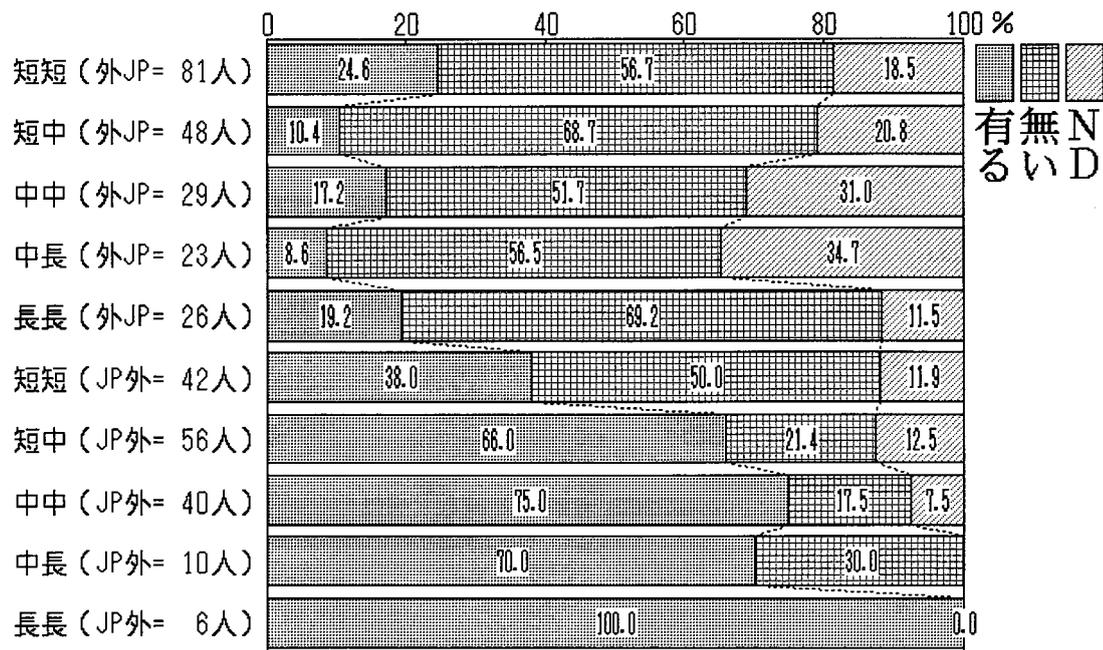
図表Ⅱ-6-31-1 現住国で返事があいまいでとまどった経験（地域別集計） [6.5.5.②]



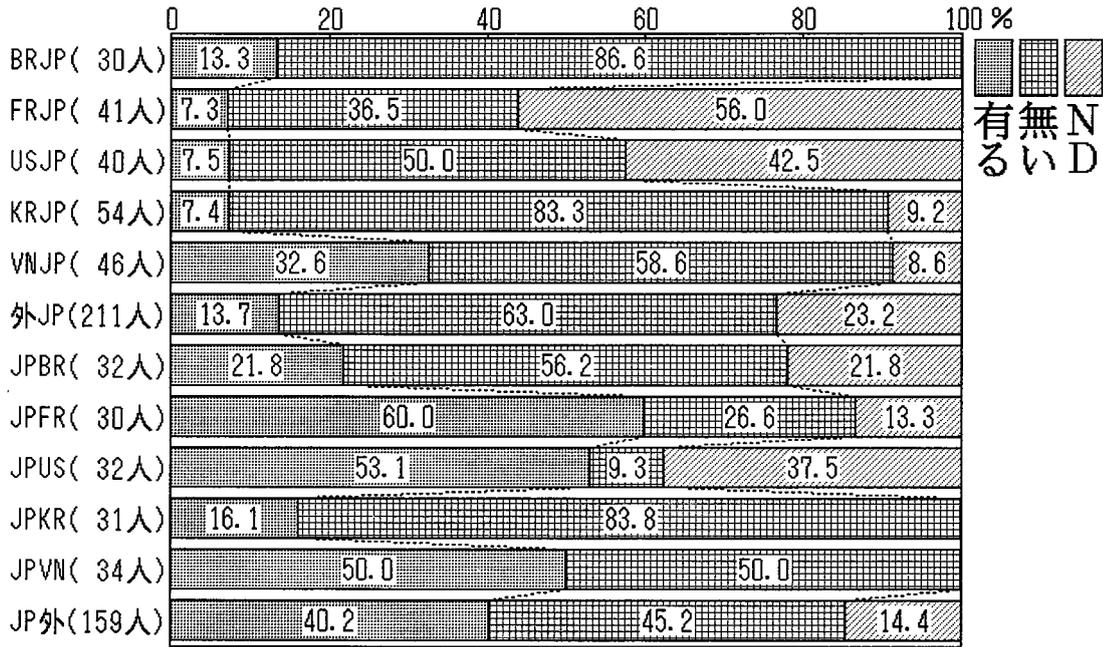
図表Ⅱ-6-31-2 現住国で返事があいまいでとまどった経験（性別集計） [6.5.5.②]



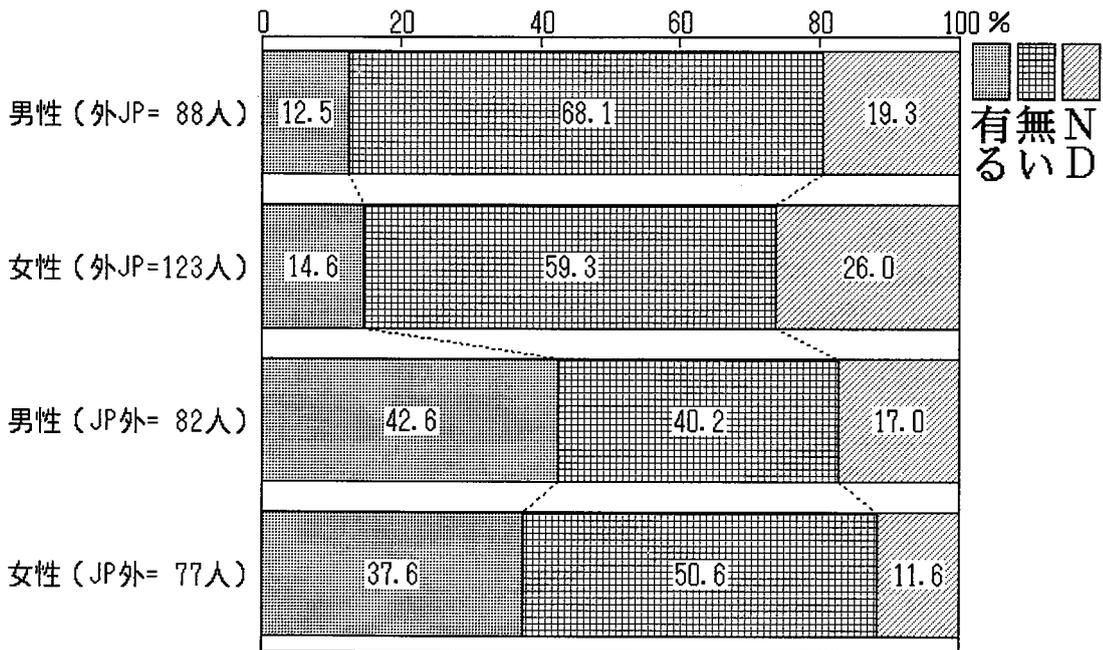
図表Ⅱ-6-31-3 現住国で返事があまいでとまどった経験（年齢層別集計） [6.5.5.②]



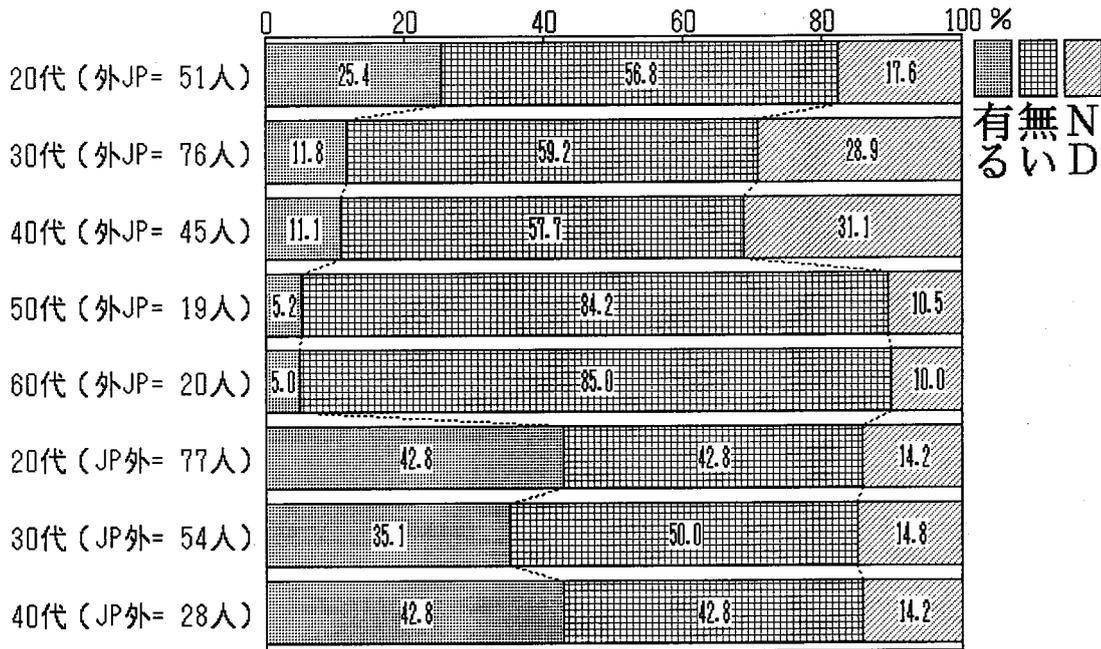
図表Ⅱ-6-31-4 現住国で返事があまいでとまどった経験（滞在年数別集計） [6.5.5.②]



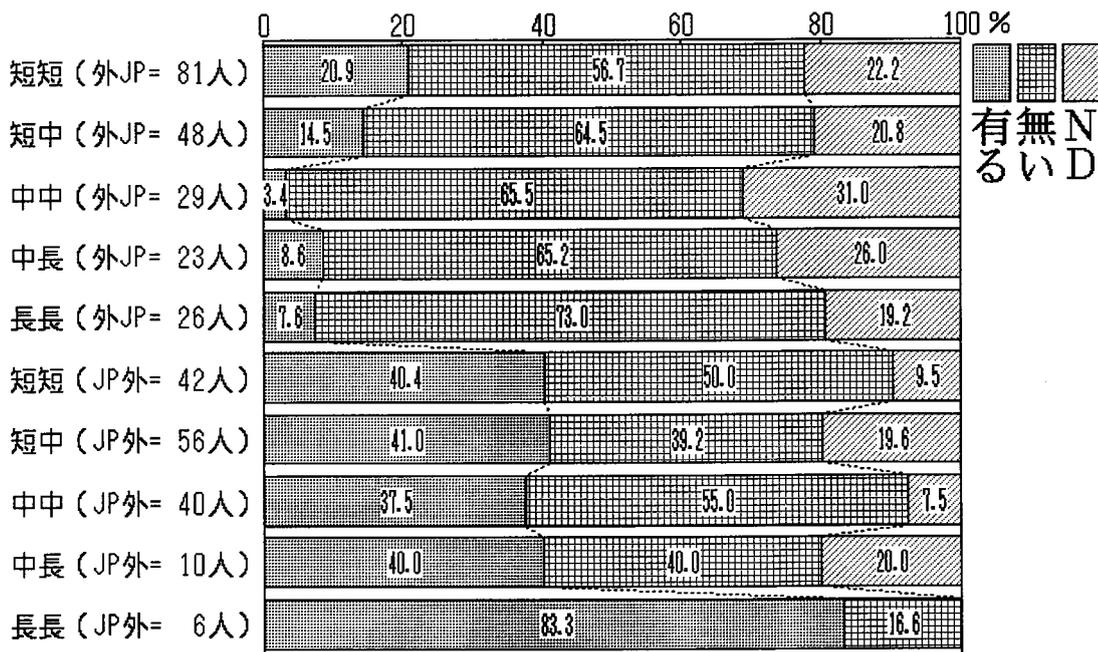
図表Ⅱ-6-32-1 現住国で笑ったり話題をそらされたりしてとまどった経験(地域別集計) [6.5.5.③]



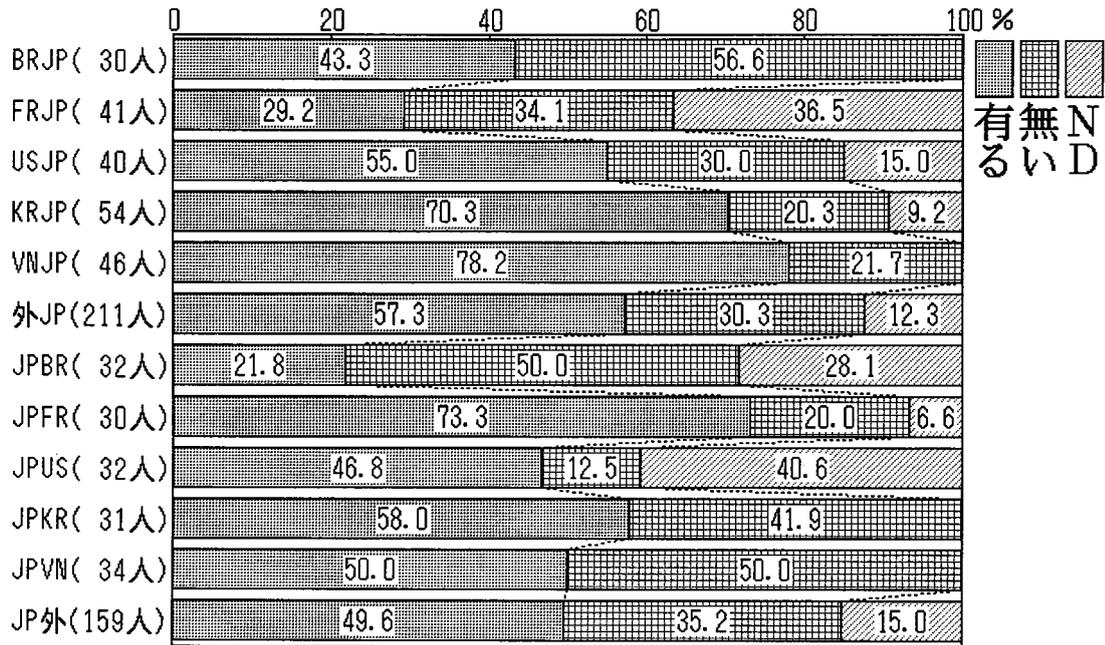
図表Ⅱ-6-32-2 現住国で笑ったり話題をそらされたりしてとまどった経験(性別集計) [6.5.5.③]



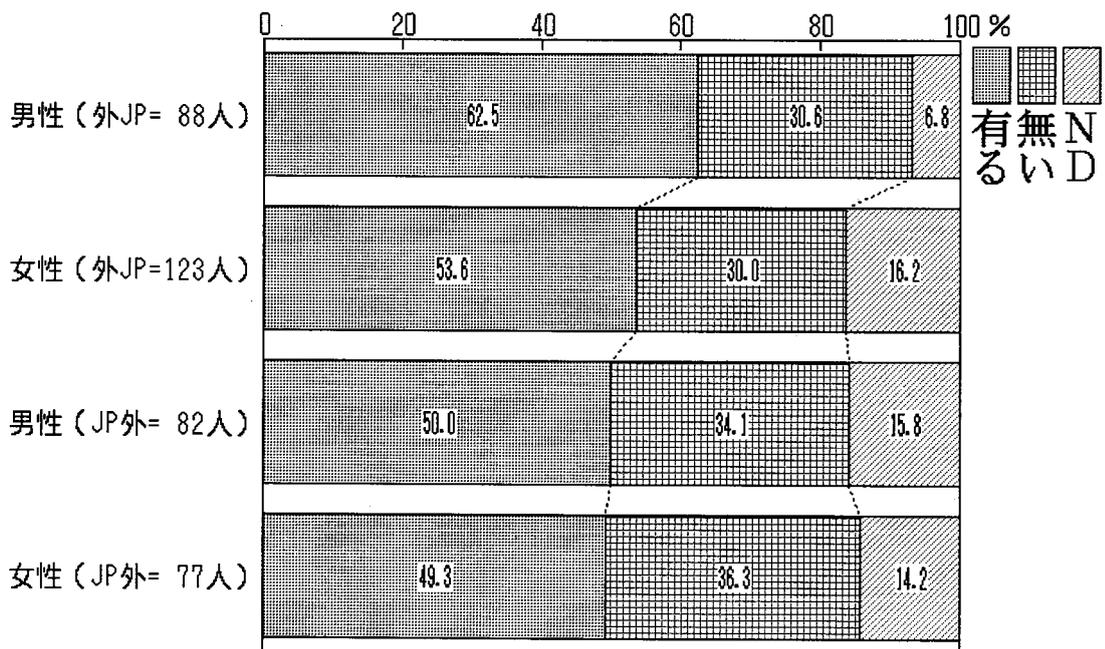
図表Ⅱ-6-32-3 現住国で笑ったり話題をそらされたりしてとまどった経験（年齢層別集計） [6.5.5.③]



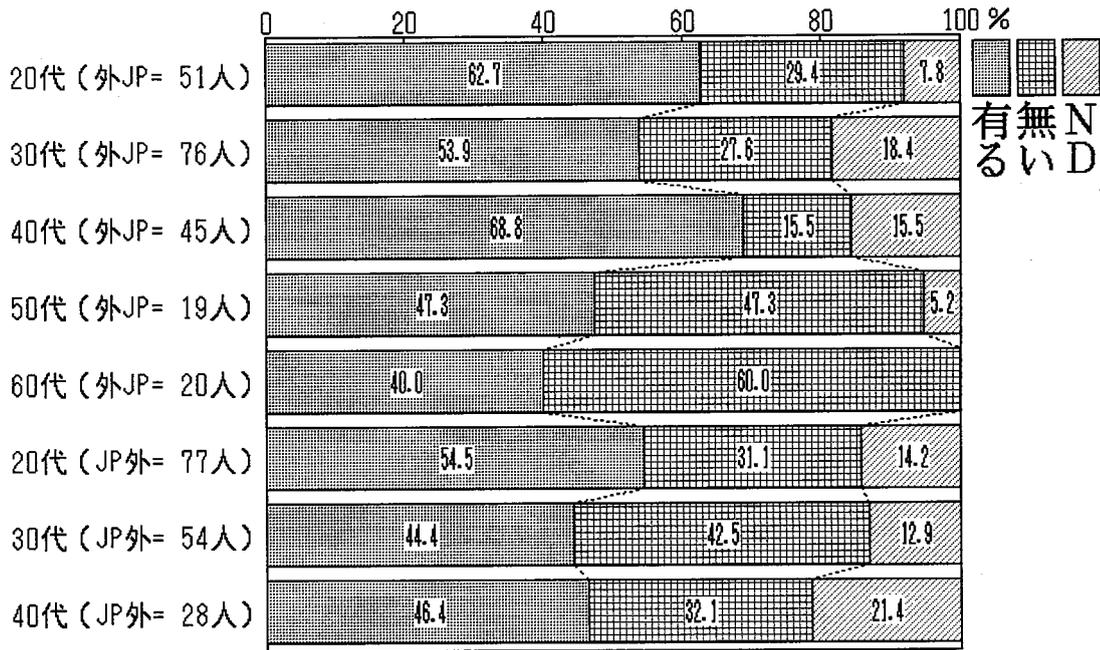
図表Ⅱ-6-32-4 現住国で笑ったり話題をそらされたりしてとまどった経験（滞在年数別集計） [6.5.5.③]



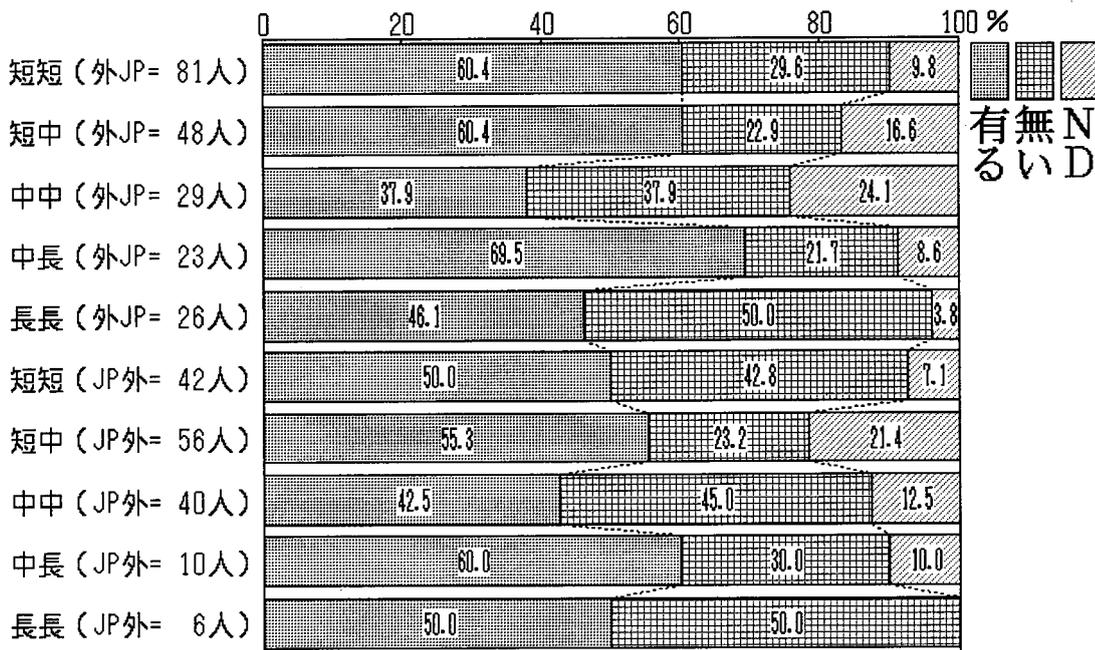
図表Ⅱ-6-33-1 現住国で了解がくいちがっていた経験（地域別集計） [6.5.5.④]



図表Ⅱ-6-33-2 現住国で了解がくいちがっていた経験（性別集計） [6.5.5.④]



図表Ⅱ-6-33-3 現住国で了解がくいちがっていた経験 (年齢層別集計) [6.5.5.④]



図表Ⅱ-6-33-4 現住国で了解がくいちがっていた経験 (滞在年数別集計) [6.5.5.④]